

研究紀要 第37号

第15次研究 1年次

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方

～目標達成に向けた授業構築～

平成24年3月



上川教育研修センター

発 刊 に 当 た っ て

上川教育研修センター所長 相 澤 政 義

教育基本法，学校教育法の一部改正がなされ，新しい時代にふさわしい教育の在り方が求められている中で，「生きる力」の育成が今まで以上に求められています。このような中で，「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視した学習指導要領が，小学校，中学校ともに全面実施となり，まさに新しい教育の方向が各学校の各教室において実践に移されることとなります。

特に，北海道においては，「確かな学力」を着実に身に付け，その活用を図ることができる児童生徒の育成が喫緊の課題であり，「基礎的な知識・技能の習得」，「これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力等の育成」，そして，「学習意欲を向上させ，主体的に学習に取り組む態度を養う」を通して，学力の向上を図る必要があります。

このことを踏まえ，当教育研修センターでは，第14次研究までに明らかにしてきた「主体的に学ぶ学習過程」「指導内容の明確化」「児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の工夫」などの研究成果を基盤として今年度より「学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方～目標達成に向けた授業構築～」を研究主題に掲げ，研究を進めていくこととしました。

3か年にわたる研究においては，「指導計画の工夫」「授業展開の工夫」「学習評価の工夫」を研究内容として，指導と評価の在り方を基本的な視点から見直しを図り，理論構築と実践検証の両面から研究に努めてまいります。

本年度は，研究員による研究授業と当麻町立当麻小学校，旭川市立正和小学校，旭川市立知新小学校，旭川市立緑が丘小学校，旭川市立愛宕中学校の実践を通して研究を進めてまいりました。5校の研究協力校の皆様に，改めて厚くお礼を申し上げます。

ここに3年次計画の1年次の研究として研究紀要第37号を発刊する運びとなりました。各学校の校内研修や授業実践の資料としてご活用いただければ幸いです。

結びに，研究推進に当たりまして，ご指導・ご助言をいただきました北海道教育庁上川教育局と旭川市教育委員会の指導主事の皆様に心から感謝申し上げます，研究紀要発刊の言葉といたします。

(平成24年3月)

目 次

発刊に当たって

第Ⅰ章	研究の概要	1
1	研究主題及び副主題	
2	求める児童生徒像	
3	研究の仮説	
4	研究内容	
5	研究の進め方	
6	研究計画の概要	
7	研究の全体構造	
第Ⅱ章	研究内容	7
1	第15次研究のねらい	
2	研究の具体	
第Ⅲ章	研究員の授業実践	19
○	小学6年 社会科 小野 義幸	
○	小学1年 算数科 北川 真美	
第Ⅳ章	研究協力校の授業実践	47
○	当麻町立当麻小学校 2年 生活科	
○	旭川市立正和小学校 5年 算数科	
○	旭川市立知新小学校 5年 国語科	
○	旭川市立緑が丘小学校 3年 国語科	
○	旭川市立愛宕中学校 2年 理 科	
第Ⅴ章	研究の成果と課題	107

あとがき

第I章 研究の概要

- 1 研究主題及び副主題
- 2 求める児童生徒像
- 3 研究の仮説
- 4 研究内容
- 5 研究の進め方
- 6 研究計画の概要
- 7 研究の全体構造

1 研究主題及び副主題

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方

～目標達成に向けた授業構築～

(1) 主題設定の理由

平成18年に約60年ぶりに教育基本法が改正された。教育の理念として新たに、公共の精神、環境の保全、伝統と文化の尊重などが規定された。この60年で教育をとりまく環境は大きく変わった。知識基盤社会やグローバル化は、知識や人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させている。

このような状況において、新しい時代にふさわしい教育の在り方が求められることとなった。これからますます重要となっている「生きる力」という理念を継承し、「生きる力」を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した学習指導要領の改訂がされ、小学校では平成23年度から全面実施となった。また、中学校では平成24年度から全面実施となる。

確かな学力を育成するためには、基礎的・基本的な知識・技能を習得させること、これらを活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむことの双方が重要である。また、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことも大切である。それは、「教える」として、主体的に「学ぶ」としてのバランスを重視することでもある。そのためには、学習指導の工夫・改善を進めるとともに、児童生徒の学習状況を適切に評価することが必要である。

学習評価については、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の下に、児童生徒の学習評価の在り方に関するワーキンググループが設置され、平成22年3月に「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）が取りまとめられた。報告では、学習評価の改善にかかわる3つの基本的な考え方が示された。

- 目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価や評定の着実な実施
- 学力の重要な要素を示した新学習指導要領等の趣旨の反映
- 学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進

これらを踏まえ、上川教育研修センターでは、第14次研究までに明らかにしてきた「主体的に学ぶ学習過程」「指導内容の明確化」「児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導の工夫」などについての財産を基盤に、新しい研究を進めることとした。

そこで、指導と評価の在り方を基本的な視点から見直し、目標達成に向けた授業構築を目指すため、本研究主題を設定した。

第 I 章

(2) 主題のおさえ

「学力」を学校教育法第30条の2項に示されている「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」より、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、学習意欲の3つの要素からなる力とおさえる。また、児童生徒一人一人に、これら学力の3要素を確実に身に付けさせることが「確実な育成」である。

2 求める児童生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら、主体的に課題を解決することができる児童生徒

3 研究の仮説

学習指導において、1単位時間の目標を具体的に設定し、指導計画に位置付けるとともに、目標達成に向けた手立てを工夫し、その達成状況を計画的に評価しながら、目標・指導・評価の一体化を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら、主体的に課題を解決する児童生徒を育成することができるであろう。

4 研究内容

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方を検証するために、次の内容について研究する。

研究内容1 ～指導計画の工夫～

- (1) 問題解決的な学習過程を基盤とした指導計画の在り方
- (2) 1単位時間の目標の具体化及び、指導内容の明確化

研究内容2 ～授業展開の工夫～

- (1) 目標達成につながる学習課題(学習問題)の設定及び、学習内容の提示
- (2) 思考を促し、深める発問・指示の工夫
- (3) 学習の流れが分かる板書の工夫
- (4) 目標達成につながる言語活動の設定

研究内容3 ～学習評価の工夫～

- (1) 児童生徒の実態を把握する診断的評価の在り方
- (2) 指導に生かす形成的評価の在り方
- (3) 単元の目標達成状況を把握する総括的評価の在り方

〈基本的な用語のおさえ〉

研究内容 1 にかかわって

(1) 問題解決的な学習過程

本研究で扱う問題解決的な学習過程の基本展開は、「学習課題の把握→解決計画(見通し)→追究・解決→まとめ・発展」である。この基本展開を以下の3つに分けて考えている。

「見付ける」……………学習課題の把握

「求める」……………解決計画(見通し), 追究・解決

「高める」……………まとめ・発展

研究内容 2 にかかわって

(1) 学習課題(学習問題)

事象との出会いから見いだされた、解決すべき内容。児童生徒の課題発見能力と教師のねらいとが融合した中で設定される。本研究では、学習課題と学習問題は同義ととらえ、以下、学習課題として表記する。

(2) 学習内容

学習課題の解決に向けて教師が提示したり、問いかけたりして示された1単位時間の授業において学習する内容。

研究内容 3 にかかわって

(1) 診断的評価

実際の指導に先立って、児童生徒の現状を診断し、最適の指導方法を準備するために行われる予備的な評価。

(2) 形成的評価

学習指導過程の中で、児童生徒の学習の到達状況やつまずきの状況などを把握するために行う評価。

(3) 総括的評価

単元の指導後、学習指導の効果を確認するために実施される事後評価。

5 研究の進め方

- ◇ 文献や実践資料に基づく理論研究を週1回の定例研究室会議及び夏季、冬季の集中研究室会議において進める。
- ◇ 各年次とも、上川教育研修センターの研究員及び、研究協力校の授業実践を基にして理論を検証し、研究紀要にまとめる。
- ◇ 研究紀要にまとめた内容は、「センター研究発表会」において発表し、研究協議で明らかにされた成果と課題を基に、研究の深化・発展を図る。
- ◇ 本研究の主体は、国語科、社会科、算数数学科、理科、生活科、音楽科、図工美術科、技術家庭科、保健体育科、英語科の10教科である。

第 I 章

6 研究計画の概要

平成23年度から平成25年度にわたる3か年において、目標・指導・評価の一体化を図る学習指導の在り方を継続して研究する。

1 年次 平成23年度

研究員の授業実践

東神楽町立東聖小学校	社会科(小学6年「武士の政治が始まる」)
旭川市立神楽小学校	算数科(小学1年「おおきさくらべ(1)」)

研究協力校の授業実践

当麻町立当麻小学校	生活科(小学2年「おみせたんけん」)
旭川市立正和小学校	算数科(小学5年「いろいろな三角形・四角形の面積」)
旭川市立知新小学校	国語科(小学5年「大造じいさんとガン」)
旭川市立緑が丘小学校	国語科(小学3年「ちいちゃんのかげおくり」)
旭川市立愛宕中学校	理科(中学2年「雲のでき方」)

2 年次 平成24年度

研究員の授業実践

研究協力校の授業実践

3 年次 平成25年度

研究員の授業実践

研究協力校の授業実践

7 研究の全体構造

研究主題

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方

～目標達成に向けた授業構築～

求める児童生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら、主体的に課題を解決することができる児童生徒

研究の仮説

学習指導において、1 単位時間の目標を具体的に設定し、指導計画に位置付けるとともに、目標達成に向けた手立てを工夫し、その達成状況を計画的に評価しながら、目標・指導・評価の一体化を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら、主体的に課題を解決する児童生徒を育成することができるであろう。

研究内容

【研究内容 1】
指導計画の工夫

- ・問題解決的な学習過程を基盤とした指導計画の在り方
- ・1 単位時間の目標の具体化及び、指導内容の明確化

【研究内容 2】
授業展開の工夫

- ・目標達成につながる学習課題(学習問題)の設定及び、学習内容の提示
- ・思考を促し、深める発問・指示の工夫
- ・学習の流れが分かる板書の工夫
- ・目標達成につながる言語活動の設定

【研究内容 3】
学習評価の工夫

- ・児童生徒の実態を把握する診断的評価の在り方
- ・指導に生かす形成的評価の在り方
- ・単元の目標達成状況を把握する総括的評価の在り方

知識・技能の習得, 思考力・判断力・表現力等の育成

主体的に学習に取り組む態度(学習意欲)

「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，小学校は平成23年3月，中学校は平成23年7月に，国立教育政策研究所より出されました。参考資料は，以下のように評価を進める際のそれぞれの場面で活用できるように作成されています。

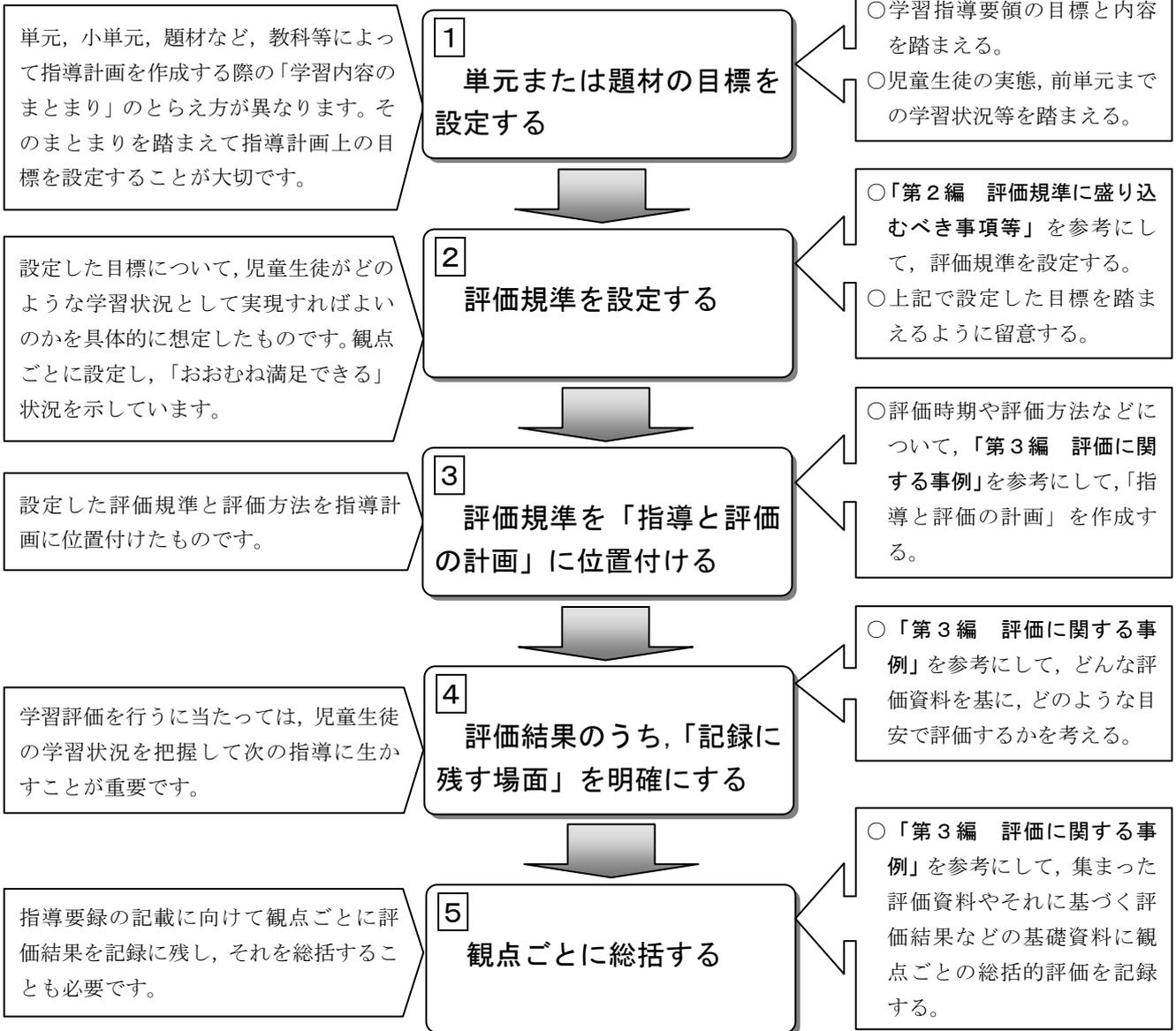
■参考資料に掲載されている内容

第1編 総説(学習評価の基本的な考え方についての解説)

第2編 評価規準に盛り込むべき事項等

第3編 評価に関する事例(各教科4事例程度)

□評価の進め方



☞ 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」の活用方法についてより抜粋

第Ⅱ章 研究内容

1 第15次研究のねらい

2 研究の具体

1 第15次研究のねらい

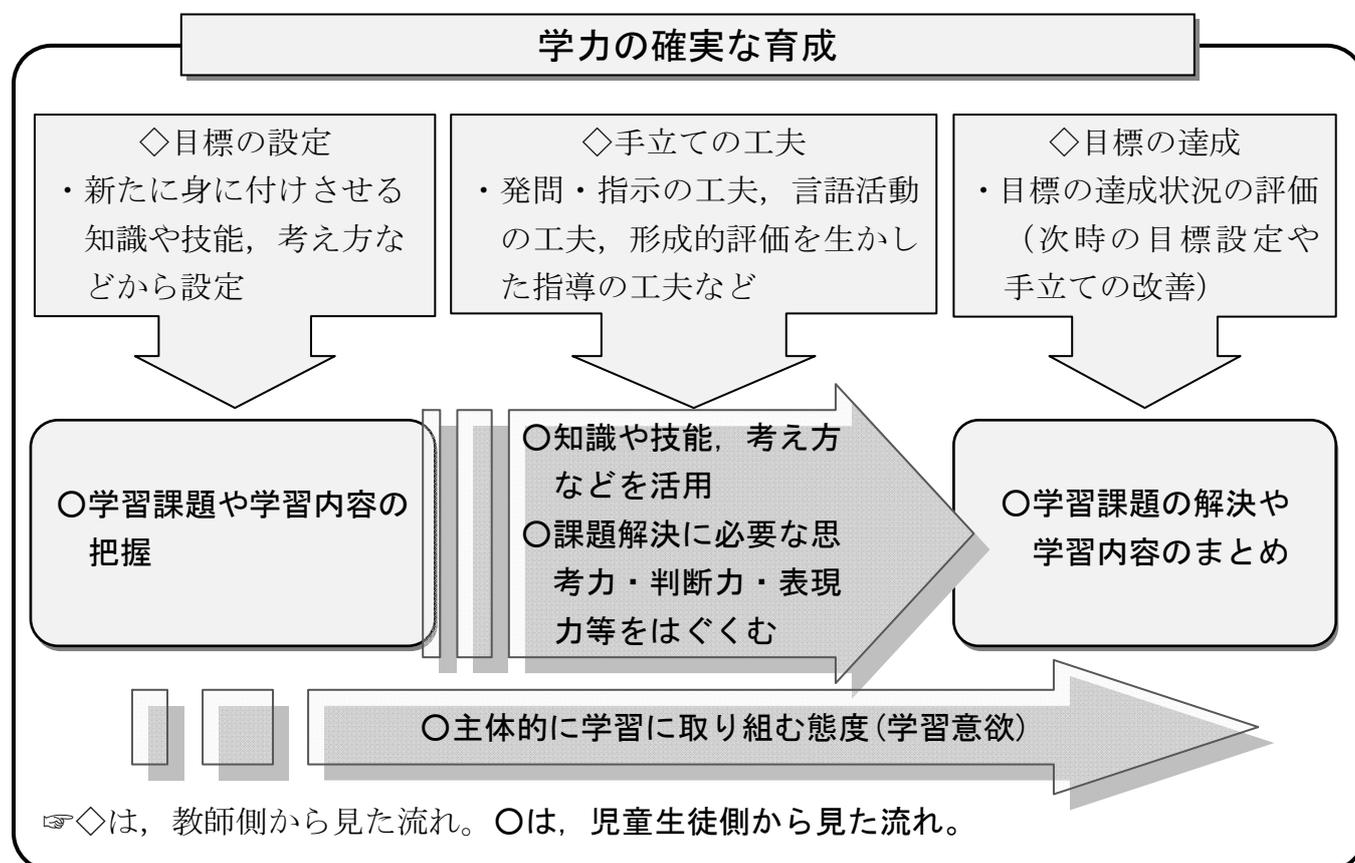
本研究は、児童生徒一人一人が基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、思考力・判断力・表現力等をはぐくみながら、主体的に課題を解決することを目指している。これら学力の3要素を、児童生徒一人一人が確実に身に付けるためには、1単位時間の目標を具体的に設定し、指導計画に位置付けるとともに、目標達成のための授業展開を工夫することが重要である。また、児童生徒一人一人の目標達成状況を計画的に評価することも必要である。

そこで、本研究では、「指導計画の工夫」「授業展開の工夫」「学習評価の工夫」を研究内容とし、目標・指導・評価の一体化を図りながら、1単位時間の目標達成を目指した授業の在り方を研究の骨子とした。

本研究の基盤を成しているのは、1単位時間の目標の設定とその達成である。目標は、1単位時間の授業において、児童生徒一人一人に身に付けさせなければならない新たな知識や技能、考え方などから設定されている。これらは、学力の3要素と深く関連している。したがって、目標が達成されたということは、児童生徒一人一人が新たな知識や技能、考え方などを身に付けたということである。この積み重ねによって単元の目標が達成され、学力の3要素を確実に身に付けることにつながると考える。

なお、1単位時間の授業において教師が設定した目標は、学習課題や学習内容とも関連している。したがって1単位時間の目標達成は、児童生徒一人一人が、様々な知識や技能、考え方などを活用しながら思考力・判断力・表現力等をはぐくみ、学習課題を解決したり、学習内容を的確にまとめたりすることであると考える。

◆学力の確実な育成の構造(1単位時間の授業の基本的な流れ)



2 研究の具体

研究内容 1

指導計画の工夫

児童生徒一人一人に、学力を確実に身に付けさせるためには、学習指導要領の目標及び内容を踏まえ、単元のねらい(教材観)や児童生徒の実態(児童生徒観)、育てたい力(指導観)を総合的に判断し、単元の目標を設定することが重要である。したがって、指導計画は単元の目標を踏まえ、問題解決的な学習過程を生かして作成することが必要である。

問題解決的な学習過程では、児童生徒一人一人が、知識や技能、考え方などを活用しながら課題解決を行う。その中で、思考力・判断力・表現力等をはぐくみ、新たな知識や技能、考え方などを身に付けることができる。さらに、指導計画に位置付けられる1単位時間の目標を具体的に設定することにより、児童生徒にどのような知識や技能、考え方などを身に付けさせなければならないかを明らかにすることができる。

そこで本研究では、問題解決的な学習過程を基盤とした指導計画の在り方と、1単位時間の目標の具体化及び、指導内容の明確化について考えていくこととした。

問題解決的な学習過程
を基盤とした指導計画
の在り方

指導計画を作成するときには、問題解決的な学習過程を基盤に、児童生徒の思考の流れに沿って、単元や1単位時間の目標と、学習課題や学習内容とを関連付けることが重要である。また、指導計画は教科の特性と関連しているため、それぞれの教科に応じた指導計画を、適切に作成することが大切である。

本研究では、問題解決的な学習過程を児童生徒の思考の流れであるにとらえ、基本展開を、「学習課題の把握(見付ける)→解決計画、追究・解決(求める)→まとめ・発展(高める)」としている。(☞p. 3「基本的な用語のおさえ」)

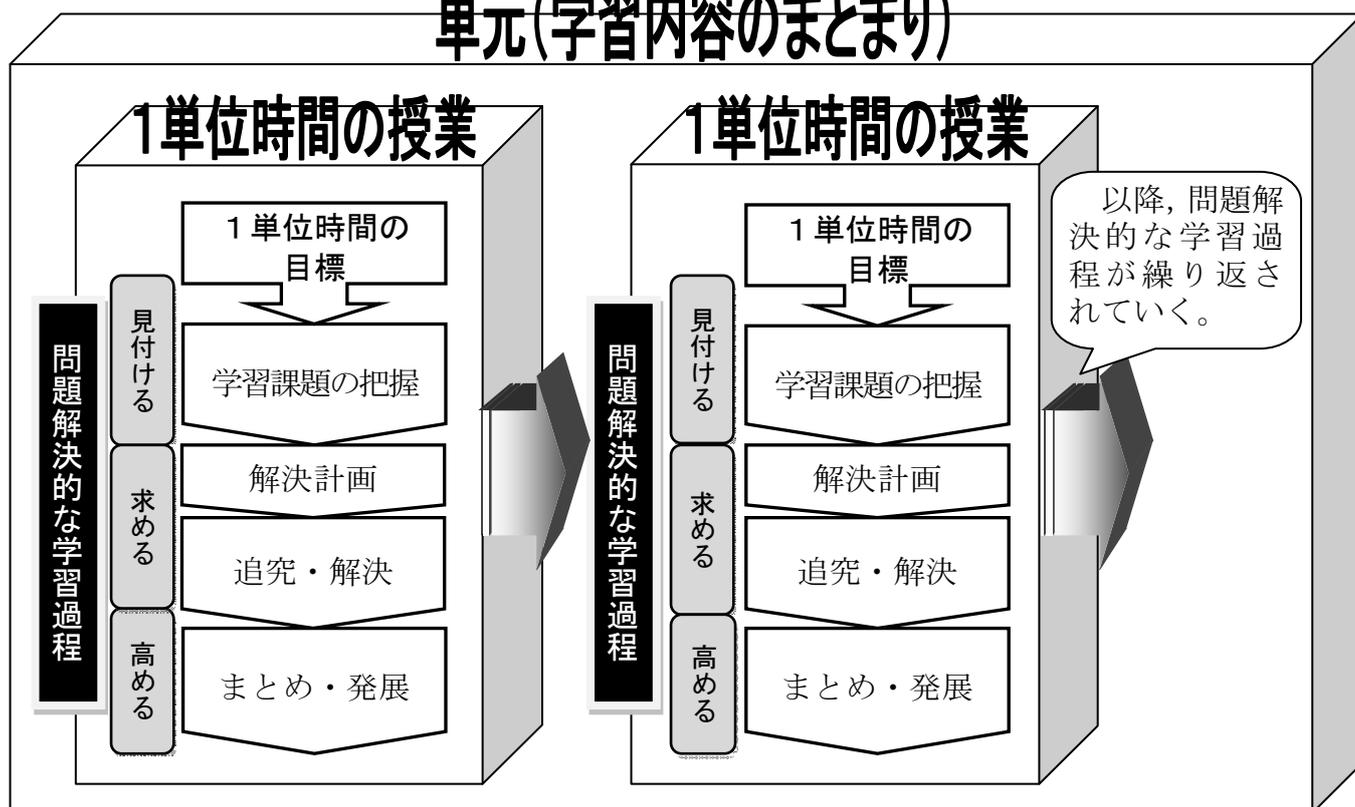
基本的に、一つの問題解決的な学習過程において設定される学習課題は、一つであると考えている。また、単元の目標を達成させるための指導計画を、基本的に「1単位時間ごとに、問題解決的な学習過程が展開される場合(A)」と、「単元全体を通して、問題解決的な学習過程が展開される場合(B)」とに大別している。Bの場合、1単位時間の授業において児童生徒に提示されるのは、学習課題ではなく、学習内容とおさえしている。(☞p. 9に図示)

このように、問題解決的な学習過程を基盤に指導計画を工夫することにより、単元全体を通して児童生徒一人一人に身に付けさせなければならない知識や技能、考え方などが明らかにできると考える。

なお、どちらの学習過程においても、1単位時間ごとの目標達成の流れは、p. 7で示した「学力の確実な育成の構造」(1単位時間の授業の基本的な流れ)と同様である。

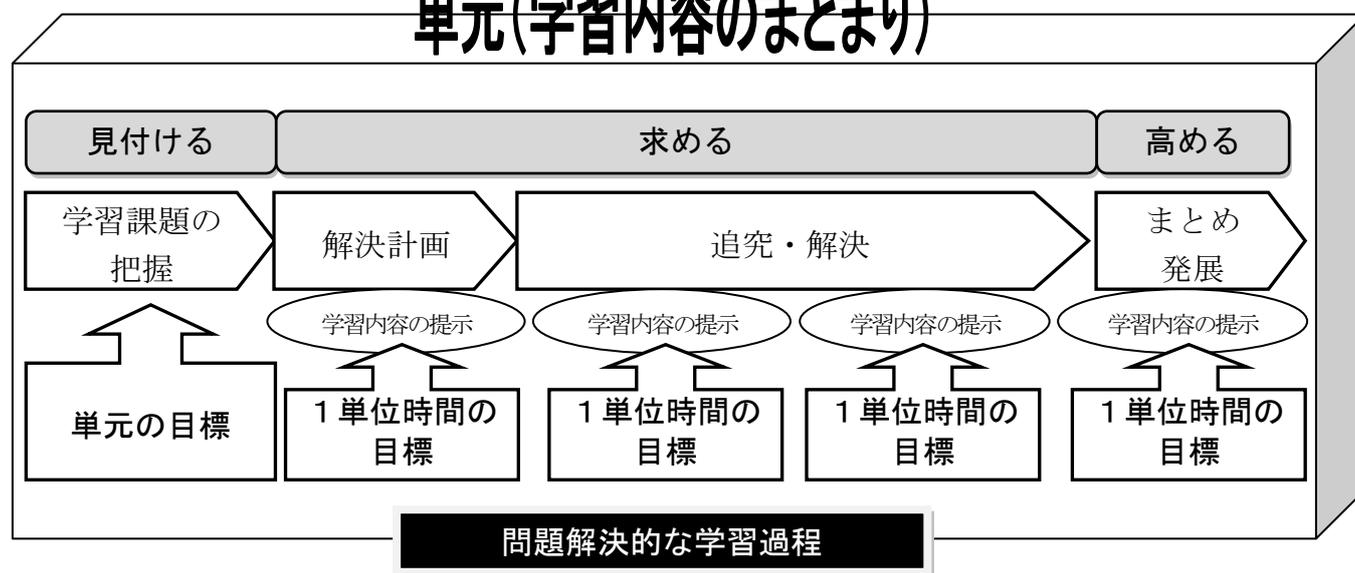
◆ A 1 単位時間ごとに、問題解決的な学習過程が展開される場合

単元(学習内容のまとめ)



◆ B 単元全体を通して、問題解決的な学習過程が展開される場合

単元(学習内容のまとめ)



■ 単元や 1 単位時間の目標と学習課題との関連 ■

○ A の場合は、1 単位時間の目標と学習課題とが関連する。

○ B の場合は、単元の目標と学習課題とが関連する。また、1 単位時間の目標は、1 単位時間において示される学習内容と関連する。

1 単位時間の目標の具体化及び、指導内容の明確化

1 単位時間の目標を具体化するときには、1 単位時間の評価規準との関連を考えながら設定することが重要である。そのためには、目標の達成状況を評価する 1 単位時間の評価規準を具体化する必要がある。1 単位時間の評価規準には、児童生徒一人一人が身に付けなければならない知識や技能、考え方などが明記されている。これらは、1 単位時間の目標に設定される事項である。したがって、1 単位時間の目標と 1 単位時間の評価規準とを関連付け、児童生徒一人一人の目標達成状況を確実にとらえていくことが大切である。

本研究では、児童生徒一人一人の目標達成状況を確実にとらえるために、1 単位時間の目標を、重点化した 1 単位時間の評価規準の内容にまで具体化している。（☞下記「目標の具体化の例」）

このように目標を具体化することにより、1 単位時間における指導内容が明確になり、目標達成に向けて具体的な手立てを講じることができると考える。また、その達成状況を適切に評価することもできると考える。

なお、「1 単位時間の目標の具体化及び、指導内容の明確化の手順」については、p. 11 に示してある。

◆目標の具体化の例① ～評価規準を一つの観点に重点化した場合～

※小学 1 年算数科「おおきさくらべ(1)」の指導計画より抜粋

時	指導目標	評価規準及び方法
4	◎複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解できるようにする。	〈知〉学習プリント 複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解している。

「知識・理解」の評価規準と同内容。

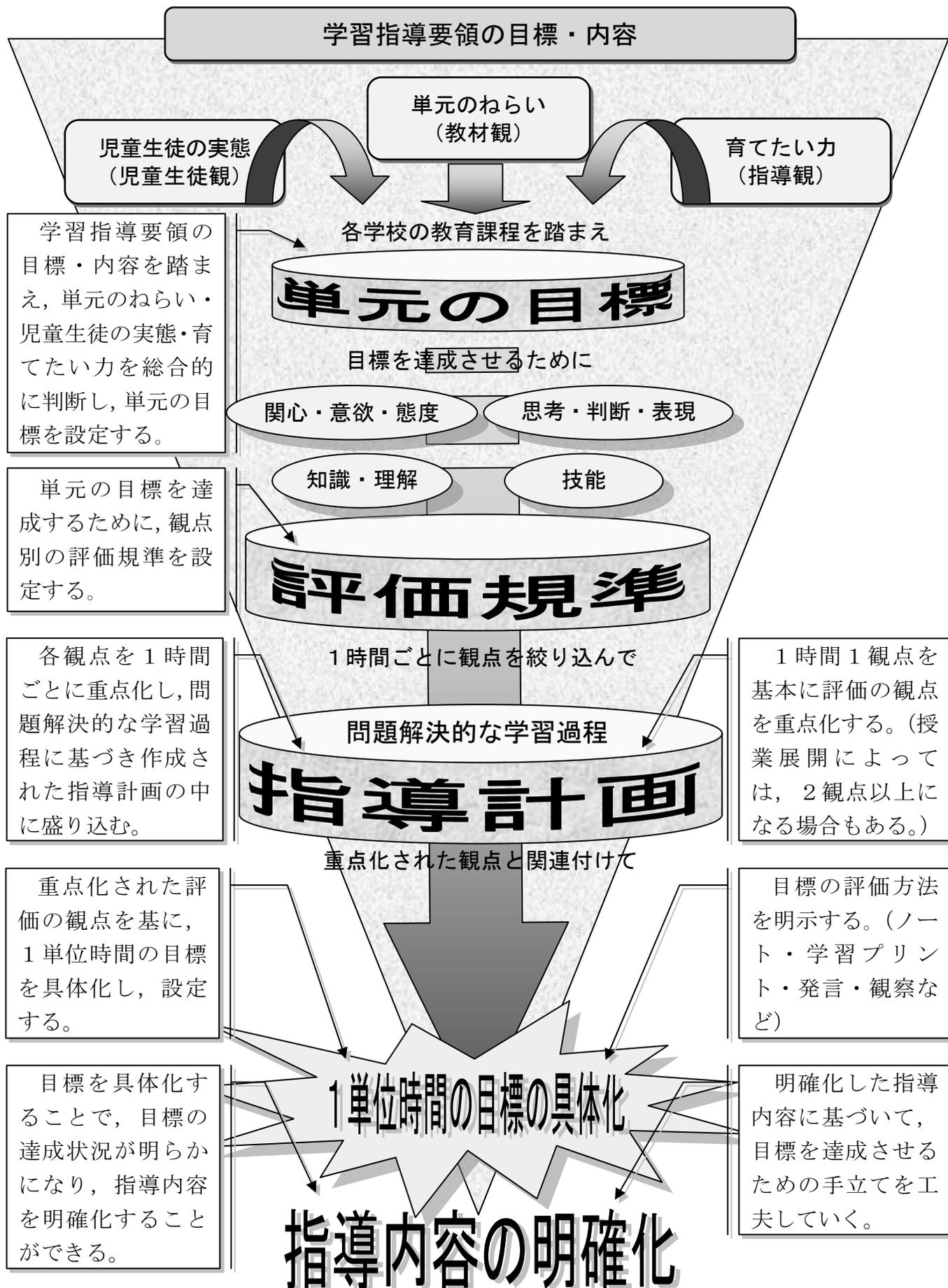
◆目標の具体化の例② ～評価規準が二つの観点になる場合～

※小学 6 年社会科「武士の政治が始まる」の指導計画より抜粋

時	指導目標	評価規準及び方法
2	◎平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心をもち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べ、武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を図や文にまとめることができるようにする。	〈関〉観察・発言 平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心をもち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べている。 〈技〉学習プリント 武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を図や文にまとめている。

指導目標の前半部分が、「関心・意欲・態度」の観点、後半部分が「技能」の観点。

◆目標の具体化及び、指導内容の明確化の手順



研究内容 2

授業展開の工夫

具体化した目標を達成していくためには、様々な手立てを工夫することが重要である。目標達成に向けた手立ては、一つとは限らない。児童生徒の実態や授業展開に応じて、複数の手立てを講じることが考えられる。

そこで、本研究では、目標達成に向けた主な手立てとして、学習課題の設定や学習内容の提示、発問・指示、板書の工夫、言語活動の設定を取り上げ、それらの効果的な在り方について考えていくこととした。

目標達成につながる
学習課題(学習問題)
の設定及び、学習内容
の提示

児童生徒一人一人が、1単位時間の目標を理解し、学習への興味・関心を高め、主体的に課題解決に取り組もうとする態度をはぐくむためには、学習課題の設定や学習内容の提示が重要である。学習課題の設定や学習内容の提示においては、診断的評価や形成的評価で明らかになった児童生徒の実態を踏まえ、1単位時間の目標と関連付けることが大切である。

本研究では、児童生徒の実態を踏まえ、具体化した1単位時間の目標と整合性を図りながら、学習課題を設定したり学習内容を提示したりしている。また、下記のように重点化した評価の観点との関連も考え、学習課題や学習内容の表記を工夫している。

◇ 1 単位時間の目標と学習課題との関連の具体例

※小学1年算数科「おおきさくらべ(1)」の実践例

時	指導目標	学習課題	評価の観点
1	◎ 2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長い か予想してから、端をそろえ たり、真っ直ぐ並べたりして 比べ、直接比較や、媒介物を使 って比べる間接比較の仕 方を理解できるようにする。	○～の仕方を見付けよう。 (例) 「ながさの <u>くらべかたをみつけ よう。</u> 」	・算数への関心・意欲・ 態度 ・数量や図形についての 知識・理解
2	◎ 身の回りにあるものを任意 単位として、重ね合わせるこ とができない2つのものの 長さの比べ方について、その 幾つ分になるか <u>数値化して 考える</u> ことができるように する。	○どのように～だろうか。 (例) 「 <u>どうやってくらべたらよいで しょうか。</u> 」	・数学的な考え方
3	◎ 複数の容器に入る水のかさ を、直接比較と間接比較を使 って <u>比べることができる</u> よ うにする。	○～しよう。 (例) 「みずのかさを <u>くらべよう。</u> 」	・数量や図形についての 技能

思考を促し、深める 発問・指示の工夫

児童生徒の思考を促し、主体的に課題解決に取り組む態度を養うためには、教師の適切な発問や指示が重要である。実際の授業においては、どのような発問や指示が、児童生徒の思考を促し、深めるために効果的なのか考え、授業を展開していくことが大切である。

本研究では、発問を「児童生徒の思考を促すもの」、指示を「児童生徒の行動を促すもの」とおさえている。また、主発問を「1単位の目標達成につながる中心的な発問」、補助発問を「主発問を補ったり、詳しくしたりする発問」とおさえている。これらを踏まえ、児童生徒の思考を促す発問を吟味するとともに、発問に適した指示を考えていく。また、主発問と補助発問とを効果的に組み合わせながら、思考を深める授業展開となるよう、詳細な発問・指示を指導案に明記している。

このように教師が発問と指示との違いを意識し、工夫することにより、目標達成につながる中心的な場面をとらえることができ、児童生徒一人一人の課題解決を適切に支援することができると思う。

◇思考を促し、深める発問・指示の工夫の具体例

※小学6年社会科「武士の政治が始まる」の授業記録より抜粋

○全国から御家人が集められ、元軍を2度撃退したことをおさえる。



◇元軍を撃退したと鎌倉幕府の衰退とを関連付けて考えさせ、目標達成へとつなげる。

補助発問：「なぜ、北条時宗の命令で全国の御家人が集まってきたのでしょうか。」

C₅ 土地をもらえるから。

C₁₃ 「ご恩」と「奉公」の関係。

C₁₀ もし元に勝ったら、元が支配していたところをもらえると考えたから。

主発問：「(主発問)では、なぜ、元を撃退したのに、鎌倉幕府は衰えることになったのでしょうか。(指示)プリントに衰えた理由を書きなさい。」

C₁₅ 御家人たちは、多くの費用を使い命懸けで戦ったが、幕府から褒美の土地をもらうことができず、「ご恩」と「奉公」の関係が崩れたから。

学習の流れが分かる 板書の工夫

児童生徒が、様々な考えを比較しながら、思考を整理したり、身に付けなければならない知識や技能、考え方などをとらえたりするためには、板書が重要である。実際の板書においては、学習課題や見通し、まとめなどの他に、重要語句や児童生徒の意見を簡潔にまとめたり、黒板の配分を工夫したりして、構造的な構成になることが大切である。

本研究では、1単位の授業が目標達成に向けて展開されていく過程において、学習の流れが分かるように板書を工夫している。

なお、板書計画の具体については、第Ⅲ章、第Ⅳ章の実践例に示してある。

**目標達成につながる
言語活動の設定**

1 単位時間の授業において児童生徒が行う学習活動の基盤は言語であり、目標を達成するためには、言語活動を効果的に設定することが重要である。平成20年の中教審答申によれば、「言語は知的活動(論理や思考)の基盤であるとともに、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要である。」としている。言語活動を行う能力を身に付ける中核となるのは、国語科である。したがって、国語科においては、言語活動を行う能力を育成し、他の教科においては、国語科で培った能力を基に、それぞれの教科の目標を達成するための手立てとして、言語活動を設定することが大切である。

言語活動は、児童生徒が自分の考えを表現する場であり、基本は、話す活動と書く活動である。これらの活動を目標達成のための手立てとして、学習形態を工夫しながら、国語科以外の教科においても、必要に応じて1 単位時間の授業に位置付けることが大切である。したがって、言語活動は1 単位時間の目標達成状況を把握する主な場面になると考える。

本研究では、言語活動を主に次の9つとし、目標達成のための手立てとして、必要に応じて授業展開に位置付けている。

◇言語活動例

- ①対話 ②記録 ③報告 ④要約 ⑤説明 ⑥感想
⑦論述 ⑧紹介 ⑨討論 など

(※上川教育研修センター研究紀要第36号より)

◇目標達成につながる言語活動(説明)の具体例

※小学1年算数科「おおきさくらべ(1)」の授業記録より抜粋

○机の縦と横の長さを比べるために、身の回りにあるもの(筆入れ、鉛筆など)を選ばせる。



◇比べ方を説明させる言語活動を繰り返し行わせ、目標達成へとつなげる。

- 1 幾つ分に注目して比べている児童に、比べ方を説明させる。
- 2 同じものを使って再度測り直し、比べ方を説明させる。
- 3 違うもので測り、学習プリントに机の縦と横の長さを数値化して記述し、比べ方を説明させる。



◎本時の目標：身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えることができるようにする。

Column-2 学習課題，発問，板書について

◇学習課題のポイント

- ① 児童生徒が授業における学習の目標や内容を理解することができるものであること。
- ② 児童生徒が学習への興味・関心や問題意識を高めることができるものであること。
- ③ 児童生徒が主体的に学ぼうとする意欲をはぐくむことにつながるものであること。
- ④ 児童生徒が学習の見通しをもつことができるものであること。
- ⑤ 児童生徒にとって日常の身近な事柄を取り扱ったものであること。

◇発問のポイント

- ① 本時の学習内容に対して，興味・関心を喚起する発問
- ② 学習課題や学習のねらいを明確に理解できるようにする発問
- ③ 解決計画を立てることができるようにする発問
- ④ 事前に学習の仕方や学習の対象を選択でき，自分なりに追究できるようにする発問
- ⑤ 追究していくための方法や学習対象を明確にできるようにする発問
- ⑥ 追究の過程で修正ができるようにする発問
- ⑦ 常に学習課題に立ち戻って追究できるようにする発問
- ⑧ 学習したことを確実にとらえられるようにする発問
- ⑨ 友達同士で学習成果を比べられるようにする発問
- ⑩ まとめた学習成果を発信できるようにする発問

◇板書のポイント

【学習の流れに関すること】

- ・「学習課題」や「見通し」，「まとめ」を書くなど，1時間の授業の流れが分かるように書く位置も含めて工夫する。
- ・児童生徒が学習内容をより理解できるようにするため，重要語句等を書く。
- ・図や表，絵などを活用したり，図式化，模式化したりするなど，授業全体の流れを整理する。

【児童生徒の意見や発表に関すること】

- ・児童生徒の意見をそしゃくして教師が簡潔に板書する場面と，児童生徒自身が考えを板書する場面とのバランスを考える。
- ・児童生徒の意見や発表を書くスペースを確保し，その位置に配慮する。
(小学校低学年では，児童生徒が書けるよう黒板の低い位置に確保するなど)
- ・児童生徒と約束して，記号化，囲み，色チョーク等を適時用いる。

【その他】

- ・電子黒板，小黒板，カード，掲示物，OHP，VTR，スライドなどと資料を効果的に併用することを考える。

☞北海道立教育研究所プロジェクト研究「確かな学力の育成に資する学習指導に関する研究」
(平成21年～平成22年の2か年研究)より抜粋

研究内容 3

学習評価の工夫

1 単位時間や単元の目標達成状況を把握するためには、児童生徒一人一人の学習状況を的確にとらえることが重要である。

具体的には、単元導入前の診断的評価により、当該単元にかかわる児童生徒一人一人の知識や技能、考え方などの定着状況を把握する。さらに、1 単位時間の授業中に行う形成的評価により、目標達成状況を把握しながら、指導に生かしていく。最後に、単元の指導後に行う総括的評価により、単元の目標達成状況を把握する。

このように、指導計画の各段階において、計画的に評価することが大切である。そのためには、計画的に評価したことを適切に記録し、蓄積していくことが必要である。

そこで本研究では、学習評価の妥当性、信頼性を高めるために、「学習評価シート」を作成し、評価の蓄積を行うとともに、上記の3つの学習評価の効果的な在り方について考えていくこととした。(☞ p. 18 「学習評価シートの具体例」)

児童生徒の実態を
把握する診断的評
価の在り方

診断的評価では、当該単元以前の学習における目標達成状況を把握し、当該単元にかかわる知識や技能、考え方などの定着状況を的確にとらえ、単元の目標設定や指導計画の工夫に生かすことが重要である。

本研究では、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」といった観点別学習状況の評価の観点に基づいて、児童生徒一人一人の学習状況をとらえている。

指導に生かす形成的
評価の在り方

形成的評価では、1 単位時間の目標達成状況を把握し、指導に生かすことが重要である。

本研究では、1 単位時間の目標達成状況を把握するために、書く活動を授業展開に位置付け、適宜、目標を達成していない児童生徒に対し、具体的な手立てを講じている。学習課題に対する自分の考えや、学習内容のまとめなどを書くことにより、児童生徒一人一人の目標達成状況が明らかになり、知識や技能、考え方などが身に付いているかどうかを把握することができる。ただし、必ずしも毎時間書く活動を行うわけではない。1 単位時間の目標と照らし合わせ、指導計画の中で計画的に書く活動を取り入れていくことが重要である。

単元の目標達成状況を
把握する総括的評価の
在り方

総括的評価では、単元の目標達成状況を把握し、次の学習の診断的評価へとつなげることが重要である。

本研究では、形成的評価や単元の指導後に行われるテストの結果などを踏まえ、観点別学習状況の評価の観点ごとに総括し、単元の目標達成状況を把握している。

評価方法

このように指導計画の各段階において、児童生徒の学習状況を計画的に評価していくことにより、目標・指導・評価の一体化を図ることができる考える。

児童生徒一人一人の学習状況を的確にとらえるためには、評価方法を工夫することが重要である。

本研究では、評価の目的や評価場面に応じて、下記に示すような評価方法を効果的に取り入れ、評価の妥当性・信頼性を高めている。

◆評価方法の一覧（◎，○，△は、評価との関連の程度を表す。）

評価方法	評価の仕方・特徴など	場 面		
		診断的評価	形成的評価	総括的評価
テスト	・あらかじめ作成された問題に対する解答によって、達成状況などを評価する。筆問筆答が基本となる。	◎	○	◎
質問紙 (アンケート)	・専門家や教師によって作成された質問紙を用いて、評価する。解答に正誤の別がない点が、テスト法と異なる。	◎	◎	◎
観 察	・児童生徒が取り組んでいる様子を観察し、達成状況进行评估する。	◎	◎	◎
発 言	・児童生徒の発言内容を分析し、達成状況进行评估する。	◎	◎	◎
面 接 (問答法)	・教師と児童生徒が対面し、問答によって様々なことの実態を把握する。	○	△	◎
実 技	・児童生徒に、実際に演じさせて達成状況进行评估する。	○	○	◎
作 品	・児童生徒が制作した作品から、達成状況进行评估する。	△	○	◎
レポート	・児童生徒に何らかの課題を与えてレポートを書かせて、達成状況进行评估する。	△	○	◎
学習プリント (ノート)	・児童生徒が学習で使ったプリントやノートなどから、達成状況进行评估する。	○	◎	◎
ポートフォリオ	・上記の技法によって収集された資料を蓄積しておき、個人の学習の足跡を総合的にとらえて評価する。	○	○	◎
自己評価	・児童生徒自らが自己の学習を振り返るとともに、教師が児童生徒の達成状況を把握する評価でもある。	△	◎	○

第Ⅱ章

◆学習評価シートの具体例（丸数字は、指導時間を表す。）

※小学6年社会科「武士の政治が始まる」の学習評価シートより抜粋

No	抽出児童名	診断的評価による分析	見付ける	求める	高める	総括的評価の結果
			①観察・資料活用 の技能	③観察・資料活用 の技能	④社会的な 思考・判断・表現	
1	F児	・歴史に対する興味・関心が高く知識も豊富である。元寇についても、教科書の記述内容以外のことも知っている。図や文にまとめることは苦手としているが、発言力はある。	(A B C) ・武士と貴族について、服装や建物、食事、行事など、多くの視点から、違いを読み取っていた。	(A B C)	(A B C) ・鎌倉幕府が衰退した理由を幕府側と御家人側の双方の立場から考え、記述していた。	○社会的事象への 関心・意欲・態度 (A B C) ○社会的な 思考・判断・表現 (A B C) ○観察・資料活用 の技能 (A B C) ○社会的事象につ いての知識・理解 (A B C)
2	O児	・歴史上の人物に関心が高く、名前のみであるが、鎌倉時代の武将も知っている。図や文にまとめることを得意としている。	(A B C) ・武士と貴族について、様々な視点から違いを読み取り、学習プリントにまとめていた。	(A B C)	(A B C)	○社会的事象への 関心・意欲・態度 (A B C) ○社会的な 思考・判断・表現 (A B C) ○観察・資料活用 の技能 (A B C) ○社会的事象につ いての知識・理解 (A B C)
3	T児	・歴史の学習は、覚えることが多いというイメージがあり、あまり好きではない。発言はなく、図や文にまとめることも苦手としている。	(A B C)	(A B C) ※源氏と平氏でどちらが勝ったのか見付けさせたことにより、武士同士の戦いに対する興味・関心が高まった。 (関心・意欲・態度)	(A B C)	○社会的事象への 関心・意欲・態度 (A B C) ○社会的な 思考・判断・表現 (A B C) ○観察・資料活用 の技能 (A B C) ○社会的事象につ いての知識・理解 (A B C)

「観察・資料活用
の技能」の評価。

「関心・意欲・態度」が
評価観点ではない時間の
見取りを記述。

本年度は、抽出児童を中心に児童の学習状況を把握し、「学習評価シート」に記録した。特に、A「十分満足できる」状況と、C「努力を要する」状況と判断された児童については、学習の様子分かるように文章で記述した。また、「関心・意欲・態度」の観点については、単元を通して見取り、評価観点以外の時間においても、適宜、記録している。

本実践では、診断的評価で「歴史の学習に対する興味・関心が低い。」ととらえたT児に対して、具体的な手立てを講じたことにより、「関心・意欲・態度」の総括的評価において、B「おおむね満足できる」状況となった。

なお、総括的評価は、各時間の形成的評価を踏まえ、単元の指導後に行われたテストを加味しながら把握した。

第三章 研究員の授業実践

- 小学6年 社会科 小野 義幸
- 小学1年 算数科 北川 真美

研究員の授業実践 小学6年 社会科

武士の世の中が始まり、 時代が変化したことが分かる学習

日 時 平成23年6月22日(水) 5校時 実施
 児 童 東神楽町立東聖小学校第6学年かえで組 27名
 指導者 小野 義 幸

1 単元名 「武士の政治が始まる」(教育出版 6年)

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

【学習指導要領】～第6学年(社会科)の目標と内容～

1 目 標

- (1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。
- (3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

2 内 容

- (1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
 ウ 源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べ、武士による政治が始まったことが分かること。

これまで社会では、聖徳太子の政治や大化の改新によって政治の仕組みが整えられたことや、聖武天皇によって大仏が造営されたことなどを調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことを学習してきた。また、藤原道長に代表される貴族の暮らしの様子を具体的に調べ、貴族が次第に力を伸ばし、政治の中心を担うようになってきたことと、紫式部や清少納言の活躍などから独自の国風文化が起こったことも学習してきた。

本単元では、源平の戦いを通して武士が力をもつようになったこと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことを学習する。これらの活動を通して、武士による政治が始まったことが分かるようにすることがねらいである。

なお、本単元では「武士の世の中」24時間扱いのうち、「武士の政治が始まる」の4時間分について取り上げた。

〈児童観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが分かった。

「社会的事象への関心・意欲・態度」については、これまでの学習状況及び事前アンケート

第三章

トにより評価し、次のような結果を得た。

- ・歴史の学習はとても好き、または好きと答えていた児童は、90%であった。
- ・6年生になる前から歴史の学習を楽しみにしていた児童が多く、人物の働きや出来事を調べることに對して、興味・関心が高かった。特に、戦国時代に興味・関心のある児童が多かった。

「社会的な思考・判断・表現」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・縄文時代と弥生時代の想像図の比較から、「大昔の人々の暮らしがどのように変化してきたのか」という学習問題を、ほとんどの児童が設定することができていた。
- ・「大陸から学んだ国づくり」のまとめでは、重要なキーワードを使って各時代の特色を考え表現することができていた。しかし、聖徳太子が目指した国づくりと貴族の政治との関連について表現できた児童は、少なかった。

「観察・資料活用の技能」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・平安時代の貴族の屋敷の想像図から、貴族の暮らしの様子を読み取ることができていた児童は、80%であった。
- ・聖徳太子が目指した天皇中心の国づくりについて調べたことを、図や文でまとめることができていた児童は、82%であった。しかし、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりすることについては個人差が大きかった。

「社会的な事象についての知識・理解」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・全員が「武士」という言葉を知っていた。また、知っている武将名を答えられた児童は、78%であった。
- ・「源氏」と「平氏」という言葉を知っている児童は、33%いた。その中で、源氏と平氏の武将や源平の戦いなどについて説明することができた児童は、11%であった。
- ・「鎌倉幕府」と「源頼朝」について知っていると答えた児童は、52%いた。その中で、源頼朝が鎌倉幕府を開いたことを説明できた児童は、15%であった。
- ・「元寇」という言葉を知っている児童は、19%いた。その中で、元寇がどんな出来事だったかを説明することができた児童は、7%であった。

これらの結果により、本学級は、歴史の学習や調査活動への興味・関心は高いが、知識や技能の個人差は大きく、歴史的な事象を関連付けて考えることができない児童が多いということが分かった。

〈指導観〉

本単元では、武士が力をもつようになった時代の歴史的な事象の意味について関連付けて考えることができるようにしたい。また、人物の働きや資料を吟味して、調べたことを整理させる場面を効果的に設定していきたい。

そのために、農村に住む武士の暮らしの様子と貴族の暮らしを比較することを通して、学習問題を見いだしていく。また、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの調べ学習を通して、資料を読み取ることができるようにする。さらに、「ご恩」と「奉公」の関係を基に、武士による政治がどのように行われ、どのように変化したかをとらえ、まとめることができるようにしていく。

3 単元の見目標

武士による政治の始まりに関心をもち、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べることを通して、貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことが分かるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準			
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きに関心をもち、時代の変化について意欲的に調べている。	武士の行動や考え方などから学習問題を見いだして追究し、幕府と御家人の関係がどのように変化していったかを考え、適切に表現している。	武士の館の想像図や地図などの資料を活用して、武士の特徴を読み取り、源平の戦いの経緯や鎌倉幕府の仕組みなどを図や文にまとめている。	全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として、幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解している。
1 単位時間の評価規準			
②平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心をもち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べている。	①武士の暮らしの様子と武芸とのつながりの強さ、領地を守ること、日ごろからの戦いへの備えとを関連付けて考え、記述している。 ④貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述している。	①武士の館の想像図などの資料から、武士の暮らしと貴族の暮らしとの違いを読み取っている。 ②武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を図や文にまとめている。 ③鎌倉幕府の仕組みについて調べたことを、図や文にまとめている。	③全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として、幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解している。

5 指導と評価計画

1 単位時間の学習内容 単元の学習問題及びまとめ ★努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
見付ける 1	◎武士の館の想像図などの資料から、武士の暮らしと貴族の暮らしとの違いを読み取り、読み取った武士の暮らしの様子と、武芸とのつながりの強さ、領地を守ること、日ごろからの戦いへの備えとを関連付けて考え、記述できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">武士は、どのような暮らしをしていたのだろう。</div> ○武士の館の想像図から、武士の暮らしの様子を交流する。 ○武士の暮らしと貴族の暮らしとを比較し、気付いた点や疑問点を交流する。 ★貴族の暮らしと異なる点について、建物・食事・一日の生活に着目させ、想像図から読み取らせる。 ○武士が戦いに備えて生活していたことや領地を大切にしていたことなどを交流する。 ○武士がなぜこのような暮らしをしていたかという疑問から、学習問題を設定する。 ★武士が武芸の訓練をしているところを示し、その理由を考えさせる。	(技) 発言、学習プリント 武士の館の想像図などの資料から、武士の暮らしと貴族の暮らしとの違いを読み取っている。 (思) 学習プリント 武士の暮らしの様子と武芸とのつながりの強さ、領地を守ること、日ごろからの戦いへの備えとを関連付けて考え、記述している。

第三章

見付ける	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。 </div>		
求める	2	◎平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心を持ち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べ、武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を図や文にまとめることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 武士は、どのようにして力をもつようになったのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○平治の乱の絵図を見て、武士の戦い方の様子について気付いたことを発表する。 ○3人の武将について、その働きに着目して調べる。 ★3人の武将の中の一人に着目させ、どのような働きをしたのか、教科書に線を引かせ、読み取らせる。 ○平氏の台頭から源平の戦いの経緯を追いながら、武士が力を付けていった経緯を整理する。 ★貴族のように振る舞っていた平氏の政治と、源平の戦いでどちらが勝利したかを見付けさせる。 ○武士の力が大きくなっていった背景をまとめ、武士が目指した政治を予想する。 	(関) 観察, 発言 平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心を持ち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べている。 (技) 学習プリント 武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を図や文にまとめている。
求める	3	◎鎌倉幕府の仕組みについて調べたことを、図や文にまとめ、全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として「幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 鎌倉幕府のしくみは、どのようなものだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係について調べる。 ★政治体制を整えるために、全国各地に何を置いたか考えさせる。 ★守護と地頭には誰が任命されていたか確認させる。 ○鎌倉幕府の特徴についてまとめる。 ★「ご恩」と「奉公」の図にある矢印は何を表しているか考えさせる。 ○将軍に代わって政治を行う執権という役職に就いた北条氏について知る。 	(技) 学習プリント 鎌倉幕府の仕組みについて調べたことを、図や文にまとめている。 (知) 学習プリント 全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として、幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解している。
高める	4 (本時)	◎貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○元寇がどんなできごとだったか知る。 ○北条時宗が全国の御家人を集めることができた理由を考える。 ○元を撃退したにもかかわらず、鎌倉幕府が衰退した理由を考える。 ○これまでの学習を踏まえ、鎌倉時代についてまとめる。 ★模造紙に書いてある「ご恩」と「奉公」の関係図を示し、考えさせる。 	(思) 学習プリント 貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述している。
		武士が現れて、世の中は貴族の時代から武士の時代へと変わった。武士(源頼朝)は幕府をつくり、幕府と御家人は「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていた。しかし、元寇によりこの関係が崩れ、鎌倉幕府が衰えるきっかけとなった。		

6 本時の学習（4時間扱い 2／4）

(1) 目 標

- ・ 貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述できるようにする。

(2) 授業仮説

- ・ 元との戦いと、「ご恩」と「奉公」の関係とを関連付けて考えさせる発問を工夫することにより、単元のまとめができ、目標を達成することができるであろう。

(3) 展 開

教師の活動	児童の活動	評 価
1 単元の学習問題を確認させる。	1 単元の学習問題を確認する。	
<p>武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。</p>		
2 前時までの学習を想起させる。	2 前時までの学習を振り返る。	
<p>〈平治の乱・源平の戦い〉 ↓ ・ 貴族が中心の世から、武士が中心の世になった。 〈鎌倉幕府の成立〉 ↓ ・ 政治の中心が京都から鎌倉に変わり、幕府と御家人は「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていた。</p>		
3 資料①「蒙古襲来絵詞」を提示し、気付いたことを発表させる。 「この絵を見て気付いたことを発表しましょう。」	3 「蒙古襲来絵詞」を見て気付いたことを発表する。 ・ 幕府と外国の軍隊が戦っている。 ・ 火薬が爆発している。(てつはう) ・ 馬から血が出ている。 ・ 弓矢が飛んでいる。	
4 「蒙古襲来絵詞」が、元と幕府が戦っている絵であることについて説明する。	4 「蒙古襲来絵詞」が、元と幕府が戦っている絵であることを確認する。	
5 資料②「モンゴル帝国の広がり」の地図から、元の国力について読み取らせる。 「なぜ、元はこんなに広い国になったのでしょうか。」	5 元が強大な国だということを読み取る。 ・ 他の国を征服していったから。 ・ 戦いに勝っていったから。	
6 学習プリント「元の国書」を配付し、内容をとらえさせる。 「国書の内容は簡単に言うと、どういうことでしょうか。」	6 「元の国書」が、日本を従わせようとしたことを読み取る。 ・ 言うことを聞かないと攻めるぞ。 ・ 家来になりなさい。	
7 当時の執権であった北条時宗が国書の申し出を断った結果、元が攻めてきたことを説明する。	7 元が、2度北九州に攻めてきたことを知る。	
8 元が攻めてきた場所を、地図帳で確認させる。 「地図帳から元寇の場所を見付けましょう。」	8 地図帳を使って、元が攻めてきた場所を確認する。 ・ 元寇の防塁跡があるから、この辺りかな。 ・ 元寇の役古戦場跡は、戦った場所かな。	
9 幕府軍が苦戦した理由について考えさせる。 「この絵(蒙古襲来絵詞)から、元はどんな戦い方をしたと思いますか。」	9 「蒙古襲来絵詞」から、元の武器や戦い方などを読み取る。 ・ てつはうを使っている。 ・ 集団で戦っている。	
10 全国から集められた御家人の頑張りにより、元軍に勝ったことを説明する。	10 御家人の頑張りにより、元軍を2度も追い払ったことを確認する。	

第三章

11 幕府と御家人が、「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを想起させる。「なぜ北九州の戦いなのに、北条時宗の命令で、全国の御家人が集まってきたのでしょうか。」

12 「ご恩」と「奉公」の関係図を黒板に貼る。

13 元を撃退した後、鎌倉幕府が衰退した理由を考え、交流させる。

主発問

「なぜ元を撃退することができたのに、鎌倉幕府は衰えてしまったのでしょうか。」

14 単元の学習問題について、これまで学習したことを基に、学習プリントにまとめ、交流させる。「鎌倉時代について、これまで学習したことと今日学習したことを基に、学習プリントにまとめましょう。」

★模造紙に書いてある「ご恩」と「奉公」の関係図を示し、考えさせる。



11 全国の御家人たちが北九州に集まってきた理由を考える。

- ・「ご恩」と「奉公」の関係が強かったから。
- ・幕府の力が強かったから。
- ・元に領土を取られたり、家来にさせられたりするのが嫌だから。
- ・元は強大で、九州の御家人だけでは勝てないから。
- ・「いざ鎌倉」だったから。

12 「ご恩」と「奉公」の重要性を再確認する。

13 元を撃退したのにもかかわらず、鎌倉幕府が衰退した理由を考え、学習プリントに書いて交流する。

- ・「ご恩」と「奉公」の関係が崩れたから。
- ・褒美をもらえなかったから。
- ・土地をもらえなかったから。
- ・御家人は、一所懸命戦ったのに、幕府からご恩が与えられず、不満をもち始めたから。

14 単元の学習問題について、これまで学習したことを基に、学習プリントにまとめ、交流する。

- ・貴族から武士の世の中になり、「ご恩」と「奉公」の関係で鎌倉幕府は成り立っていたが、元寇によりこの関係が崩れ、鎌倉幕府が衰えるきっかけとなった。
- ・貴族に代わって、武士が力をもつようになった。平氏に勝った源氏の源頼朝は、鎌倉幕府を開いた。幕府と御家人は、「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたが、元寇により土地がもらえなかったため、御家人の不満が高まり、幕府が衰えることになった。

(思) 学習プリント

A 貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係をおさえ、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことを幕府と御家人の双方の立場から考え、時代が変化したことをまとめ、記述している。

B 貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述している。

武士が現れて、世の中は貴族の時代から武士の時代へと変わった。武士(源頼朝)は幕府をつくり、幕府と御家人は「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていた。しかし、元寇によりこの関係が崩れ、鎌倉幕府が衰えるきっかけとなった。

(4) 板書計画

資料①

この図は、幕府と御家人の関係を示しています。幕府は「ご恩」を賜い、御家人は「奉公」を行います。元寇により、この関係が崩れ、鎌倉幕府は衰退しました。

なぜ御家人を集めることができたのか。
 ・ご恩と奉公の関係が成り立っていたから。
 ・元に領土を取られたくないから、幕府の力が強かったから。

なぜ鎌倉幕府は衰えてしまったのか。
 ・ほうびの土地をもらえなかったから。
 ・ご恩と奉公の関係がくずれたから、幕府が武士に土地をあげられなくなったから、武士が不満をもつようになったから。

くまのこの
 武士が現れて、貴族の時代から武士の時代へ。武士は幕府と御家人は「ご恩」と「奉公」の関係。元との戦いにより「ご恩」と「奉公」の関係がくずれ、鎌倉幕府は衰退。

資料②

この地図は、モンゴルの最大の範囲と元軍の進路を示しています。大塚(今のベトナム)と元(今の中国)の位置も示されています。

7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:20	○単元の学習問題を確認させる。	
<p>武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。</p>		
	T 1時間目に立てた課題(学習問題)を読みます。	C _全 武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。
13:21	<p>○前時までの学習を想起させる。</p> <p>T (模造紙板書を指さしながら)まず1時間目には、武士が出てきてどのような暮らし方をしているのかということを学習しました。そして、この課題(学習問題)を立てました。次は平治の乱と源平の戦いについて調べました。ここで大事なことは何でしたか。</p> <p>T ここで出てくる重要な人物は誰ですか。</p> <p>T そうですね。源頼朝が将軍になって、鎌倉幕府を開きましたね。では、ここで大事なことは何ですか。</p> <p>T 誰と誰が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたのですか。</p> <p>T 今までに鎌倉時代の2つの大事なことを押さえてきましたが、実はもう1つ大事なことを今日学習します。この3つ目の大事なことを押さえたら、最初に立てた課題(学習問題)に対してのまとめをしていきます。</p>	<p>C₁ 貴族の時代から武士の時代が変わったということです。</p> <p>C₂ 将軍と御家人です。</p> <p>C₃ 「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことです。</p> <p>C₄ 将軍と御家人です。</p>
13:23	<p>○資料①「蒙古襲来絵詞」を提示し、気付いたことを発表させる。</p> <p>T この絵を見て、気付いたことを発表しましょう。</p>	<p>C₅ 武士が、馬に乗って走っている。</p> <p>C₆ 弓矢に刺されている。</p> <p>C₇ 今まで見たことのない服装をしている。</p> <p>C₈ モンゴル人。(多数)</p> <p>C₉ 血を流している馬がいる。</p> <p>C₁₀ モンゴル人も刺されている。</p> <p>C₁₀ 日本人は一人、モンゴル人は多い。</p>
13:25	<p>○「蒙古襲来絵詞」が、元と幕府が戦っている絵であることについて説明する。</p> <p>T この日本人は誰でしょうか。</p> <p>T (元軍を指さして)この人たちはどこの国からやってきたのでしょうか。</p>	<p>C₁₁ 御家人。(多数)</p> <p>C₁₁ 元から。</p>
13:26	<p>○資料②「モンゴル帝国の広がり」の地図から、元の国力について読み取らせる。</p> <p>T モンゴル人が作ったこの国を元と言いますが、見てどう思いますか。</p> <p>T なぜ、元はこんなに広い国になったのでしょうか。</p> <p>T では、その強い人たちは何をしたのでしょうか。</p>	<p>C₁₂ 大きい。広い。(多数)</p> <p>C₁₂ 強い人がいっぱいいるから。</p> <p>C₁₃ 戦争や争いをして勝っていった。</p>
13:28	<p>○学習プリント「元の国書」を配付し、内容をとらえさせる。</p> <p>T 元が一番偉い人は…。</p> <p>T そのフビライから国書が届きました。国書というのは、簡単に言うと手紙のことです。(国書を配付して)読んでください。</p> <p>T この国書(の内容)は簡単に言うと、どういうことでしょうか。</p>	<p>C₁₄ フビライ。(多数)</p> <p>※指名された児童が代表して読む。</p> <p>C₁₅ 力づくでも領土がほしいと言っている。</p>
13:31	○当時の執権であった北条時宗が、国書の申し出を断	

第三章

	<p>った結果、元が攻めてきたことを説明する。</p> <p>T この当時の幕府の執権は誰ですか。</p> <p>T 北条時宗は、この元の国書に対してどうしたでしょう。</p> <p>T それに対して元はどうしましたか。</p>	<p>C₄ 北条時宗。</p> <p>C₁₄ 断った。</p> <p>C₄・C₁₀ 攻めてきた。</p>
13:33	<p>○元が攻めてきた場所を地図帳で確認させる。</p> <p>T 元は、どこに何回攻めてきたでしょうか。</p> <p>T 地図帳から元が攻めてきた場所を見付けましょう。</p> <p>T 見付けた人がたくさんいます。博多湾の辺りにありましたね。しかし、もう1つ地図帳で確認できる場所があります。対馬と言います。探してみてください。</p> <p>T 合計2回攻めてきましたが、1回目に攻めてきたことを文永の役、2回目に攻めてきたことを弘安の役と言います。二つ合わせて、何と言うのですか。</p>	<p>C 北九州に2回。(多数)</p> <p>※地図帳を使って元寇の場所を見付ける。</p> <p>※地図帳から対馬の場所を探す。</p> <p>C₁₄ 元寇。</p>
13:37	<p>○幕府軍が苦戦した理由について考えさせる。</p> <p>T 実は幕府軍は、元に対してかなり苦戦しました。それは、元の戦い方にあります。この絵(蒙古襲来絵詞)から、元はどんな戦い方をしたと思いますか。</p> <p>T この爆弾の名前は何と言いますか。</p> <p>T 元の集団戦法に対して、幕府軍の戦い方はどのようなものですか。</p> <p>T これらのことを踏まえて、どんな戦いだっただのか説明してください。</p>	<p>C₆ 大勢で一人の人をやっつけている。</p> <p>C₂ 遠くから毒を塗った矢を発射していた。</p> <p>C₁₀ 馬と戦っている人の近くに爆弾みたいなものがある。</p> <p>C てつはう。(多数)</p> <p>C₆・C₁₀ 単独。</p> <p>C₁₄ 元軍は遠くから毒を塗った弓矢を射ながら、てつはうで馬を驚かし、集団で一人の武士に襲いかかって戦っていました。</p>
13:41	<p>○全国から集められた御家人の頑張りにより、元軍に勝ったことを説明する。</p> <p>T さて皆さん、どっちが勝ったと思いますか。</p> <p>○教科書を使って確認させる。</p> <p>T 教科書には何て書いてありますか？</p> <p>T こんなにすごい戦い方をする元に対して、幕府軍は2回も退けたんですね。</p>	<p>C 元軍。(多数)</p> <p>C₁₄ 幕府軍。</p> <p>C₁₀ 御家人が元を退けた。</p>
13:42	<p>○幕府と御家人が、「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを想起させる。</p> <p>T なぜ北条時宗の命令で、全国の御家人が集まってきたのでしょうか。</p> <p>T 「ご恩」と「奉公」の関係とはどんな関係でしたか。</p> <p>T 他に理由はありませんか。</p>	<p>C₅ 土地をもらえるから。</p> <p>C₁₃ 「ご恩」と「奉公」の関係。</p> <p>C₁₃ 「ご恩」は幕府が御家人に領地を与えたり御家人の領地を守ったりすることで、「奉公」は幕府のために働くということ。</p> <p>C₁₀ もし元に勝ったら、元が支配していたところをもらえると考えたから。</p>
13:44	<p>○元を撃退した後、鎌倉幕府が衰退した理由を考え、交流させる。</p> <p>T しかし、実はこんなに頑張っ元を撃退したのに、幕府の力は衰えていきます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>主発問 「では、なぜ元を撃退したのに、鎌倉幕府は衰えることになったのでしょうか。プリントに衰えた理由を書いてください。」</p> </div> <p>T それでは、書いたことを発表してください。</p>	<p>※学習プリントに衰えた理由を記述する。</p> <p>C₁₅ 御家人たちは、多くの費用を使い命懸けて戦ったが、幕府から褒美の土地をもらうことができず、「ご恩」と</p>

「奉公」の関係が崩れたから。

C₁₆ 褒美がもらえずに、不満をもった。

C₃ 元を追い返しただけで、土地が手に入らなかった
ので、御家人は幕府から土地をもらえなかったから
関係が崩れた。

本時の主発問は、目標達成に向けた主な手立てである。この発問に基づいた交流活動を通して、C₁₆やC₃の発言のように、児童は元との戦いにより「ご恩」と「奉公」の関係が崩れていったことに気付いた。また、そのことと鎌倉幕府が衰えたこととを、関連付けて考えることができた。

T これから、今日の授業で一番大事なことを行います。課題(学習問題)をもう一度読みましょう。

C₅ 武士が現れて、世の中はどのように変わったのだろう。

13:52 ○単元の学習問題について、これまで学習したことを基に、学習プリントにまとめ、交流させる。

※単元の学習問題について、学習プリントにまとめる。

T 幕府の基盤であった「ご恩」と「奉公」の関係が崩れたのが、幕府が衰えるきっかけだったんですね。では、これまで学習したことを基に、鎌倉時代について学習プリントにまとめてください。

★模造紙に書いてある「ご恩」と「奉公」の関係図を示し、考えさせた。

※模造紙の「ご恩」と「奉公」の関係図を見ながら、書く。

14:03 T それでは、書いたことを発表してください。



C₉ 武士が現れて、貴族の時代だったのに武士の時代になった。

C₁₇ 武士が現れて、武士たちは戦いに向けていろいろな稽古や練習をしていた。そして、平清盛と源頼朝が貴族よりも力をもち始めた。源頼朝は、有力な武士たちを味方に付けて平氏を滅ぼした。源頼朝は、鎌倉幕府を開き、「ご恩」と「奉公」の関係ができた。しかし、元の大軍と戦って勝ったが、褒美の土地をもらうことができず、関係が崩れた。

C₁₄ 武士が現れて、武士は力を付けていった。平治の乱の後に貴族の時代から武士の時代になって、中でも平氏の力が強くなっていった。しかし、1180年～1185年までの源平の戦いに敗れて、平氏は滅び、源氏は強くなり、そして、源頼朝が鎌倉に幕府を開いた。鎌倉幕府は、周りの武士と「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていた。しかし、元寇の後、武士に与える土地がなく、「ご恩」と「奉公」の関係が崩れ、幕府は滅びた。

C₁₃ 武士が現れて、貴族の時代から武士の時代が変わり、「ご恩」と「奉公」の関係で鎌倉幕府は結ばれていた。しかし、元から元軍が攻めてきて、御家人が命懸けで戦ったが、幕府からの褒美の土地がもらえず、しだいに不満をもつようになり、こうして、幕府と武士との関係は崩れた。

単元の学習問題についてまとめる活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、「武士が力をもつようになったこと」、「鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係」、「元との戦いで鎌倉幕府が衰えたこと」の3つを関連付けて考え、時代が変化したことをまとめることができた。

しかし、鎌倉時代の様子を網羅的に記述していた児童が多かった。そのため、3つの重点に焦点化できるような発問(例「鎌倉時代の重点を3つ挙げるとすれば、何になるでしょうか。」)を工夫することにより、ポイントを絞ってまとめることができたと考える。

14:06 T 皆さん、今まで学習してきたことをよくまとめることができました。これで5時間目を終わります。

◇本時の目標達成状況

主に鎌倉時代について学習してきたことを学習プリントにまとめる場面において、目標達成状況を評価した。

「武士が力をもつようになったこと」、「鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係」、「元との戦いで鎌倉幕府が衰えたこと」を「ご恩」と「奉公」の関係と関連付けて考え、目標を達成することができたと考えられる児童は、69%であった。

なお、69%のうち、「ご恩」と「奉公」の関係が崩れたことを幕府と御家人の双方の立場から考えることができ、A「十分満足できる」と判断される児童は、11%であった。

※時間内にまとめることができなかつた児童については、授業後に5分間の書く時間を設けたところ、さらに16%の児童が目標を達成することができた。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

武士が現れて、貴族の時代から武士の時代にかわり、「ご恩」と「奉公」の関係で、鎌倉幕府は結ばれていた。しかし、元から元軍がせめてきて御家人たちが命をかけて戦ったが幕府からほうびの土地がもらえず、しだいに不満を持つようになり、こうして幕府と武士との関係がくずれた。

〈A「十分満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

武士が現れて、武士は貴族の争いで使われようになり、たんだん力をもていき、源氏と平氏の争いが起こった。平氏のトップは平清盛で、源氏のトップは源頼朝だった。最後には源氏が壇ノ浦の戦いで勝利した。頼朝は鎌倉幕府を開いた。幕府には多くの御家人が従っていた。幕府は「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていた。頼朝の死後、北條氏からしりかたになり、政治を行った。後に、元と戦い、追いついたが、幕府は土地か手にはいらず御家人にあげられなかった。御家人たちはかんばんを元においがえしたのに、ほうびがもらえずに不満をもていき幕府と御家人の関係がくずれ、鎌倉幕府はおとろえていった。

「ご恩」と「奉公」の関係が崩れたことを、幕府と御家人の双方の立場から考え、記述することができているので、A「十分満足できる」状況と判断した。

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級は、歴史の学習や調査活動への興味・関心は高いが、知識や技能の個人差が大きく、歴史的事象を関連付けて考えることができない児童が多かった。

単元の目標

武士による政治の始まりに関心を持ち、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて調べることを通して、貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことが分かるようにする。

本時以外の目標達成状況の分析

指導計画の主な時間における目標達成状況を、以下のように分析した。

◎第2時の目標(「社会的事象への関心・意欲・態度」と「観察・資料活用の技能」)

- ・平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心を持ち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べ、武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を、図や文にまとめることができるようにする。

○目標達成状況

「社会的事象への関心・意欲・態度」の観点にかかわる目標達成状況を、主に観察・発言により評価した。

- ・平清盛・源頼朝・源義経の働きに関心を持ち、源平の戦いや時代の変化について意欲的に調べている児童は、89%であった。

「観察・資料活用の技能」の観点にかかわる目標達成状況を、主に学習プリントにより評価した。

- ・武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を、図や文にまとめている児童は、93%であった。

以上のことから、第2時の目標達成状況(どちらの観点も達成)は、89%であると判断した。

なお、目標を達成した児童の学習状況は、以下の通りであった。

- ・ A 「十分満足できる」と判断した児童の例
 - 〈関〉…3人の武将について、生い立ちや戦い方に関心を持ち、教科書や資料集などを使って、源平の戦いなど武士が政権を握るまでの過程を意欲的に調べていた。
 - 〈技〉…武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を地図や年表などを活用し、それぞれを関連付けながら整理していた。
- ・ B 「おおむね満足できる」と判断した児童の例
 - 〈関〉…3人の武将について関心を持ち、教科書を使って源平の戦いについて意欲的に調べていた。
 - 〈技〉…武士が力を付けていったことや、源氏が平氏に勝利した経緯を地図や年表から必要な情報を集め、まとめていた。

★手立てを講じた後の児童の学習状況

〈関〉…源平の戦いでどちらが勝利したのか見付けさせたことにより、武士の戦いに興味をもち、意欲的に調べようとしていた。

〈技〉…3人の武将の中の一人に着目させ、どのような働きをしたのか教科書に線を引かせ、読み取らせたことにより、その人物を中心にまとめていた。

◎第3時の目標(「観察・資料活用の技能」と「社会的事象についての知識・理解」)

- ・鎌倉幕府の仕組みについて調べたことを、図や文にまとめ、全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として、幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解できるようにする。

○目標達成状況

「観察・資料活用の技能」の観点にかかわる目標達成状況を、主に学習プリントにより評価した。

- ・鎌倉幕府の仕組みについて調べたことを図や文にまとめることができた児童は、85%であった。

「社会的事象についての知識・理解」の観点にかかわる目標達成状況を、主に学習プリントにより評価した。

- ・全国に守護と地頭を置いた鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係を調べ、鎌倉幕府の特徴として、幕府と御家人が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解できた児童は、65%であった。

以上のことから、第3時の目標達成状況(どちらの観点も達成)は、62%であったと判断した。

なお、目標を達成した児童の学習状況は、以下の通りであった。

- ・A「十分満足できる」と判断した児童の例

〈技〉…守護と地頭、「ご恩」と「奉公」の関係以外にも、政所・問注所・侍所・六波羅探題などの各機関について、資料集を中心に調べてまとめることができた。

〈知〉…全国に置かれた守護と地頭の仕組みや幕府と御家人による「ご恩」と「奉公」の関係が、鎌倉幕府の支配体制の根幹を成すことを記述している児童を、A「十分満足できる」状況とおさえていた。しかし、本時でA「十分満足できる」状況に達する児童はいなかった。

- ・B「おおむね満足できる」と判断した児童の例

〈技〉…「ご恩」と「奉公」の関係を中心とした幕府と御家人の関係や、全国に配置された守護と地頭の役割などを教科書から調べていた。

〈知〉…幕府が御家人を任命して全国に守護と地頭を置いたことと、幕府と御家人の関係が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを、学習プリントに記述していた。

★手立てを講じた後の児童の学習状況

〈技〉…全国各地に何を置いて政治体制を整えたか考えさせたことにより、守護と地頭の設置を教科書から見付けることができ、鎌倉幕府の仕組みについてまとめていた。

〈知〉…「ご恩」と「奉公」の関係図にある矢印の意味を考えさせたことにより、幕府と御家人の關係に気付いた。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・ 貴族中心の世の中から武士が勢力をもつようになったことと、鎌倉幕府の仕組みや幕府と御家人の関係、元との戦いで鎌倉幕府が衰えたことをとらえ、時代が変化したことをまとめ、記述できるようにする。

◇授業仮説

- ・ 元との戦いと、「ご恩」と「奉公」との関係を関連付けて考えさせる発問を工夫することにより、単元のまとめができ、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

元との戦いにおいて、補助発問「なぜ北条時宗の命令で、全国の御家人が集まってきたのでしょうか。」により、全国の御家人が集まった理由を「ご恩」と「奉公」の関係から考えさせることができた。

主発問「なぜ元を撃退したのに、鎌倉幕府は衰えることになったのでしょうか。」により、強大な元軍を撃退した事実と幕府が衰退した事実との関連を、「ご恩」と「奉公」の関係から考えさせることができた。また、既習事項と併せて鎌倉時代の移り変わりをとらえさせることもできた。

総括的評価による単元の目標達成状況の把握

学習評価シートと、単元の指導後に行ったテストを踏まえ、単元の目標達成状況を以下のように把握した。

〈社会的事象への関心・意欲・態度〉

主に、第2時の3人の武将に着目して調べる活動において、児童の観察・発言を基に評価した。

その結果、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いとそれらにかかわる人物の働きに関心を持ち、時代の変化について意欲的に調べていた児童は、93%であった。

〈社会的な思考・判断・表現〉

主に、第1時の学習問題を設定する場面と第4時の鎌倉時代についてまとめる場面において、学習プリントを基に評価した。また、単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、学習問題を見だし追究し、幕府と御家人の関係がどのように変化したか考え、適切に表現していた児童は、85%であった。

〈観察・資料活用の技能〉

主に、第1時から第3時までの資料を読み取る場面や資料を活用してまとめる場面において、学習プリントを基に評価した。単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、資料を活用して武士の特徴を読み取り、源平の戦いの経緯や鎌倉幕府の仕組みなどを図や文にまとめていた児童は、85%であった。

〈社会的事象についての知識・理解〉

主に、第3時の鎌倉幕府の特徴についてまとめる場面において、学習プリントを基に評価した。また、単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、全国に守護と地頭を置いたことと、幕府と御家人の関係が「ご恩」と「奉公」の関係で結ばれていたことを理解していた児童は、100%であった。

以上のことから、単元の目標達成状況は、85%であると把握した。

9 学習評価シート (※は、関心・意欲・態度の状況を表している。)

No.	抽出児童名	診断的評価による分析			見付ける			求める			高める	総合的評価の結果
		①技能	①思考・判断・表現	②関心・意欲・態度	②技能	③技能	③知識・理解	④思考・判断・表現				
1	F 児	<p>・歴史に対する興味・関心が高く知識も豊富である。元寇について、教科書の記述内容以外のことも知っているが、発言力はあ</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、服装や建物、食事、行動など、多くの視点から取り違いを指摘していた。</p>	<p>(A) (B) (C) ※自分の知識を関連付けてながら、意欲的に調べた。</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、服装や建物、食事、行動など、多くの視点から取り違いを指摘していた。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>	
2	O 児	<p>・歴史上の人物に関心が高く、名前のみではあるが、鎌倉時代の武将も知っている。図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ・貴族と武士の暮らしについて、様々な視点から取り違いを指摘していた。</p>	<p>(A) (B) (C) ※3人の武将について、資料集などから、それぞれの意欲的に調べていた。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>		
3	T 児	<p>・歴史の学習は、覚えることが多いというイメージがあり、あまり好きではない。発言は、図や文にまとめることも苦手としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>			
4	H 児	<p>・歴史は好きだと回答しているが、支那がいないと活動に組み立てることが多い。歴史の漫画を読み、戦国武将について名前を知っている。図や文にまとめることを苦手としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>			
5	K 児	<p>・元寇という言葉は知っているが、源頼朝などの武将の名前は知らない。アレヒや本などを通し、歴史に対して興味をもっている。図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>			
6	Y 児	<p>・歴史の本を好み、幅広い知識を身に付けている。歴史上の人物について詳しく、特に戦国武将はよく知っている。図や文にまとめることは得意としており、発言力もある。</p>	<p>(A) (B) (C) ・武士と貴族の暮らしについて、図や文にまとめることを得意としている。</p>	<p>(A) (B) (C) ①思考・判断・表現</p>	<p>(A) (B) (C) ②関心・意欲・態度</p>	<p>(A) (B) (C) ③技能</p>	<p>(A) (B) (C) ③知識・理解</p>	<p>(A) (B) (C) ④思考・判断・表現</p>	<p>○社会的対象への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○社会的な思考・判断・表現 (A) (B) (C) ○観察・資料活用の技能 (A) (B) (C) ○社会的対象についての知識・理解 (A) (B) (C)</p>			

身の回りにあるものの長さや体積を比べる学習

日 時 平成23年9月15日(木) 5校時 実施
 児 童 旭川市立神楽小学校第1学年1組 23名
 指導者 北 川 真 美

1 単元名 「おおきさくらべ(1)」(啓林館 1年)

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

【学習指導要領】～第1学年(算数科)の目標と内容～

1 目 標

(2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。

2 内 容

B 量と測定

(1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア 長さ、面積、体積を直接比べること。

イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

これまで算数では、「かずとすうじ」、「たしざん(1)」、「ひきざん(1)」、「20までのかず」の単元で、数の数え方や正しく計算することを学習してきた。また、「いろいろなかたち」では、身の回りにある具体物を用いて、箱の形、筒の形、その他の形に分類し、それぞれの特徴を見付けることも学習してきた。

本単元では、長さや体積の直接比較、間接比較、任意単位を用いた比較を学習する。身の回りにある具体物を用いた測定を通して、長さが長いとは、体積が大きいとはといった、それぞれの量の意味やその測定の仕方についての理解をより確かなものとする。これらの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を繰り返し、量の大きさについての感覚を豊かにすることがねらいである。

なお、本単元では「おおきさくらべ(1)」5時間扱いのうち、長さ比べ、かさ比べの4時間分について取り上げた。

〈児童観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが分かった。

第三章

「算数への関心・意欲・態度」については、これまでの学習状況及び事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・算数の学習はとても好き、または好きと答えていた児童は、96%であった。
- ・算数セットのおはじきやブロックを使う操作活動に興味・関心をもっている児童は、79%であった。

「数学的な考え方」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・引き算の「ちがいはいくつ」では、比べる側のブロックを並べたり乗せたりするなどの操作活動で、ほとんどの児童が解決方法を見付けることができていた。しかし、多様な方法で考えることができる児童は少なかった。

「数量や図形についての技能」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・「たしざん(1)」や「ひきざん(1)」では、正確に素早く計算する方法をほとんどの児童が身に付けていた。
- ・「いろいろなかたち」では、四角、三角、丸の形の積み木を紙に写し取り、それを利用して、ほとんどの児童が形を組み合わせて自由に絵を描くことができていた。

「数量や図形についての知識・理解」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・真っ直ぐに伸びたひもと曲がったひもの長さを比べる問題では、57%の児童が正解していた。
- ・同じ容器に入っている水のかさを比べる問題では、96%の児童が正解していた。

これらの結果により、本学級は、算数の学習への興味・関心は高く、既習の知識や技能をほとんどの児童が身に付けている。しかし、具体物を用いた活動などを通して、多様な解決方法で考えることについては、個人差が大きいということが分かった。

〈指導観〉

本単元では、「ながさくらべ」や「かさくらべ」において、具体物を用いた操作活動を通して、多様に考え表現する力を身に付けるようにしたい。また、身の回りにあるものの長さや体積を直接比較、間接比較、任意単位を用いて比べることができるようにしたい。

そのために、実際に具体物を用いて長さやかさを比べる活動を通して、どちらが長いか、どちらが多いかを考え、理由を付けて説明することで、量の意味やその測定の仕方についての理解をより確かなものとしていく。また、実際に身の回りにあるものの長さを比べる活動を通して、比較の仕方を考え、直接比較、間接比較を用いて比べることができるようにする。さらに、任意単位を用いた比較の仕方を考えることを通して、幾つ分で数値化して測定することができるようにしていく。

3 単元の目標

身の回りにあるものの長さや体積を比べる活動を通して、長さや体積に関心を持ち、その比べ方を考え、直接比較と間接比較の仕方、任意単位を用いた比べ方を理解し、工夫して比べることができるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準			
算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
身の回りにあるものの長さや体積に関心をもち、長さやかさを比べようとし、比べ方を工夫しようとしている。	身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えている。	複数の容器に入る水のかさを、直接比較と間接比較を使って比べることができる。	長さや体積の大きさについての比べ方を理解し、量の大きさについての感覚を豊かにしている。
1 単位時間の評価規準			
① 2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長いか予想し、比べようとしている。	② 身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えている。	③ 複数の容器に入る水のかさを、直接比較と間接比較を使って比べることができる。	① 端をそろえたり、真っ直ぐ並べたりして比べる直接比較や、媒介物を使って比べる間接比較の仕方を理解している。 ④ 複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解している。

5 指導と評価計画

□ 1 単位時間の学習課題 □ 1 単位時間の問題文 ★ 努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
1	◎ 2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長いか予想してから、端をそろえたり、真っ直ぐ並べたりして比べ、直接比較や、媒介物を使って比べる間接比較の仕方を理解できるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">あかいえんぴつとあおいえんぴつでは、どちらがながいでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ながさのくらべかたをみつけよう。</div> <p>○ 2本の鉛筆や2本のひもについてどちらが長いか予想し、比べる。 ★実際に端をそろえて測らせる。 ○ はがきの縦と横の長さについてどちらが長いかなを比べる。 ★角を折って端がそろっていることと、真っ直ぐに重なっていることを確認させる。 ○ 教卓と入り口の長さを比較し、比べ方を考える。 ★紙テープを渡して比べ方を考えさせる。 ○ 長さの比べ方を学習プリントにまとめる。 ★板書に示した比べ方を見せて考えさせる。</p>	<p>〈関〉 観察，発言 2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長いかなを予想し、比べようとしている。</p> <p>〈知〉 学習プリント 端をそろえたり、真っ直ぐ並べたりして比べる直接比較や、媒介物を使って比べる間接比較の仕方を理解している。</p>
2 (本時)	◎ 身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えることができるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">つくえのたてとよこでは、どちらがながいでしょう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">どうやっくらべたらよいでしょう。</div>	

第三章

<p>2 (本時)</p>		<p>○机の縦と横の長さの比べ方について見通しをもつ。 ○身の回りにあるものを任意単位として、机の縦と横の長さを比べる。 ★端をそろえて幾つ分になるか比べさせる。 ○身の回りにある違うものを使って、机の縦と横の長さを比べる。 ○比べ方を学習プリントにまとめ、説明する。 ○任意単位になるものを見付け、その幾つ分になるか考え、練習問題を解いて説明する。 ★任意単位になるものに、順に数字を書かせて数えさせる。</p>	<p>〈考〉学習プリント 身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えている。</p>
<p>3</p>	<p>◎複数の容器に入る水のかさを、直接比較と間接比較を使って比べることができるようにする。</p>	<p>みずがおおくはいるのは、どちらのびんでしょう。</p> <p>みずのかさをくらべよう。</p> <p>○2つの容器について、どちらに水が多く入るか予想し、比べ方を考える。 ○直接比較と間接比較を使って、2つの容器に入る水のかさを調べる。 ★直接比較と間接比較の比べ方を示し、比べさせる。 ○3つの容器について、どれに一番多く水が入るか予想し、比べ方を考える。 ★同じ容器に移し入れて、比べさせる。</p>	<p>〈技〉観察 複数の容器に入る水のかさを、直接比較と間接比較を使って比べることができる。</p>
<p>4</p>	<p>◎複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解できるようにする。</p>	<p>すいとうのみずは、どちらがおおくはいつているでしょう。</p> <p>おなじこつぶをつかうくらべかたを、みつけよう。</p> <p>○同じコップを用いて、2つの水筒のどちらに水が多く入るか予想し、比べ方を考える。 ○2つの容器に入っている水のかさを、同じコップを用いて、その何杯分か調べる。 ○3つの容器に入っている水のかさを比べる練習問題を解き、コップ幾つ分かで説明する。 ★同じ大きさのコップに番号を書かせる。</p>	<p>〈知〉学習プリント 複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解している。</p>

6 本時の学習（4時間扱い 2／4）

(1) 目 標

- ・身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えることができるようにする。

(2) 授業仮説

- ・比べ方について説明する言語活動を行うことにより、目標を達成することができるであろう。

(3) 展 開

	教師の活動	児童の活動	評 価
見 付 け る	1 本時の問題文を提示する。 つくえのたてとよこでは、どちらがながいでしょう。	1 本時の問題文を確認する。	
	2 机の縦と横の長さを比べるにはどうしたらよいか、前時を振り返りながら比べ方に関心をもたせる。 「どんな比べ方があるかな。」	2 机の縦と横を比べるにはどうしたらよいか、前時を振り返りながら比べ方を確認する。 ・重ねる。 ・隣と比べる。 ・紙テープを使う。	
	3 学習課題を提示する。 どうやっくらべたらよいでしょう。 「今日は、今までの比べ方ではない新しい比べ方を見付けます。」	3 学習課題を把握する。	
求 め る	4 学習課題を把握させ、見通しをもたせる。 「皆さんの身の回りにあるものを使って比べられます。」	4 課題解決の見通しをもつ。 ・鉛筆でできるかな。 ・消しゴムでも比べられるかな。	
	5 任意単位として使うものを1つ決めて、比べさせる。 「選んだものを使って、机の縦と横の長さを比べましょう。」	5 使うものを決めて、比べる。 ・僕は、鉛筆を使うよ。 ・私は、消しゴムを使うよ。	
	6 幾つ分を使って比べていた児童に例示させる。 「どうやって比べたのか発表してもらいましょう。」	6 幾つ分を使って比べていた児童が、比べ方を発表する。 ・鉛筆を机に置いて比べました。縦が4つと横が6つになりました。	
	7 自分で選んだ身の回りにあるものを使って、机の縦と横の長さを再度比べさせる。 「自分の使っているもので比べてみましょう。」 ★端をそろえて幾つ分になるか比べさせる。	7 自分で選んだ身の回りにあるものを使って、机の縦と横の長さを比べる。 ・私は、消しゴムで机の縦と横の長さを比べました。消しゴムが重ならないように気を付けて比べました。机の縦の長さは消しゴム8個で、横の長さは消しゴム13個になりました。	
	8 身の回りにある違うものを使って、机の縦と横の長さを比べさせる。 「さっき選んだものと違うものを選びましょう。」 「プリントに自分が選んだものを書きましょう。」 「縦の長さを調べてプリントに書きましょう。」 「横も同じように調べましょう。」	8 身の回りにある違うものを使って、机の縦と横の長さを比べる。 ・鉛筆で調べよう。 ・鉛筆。 ・縦は、鉛筆の3つ分。 ・横は、鉛筆の4つ分。	
	9 比べ方を説明させる。 「自分の比べ方を発表してください。」	9 自分の比べ方を説明する。 ・僕は、鉛筆で比べました。机の縦は鉛筆4つ分、横は鉛筆6つ分でした。だ	

第三章

求める	<p>「皆さん、机の縦と横の長さではどちらが長かったでしょう。」 「どうして横が長いと分かりましたか。」</p>	<p>から、横が長いです。 ・私は、消しゴムで比べました。机の縦は消しゴム6つ分、横は消しゴム9つ分でした。だから、横が長いです。 ・横です。 ・横の方の数が多かったよ。 ・数で比べたよ。 ・どちらも幾つ分だから比べられたよ。</p>	
	<p>10 本時の学習をまとめさせる。 「今日の比べ方は、何比べですか。」</p>	<p>10 本時の学習をまとめる。 ・幾つ分比べ。</p>	
	いくつぶんくらべられる。		
高める	<p>11 任意単位になるものを見付け、その幾つ分になるか考え、練習問題を解いて説明させる。 「鉛筆とのりの問題を見てください。これも幾つ分で比べられるかな。」 「この中に、幾つ分が分かるものがあります。何でしょう。」 「どのようにして比べましたか。プリントに書きましょう。」</p> <p>★任意単位になるものに、順に数字を書かせて教えさせる。</p>	<p>11 任意単位になるものを見付け、その幾つ分になるか考え、練習問題を解いて説明する。 ・比べられます。 ・(プリントにある) 四角いますです。</p>	<p>〈考〉学習プリント A 身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせるできない3つのものの長さを、その幾つ分になるか数値化して表す比べ方を考えている。 B 身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせるできない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えている。</p>
	<p>12 答え合わせをさせる。 「答え合わせをしましょう。」</p>	<p>12 答え合わせをする。 ・鉛筆はまず7つ分で、のりはまず6つ分でした。だから、鉛筆の方が長いです。 ・赤い列車は車両の9つ分で、青い列車は車両の8つ分です。だから、赤い列車の方が長いです。</p>	
	<p>13 本時の学習を振り返らせる。 「今日は、幾つ分で比べることを学習しましたね。」</p>	<p>13 本時の学習を振り返る。 ・幾つ分の比べ方が分かりました。</p>	

(4) 板書計画



7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:15	<p>○机の天板を取り出し見せる。</p> <p>T ここは机のどこでしょう。 (机の天板の縦を示す。) (机の天板の横を示す。)</p>	<p>C₁ 机だ。 C₂ 端です。 C₃ 縦です。 C₄ 横です。</p>
13:17	<p>○本時の問題を提示する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">つくえのたてとよこでは、どちらがながいでしょう。</p> <p>T 今日の問題です。皆さんで読んでみましょう。</p> <p>T 簡単だと言う人がいましたが、どうしたら分かりますか。</p> <p>T 今までどんな比べ方がありましたか。</p> <p>T ひもを使ったときもありましたね。他にはどんな比べ方がありますか。</p> <p>T はがきは折れたけれど、机を折ることはできますか。</p>	<p>C_全 机の縦と横では、どちらが長いでしょう。 C₁ 分かるよ。簡単だ。 C₁ 目で見たら分かります。 C₂ 引っ張る。ひもで測って比べる。 C₄ 折って比べる。 C₄ 折れません。</p>
13:18	<p>○本時の学習課題を提示する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どうやってくらべたらよいでしょう。</p> <p>T 今日の課題です。皆さんで読んでみましょう。</p> <p>T 新しい比べ方を考えます。</p>	<p>C_全 どうやって比べたら、よいでしょう。 C 新しい比べ方って何だろう。(多数)</p>
13:21	<p>○学習課題を把握させ、見通しをもたせる。</p> <p>T 実は、皆さんの身の回りにあるもので比べることができます。</p> <p>T 消しゴムで比べることができます。</p> <p>T 鉛筆でも比べることができます。</p> <p>T 残念ですが、定規は2年生で勉強します。</p> <p>T 筆入れでもできます。</p> <p>T ピーンと伸ばしたらできます。</p>	<p>C₁ 消しゴムでもできるかな。 C₅ 鉛筆でもいいかな。 C₃ 定規もできますか。 C 筆入れもできるかな。(多数) C₆ 紙もできますか。</p>
13:24	<p>○任意単位として使うものを1つ決めて、比べさせる。</p> <p>T 皆さん、身の回りにあるものから1つ選んで自分の机の縦と横の長さでは、どちらが長いか比べてみましょう。</p>	<p>※自分の机を使って縦と横の長さを比べる。</p>
13:26	<p>○幾つ分を使っていた児童に例示させる。</p> <p>T どうやって比べたのか発表してもらいましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>C₇ 私は、筆入れで比べました。端をそろえて、縦が1つで、横が2つでした。</p> <p>C₈ 僕は、筆入れで比べました。縦が1つとちょっと。横が2つとちょっとでした。</p> </div> <p>※指名された児童が前に出て、机の天板を使って縦と横の長さの比べ方を発表する。</p>

第三章

13:31	○自分で選んだ身の回りにあるものを使って、机の縦と横の長さを再度比べさせる。	
	T 今のと同じもので、もう一度比べてみましょう。	C ₉ 僕は、鉛筆で比べました。縦が2個です。横3個です。
		※指名された児童が前に出て、机の天板を使って縦と横の長さの比べ方を発表する。
13:34	○身の回りにある違うものを使って、机の縦と横の長さを比べさせる。	
	T さっき選んだものと違うものを使って比べましょう。	※次に使うものを何にするか決める。
	T プリントに選んだものを書きましょう。選ぶものは1つだけです。	※プリントに選んだものの名前を記入する。また、机の縦と横の長さが選んだものの幾つ分か数字を記入する。
	T 縦から調べましょう。	
13:37	○比べ方を説明させる。	
	T 違うもので比べることができた人は、前に出て説明しましょう。(2名指名する。)	C ₁₀ 端をそろえて鉛筆だと、縦は2つ分と横が4つ分です。
		C ₅ 消しゴムは、縦が4つ分です。横が6つ分です。
		※指名された児童が前に出て、机の天板を使って縦と横の長さの比べ方を発表する。
13:40	○机の縦と横の比べ方をまとめる。(黒板で提示する。)	
	T 机の何を比べましたか。	C ₁₁ 縦と横の長さです。
	T 比べるときに気を付けることは何ですか。	C ₃ 端をそろえることです。
	T 縦は鉛筆(黒板に提示したもの)の幾つ分ですか。	C 3つ分です。(多数)
	T 横は。(何の幾つ分ですか。)	C 鉛筆の4つ分です。(多数)
	T だから。(どちらが長いですか。)	C だから、横の方が長いです。(多数)
	T 縦じゃなくていいの。	C 横です。(多数)
	T 他の人はどうなりましたか。	C ₄ 僕は、消しゴムで比べました。縦が6個で、横が7個でした。だから、横が長いです。
	T 横の方が長い人。	C _全 はい。
	T どうして横が長いって分かりますか。	C ₂ 数が横の方が大きいから。
	T 数は、幾つ分を比べたものです。幾つ分の大きい方が長いことが分かります。	
<p>身の回りにあるものを使って比べ方を説明する言語活動が、本時の目標達成に向けた主な手立てである。幾つ分に着目したC₇、C₈や、C₉(同じもので測り直す)、C₁₀、C₅、C₄(違うもので測って学習プリントにものと数字を書く)の説明する言語活動を通して、多くの児童は数値化する比べ方に気付くことができた。</p>		
13:46	○本時の学習をまとめさせる。	
	T 今日の比べ方は、何ですか。	C 数字比べです。(多数)

	<p>T 数は幾つ分なので、幾つ分比べとも言います。長さは幾つ分で比べられるので、何比べと言ったらいですか。</p>	<p>C 幾つ分比べです。(多数)</p>
<p>13:48</p>	<p>○任意単位になるものを見付け、その幾つ分になるか考え、練習問題を解いて説明させる。(黒板に練習問題を提示する。)</p> <p>T 本当に分かったか、練習問題をしたいと思います。鉛筆とのりは幾つ分で比べられますか。</p> <p>T 幾つ分で比べられるものは何ですか。</p> <p>T この四角の名前は何と言いますか。</p> <p>T 枠のことをますと言います。ますで比べられます。どこからどこまで比べますか。</p> <p>T 分からない人は、ますに数を書いて数えます。(黒板のますに数字を書き入れ、例示する。)それでは、問題を解いてみましょう。</p>	<p>C 比べられます。(多数)</p> <p>C₂ (絵のますを指して)ここの四角で幾つ分が比べられます。</p> <p>C₁₂ 枠です。</p> <p>C₂ 端から端まで数えます。</p> <p>※学習プリントの練習問題を解く。</p>
<p>13:55</p>	<p>○答えを確認する。</p> <p>T 答え合わせをします。鉛筆は、ますの幾つ分でしたか。</p> <p>T のりは、ますの幾つ分でしたか。</p> <p>T どちらが長いですか。</p> <p>T できた人は、赤鉛筆で丸を付けましょう。</p>	<p>C₁₃ 鉛筆は、ますの7つ分です。</p> <p>C₁₄ のりは、ますの6つ分です。</p> <p>C 鉛筆の方が長いです。(多数)</p> <p>※赤鉛筆で採点する。</p>
<p>13:56</p>	<p>T 最後の問題(赤い列車と青い列車の長さを比べる問題)です。これは、(列車を示して)何ですか。</p> <p>T 幾つ分が分かるものはどれですか。</p> <p>T それでは、始めてください。できた人は、スペシャル問題があるので、こちらから持って行ってください。</p>	<p>C 列車です。(多数)</p> <p>C 1両です。(多数)</p> <p>※学習プリントの練習問題を解く。</p> <p>※できた児童は、黒板前に置いてある学習プリントを取り、3つの鉛筆の長さを比べる問題を解く。</p>
<p>13:57</p>	<p>○本時の練習問題の答えを確認する。(列車の問題)</p> <p>T 答え合わせをします。できた人。</p>	<p>C₆ 赤い列車は9つ分です。</p> <p>C₁₅ 青い列車は8つ分です。</p> <p>C₁₆ 赤い列車が長いです。</p>
<p>本時の練習問題を解いて比べ方を説明する活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、ますや車両を任意単位として数値化して表し、重ね合わせることができない2つのものの長さを比べることができた。</p>		
<p>13:59</p>	<p>○本時の学習を振り返らせる。</p> <p>T 今日のまとめを書きましょう。</p>	<p>※学習プリントにまとめを記入する。</p>
<p>14:00</p>	<p>T 今日の比べ方は、何比べでしたか。</p> <p>T これで5時間目を終わります。</p>	<p>C_全 今日の比べ方は、幾つ分比べです。</p>

◇本時の目標達成状況

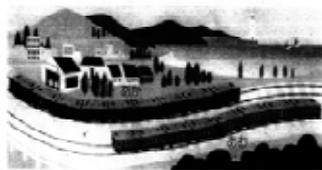
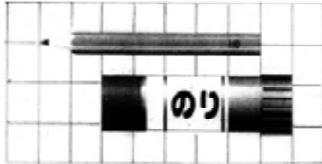
主に練習問題を解く場面において目標達成状況を評価した。練習問題を全て正解し、目標を達成することができたと考えられる児童は、82%であった。

なお、82%のうち、重ね合わせることができない3つのものの長さを比べる問題で、時間内に解くことができ、A「十分満足できる」と判断される児童は、39%であった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

練習問題

どちらが ながいですか。



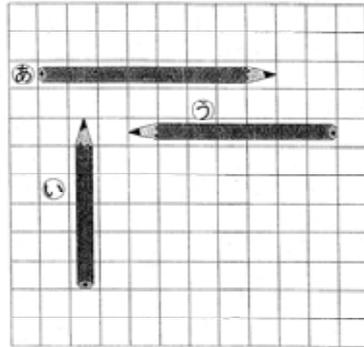
○えんぴつは、口の(7)つぶん。
○のりは、口の(6)つぶん。
だから(えんぴつ)のほうがながいです。

○あかい れっしゃは、(9)の(9)つぶんです。
○あおい れっしゃは、(8)の(8)つぶんです。
だから(あかい) れっしゃのほうが ながいです。

〈A「十分満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

スペシャル問題

★ どのえんぴつが ながいでしょう。



①のえんぴつは、ます(8)つぶん。
②のえんぴつは、ます(6)つぶん。
③のえんぴつは、ます(7)つぶん。

だから(あ)のえんぴつが いちばん ながいです。



重ね合わせることができない3つの鉛筆の長さを、ますを任意単位としてその幾つ分になるか数値化して考え、比べることができているので、A「十分満足できる」状況と判断した。

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級は、算数の学習への興味・関心は高く、既習の知識や技能をほとんどの児童が身に付けていた。しかし、具体物を用いた活動などを通して、多様な解決方法で考えることについては、個人差が大きいことが分かった。

単元の目標

身の回りにあるものの長さや体積を比べる活動を通して、長さや体積に関心をもち、その体積の比べ方を考え、直接比較と間接比較の仕方、任意単位を用いた比べ方を理解し、工夫して比べることができるようにする。

本時以外の目標達成状況の分析

指導計画の主な時間における目標達成状況を、以下のように分析した。

◎第1時の目標（「算数への関心・意欲・態度」と「数量や図形についての知識・理解」）

- ・2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長いか予想してから、端をそろえたり、真っ直ぐ並べたりして比べる直接比較や、媒介物を使って比べる間接比較の仕方を理解できるようにする。

○目標達成状況

「算数への関心・意欲・態度」の観点にかかわる目標達成状況を、主に観察・発言により評価した。

- ・2つのものの長さの比べ方に関心をもち、どちらが長いか予想し、比べようとしている児童は、100%であった。

「数量や図形についての知識・理解」の観点にかかわる目標達成状況を、主に学習プリントにより評価した。

- ・端をそろえたり、真っ直ぐ並べたりして比べる直接比較や、媒介物を使って比べる間接比較の仕方を理解している児童は、91%であった。

以上のことから、第1時の目標達成状況(どちらの観点も達成)は、91%であると判断した。

なお、目標を達成した児童の学習状況は、以下の通りであった。

- ・A「十分満足できる」と判断した児童の例

〈関〉…はがきの縦と横の長さについてどちらが長いか予想し、はがきを折って縦と横の長さを比べる方法に気付き、進んで発表していた。

〈知〉…本時の評価場面では、B「おおむね満足できる」状況の評価した。

- ・B「おおむね満足できる」と判断した児童の例

〈関〉…2つの鉛筆やひもの長さの比べ方について、どちらが長いか予想してから、実際に比べていた。

〈知〉…2つのものの長さを比べる問題について比べ方を理解し、問題を解き正解していた。

- ★手立てを講じた後の児童の学習状況

〈知〉…板書に示した比べ方を見せて、考えさせたことにより、比べることに気付いた。

◎第4時の目標（「数量や図形についての知識・理解」）

- ・複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解できるようにする。

○目標達成状況

「数量や図形についての知識・理解」の観点にかかわる目標達成状況を、主に学習プリントにより評価した。

- ・複数の容器に入っている水のかさを、基準量の幾つ分になるか、数値化して表す比べ方について理解している児童は100%であった。

以上のことから、第4時の目標達成状況は、100%であると判断した。

第三章

なお、目標を達成した児童の学習状況は、以下の通りであった。

- ・ A「十分満足できる」と判断した児童の例
〈知〉…本時の評価場面では、B「おおむね満足できる」状況の評価した。
- ・ B「おおむね満足できる」と判断した児童の例
〈知〉…やかん、水筒、ポットの3つの容器に入っている水のかさを比べる練習問題において、コップ幾つ分かで比べることを理解し、正解していた。

★手立てを講じた後の児童の学習状況

〈知〉…同じ大きさのコップに番号を書かせたことにより、コップの数によって水のかさが比べられることを理解し、水のかさが一番多いものを選ぶことができた。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・身の回りにあるものを任意単位として、重ね合わせることができない2つのものの長さの比べ方について、その幾つ分になるか数値化して考えることができるようにする。

◇授業仮説

- ・比べ方について説明する言語活動を行うことにより、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

鉛筆や消しゴムなど身の回りにあるものを任意単位として、机の縦と横の長さを数値化して説明する言語活動を行った。これにより、直接比較できない場合は、任意単位を用いて数値化した数が多い方が大きいということを考えることができた。また、練習問題では、まずや車両などを任意単位とし、数値化して考えることができた。

総括的評価による単元の目標達成状況の把握

学習評価シートと、単元の指導後に行ったテストを踏まえ、単元の目標達成状況を以下のように把握した。

〈算数への関心・意欲・態度〉

主に第1時の2つのものの長さを比べる活動において、児童の観察・発言を基に評価した。また、各時間の児童の学習状況も加味して評価した。

その結果、身の回りにあるものの長さや体積に関心をもち、長さやかさを比べようと、比べ方を工夫しようとしていた児童は、100%であった。

〈数学的な考え方〉

主に第2時の練習問題を解いて数値化して説明する活動において、学習プリントを基に評価した。また、単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、任意単位を用い、数値化して考えていた児童は、82%であった。

〈数量や図形についての技能〉

主に第3時の水のかさを比べる活動において、児童の観察を基に評価した。また、単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、長さやかさの比べ方について直接比較、間接比較を適切に使って調べていた児童は、91%であった。

〈数量や図形についての知識・理解〉

主に第1時の直接比較や間接比較の仕方をまとめる場面と、第4時の任意単位を用い、数値化して表す比べ方をまとめる活動において、学習プリントを基に評価した。また、単元の指導後に行ったテストも加味して評価した。

その結果、長さや水のかさの比べ方について理解していた児童は、82%であった。

以上のことから、単元の目標達成状況は、82%であると把握した。

9 学習評価シート (※は、関心・意欲・態度の状況を表している。)

No.	抽出児童名	診断的評価による分析	①			② 数学的な考え方	③ 技能	④		総括的評価の結果
			関心・意欲・態度	知識・理解	知識・理解			知識・理解		
1	K児	たし算やひき算では、正確に素早く計算していた。計算力がある。事前テストでは、水のかさ比べの問題はできていた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C) ※2つの容器のどちらかに水が多く入るか、理由を付けて進んで発表していた。 (関心・意欲・態度)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	
2	G児	たし算やひき算では、正確に素早く計算していた。計算力がある。事前テストでは、長さ比べと水のかさ比べの問題は両方でできていた。	(A) (B) (C) ・2つのひもを伸ばして比べることに気付いた。進んで発表していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	
3	R児	おはじきやブロックを使う操作活動に興味・関心をもち、進んで取り組んでいた。事前テストでは、長さ比べと水のかさ比べの問題は両方でできていた。	(A) (B) (C) ・鉛筆の長さ比べについて、端をそろえて比べることと大切さに気付いた。進んで発表していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C) ・重ね合わせることでできない3つの鉛筆の長さを、ますを任意単位としてその幾つ分になるか数値化して考える問題が正解していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	
4	Y児	「ちがいはいくつ」では、比べる側のブロックを並べたり乗せたりする操作活動を進んで取り組んでいた。事前テストでは、水のかさ比べの問題はできていたが、長さ比べの問題はできていなかった。	(A) (B) (C) ・鉛筆の長さ比べについて、端をそろえて比べることに大切さに気付いた。進んで発表していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C) ・重ね合わせることでできない3つの鉛筆の長さを、ますを任意単位としてその幾つ分になるか数値化して考える問題が正解していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	
5	O児	数の概念が身に付いていない。計算問題では、個別に指導するとできてきた。事前テストでは、水のかさ比べの問題はできていたが、長さ比べの問題はできていなかった。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C) ・水を移し替える操作活動はできていた。しかし、水のかさを比べることはできなかった。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	
6	M児	おはじきやブロックを使う操作活動に興味・関心をもち、進んで取り組んでいた。事前テストでは、水のかさ比べの問題はできていたが、長さ比べの問題はできていなかった。	(A) (B) (C) ・はがきを折って縦と横の長さを比べる方法に気付いた。進んで発表していた。	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	(A) (B) (C)	○算数への関心・意欲・態度 (A) (B) (C) ○数学的な考え方 (A) (B) (C) ○数量や図形についての技能 (A) (B) (C) ○数量や図形についての知識・理解 (A) (B) (C)	

Column-3

目標達成率の算出について

当センターでは、本年度1単位時間の目標達成状況及び、単元の目標達成状況の割合について、以下のように算出しています。

なお、A評価を「十分満足できる」状況、B評価を「おおむね満足できる」状況、C評価を「努力を要する」状況とおさえ、B評価となった児童生徒を目標が達成されたものと判断しています。

◇ 1 単位時間の目標が 1 観点の場合

- ・ 1 単位時間の目標には、1つの観点しか含まれていません。そのため、その観点がB評価あるいは、A評価と判断した児童生徒を目標が達成されたものと判断しています。

〈計算式〉

$(A \text{ 評価の児童生徒数} + B \text{ 評価の児童生徒数}) \div \text{学級の人数} \times 100 = 1 \text{ 単位時間の目標達成率}$

◇ 1 単位時間の目標が 2 観点の場合

- ・ 1 単位時間の目標には、2つの観点の内容が含まれています。そのため、2つの観点ともにB評価以上となった児童生徒を目標が達成されたものと判断しています。

〈計算式〉

$(2 \text{ 観点とも B 評価以上の児童生徒数}) \div \text{学級の人数} \times 100 = 1 \text{ 単位時間の目標達成率}$

◆ 単元の目標達成状況の割合

- ・ 観点ごとの総括的評価結果を踏まえ、4観点全てにおいてB評価以上であった児童生徒を単元の目標が達成されたものと判断しています。

〈計算式〉

$(4 \text{ 観点ともに B 評価以上の児童生徒の人数}) \div \text{学級の人数} \times 100 = \text{単元の目標達成率}$

☆ 総括的評価について

単元末に行う総括的評価は、1単位時間ごとに児童生徒の学習状況を記録した「学習評価シート」と、単元の指導後に行ったテストの結果を踏まえ、観点別学習状況の評価の観点(4観点)に基づいて評価しています。したがって、単元全体を通した児童生徒の変容や知識・技能等の高まりも併せて評価しています。そのため、1単位時間の形成的評価により判断された評価(A評価、B評価、C評価)が、そのまま各観点の総括的評価になるわけではありません。特に、「関心・意欲・態度」は、単元の導入時と単元末とでは、児童生徒の変容が期待でき、児童生徒の学習状況を適時記録し、総括的評価に生かすことができるよう工夫しています。

第Ⅳ章 研究協力校の授業実践

- 当麻町立当麻小学校 2年 生活科
- 旭川市立正和小学校 5年 算数科
- 旭川市立知新小学校 5年 国語科
- 旭川市立緑が丘小学校 3年 国語科
- 旭川市立愛宕中学校 2年 理 科

研究協力校の授業実践 小学2年 生活科

まちたんけんを通して、 人とのかかわりを深める学習

日 時 平成23年11月16日(水) 5校時 実施
 児 童 当麻町立当麻小学校第2学年1組 27名
 指導者 西 山 あずさ

〈学校の概要〉

学校の様子	<p>当麻町は、上川のほぼ中央部に位置し、稲作を基幹産業としながら、でんすけスイカ、菊、バラなどの栽培も盛んな旭川市に隣接した農業の町である。また、電子部品工場やコンクリート工場などが進出するとともに、旭川市のベッドタウンとして、宅地化も進んでいる。</p> <p>本校には、239戸から317名の児童が通学している。平成11年、煉瓦造りの校舎が、夢、愛、翔をテーマとした近代的でモダンな校舎に改築された。それは、屯田兵村として歴史と伝統を受け継ぎ、郷土と子どもを愛する町民の熱い心の現れでもある。</p>
研究の内容	<p>「伝え、高め合う授業づくり」を研究主題としている。生活科、理科を窓口として言語活動を積極的に取り入れた指導法の改善を図ることをねらっている。子ども一人一人が、主体的に考え、表現し、交流し合える授業を展開することで、思考力、判断力、表現力の育成を目指している。なお、今年度は、3カ年計画の3年次である。</p>

1 単元名 「おみせたんけん」(教育出版 1・2年)

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

<p>【学習指導要領】～第1・2学年(生活科)の目標と内容～</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。</p> <p>2 内 容</p> <p>(3) 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに愛着を持ち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。</p>
--

これまで生活科では、学校周辺にある図書館やどんなお店があるか調べる町探検を行い、「お店のことがもっと知りたい。」「今度は、お店の人に質問したい。」「働いている姿を見たい。」という願いが出てきた。

本単元では自分たちの住んでいる身近な地域の人や施設などに関心を持ち、探検を通してこれらの人や施設と適切にかかわっていく。これらの活動を通して、地域が自分たちの生活とかかわっていることが分かり、さらにかかわりを広げたり深めたりすることがねらいである。

なお、本単元では「しゅっぱつなかよしたんけんたい」19時間扱いのうち、「おみせたんけん」の5時間分について取り上げた。

第Ⅳ章

〈児童観〉

本單元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが分かった。

「生活への関心・意欲・態度」については、事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・生活科の学習は好きと答えていた児童は、78%であった。また、嫌いと答えた児童はいなかった。
- ・学習以外で行ったことのある地域の場所では、スーパーマーケットや公共施設に行った児童は多いが、商店街や個人のお店には学習以外で利用したことがない児童が多かった。

「活動や体験についての思考・表現」については、これまでの学習状況及び事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・アサガオや野菜、虫を育てるときにどんなことが必要か自分たちで調べ、実践している児童が多かった。
- ・絵や作品で自分の考えを表現することは得意な児童が多いが、言葉で表すことは苦手としている児童が多かった。

「身近な環境や自分についての気付き」については、事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・学校や自分の住んでいる町が好きな児童は、93%だった。
- ・学校の近くで、好きな場所、好きな人、好きなものがないと答えた児童は、85%だった。
- ・町を他の人に自慢できないと答えた児童は、89%だった。

これらの結果により、本学級は、生活科の学習への興味・関心は高く、調べたり、観察したりする活動が好きな児童は多いということが分かった。また、自分たちの住んでいる町を好きと答えた児童は多いということが分かった。しかし、好きな「人・もの・こと」など、特定できるものはなかった。さらに町を他の人に自慢できるとは思っていないこと、調べたことを言葉で表現することは苦手であるということが分かった。

〈指導観〉

本單元では、同じ町に住む人に関心をもち、地域の人々とのかかわりを広げたり深めたりしながら、いっそう親しみをもち、人々と適切に接することができるようにしていきたい。また、地域の人との出会いを通して自分たちの町に愛着をもち、積極的にまちの人とかかわることができるようにしていきたい。

そのために、2回の町探検を実施し、身近な人々と直接かかわる活動を繰り返し行うことができるよう単元構成を工夫していく。また、調べたことを表現する場面では、写真を用いて調べたことを分かりやすく表現できるようにしていきたい。

3 単元の目標

自分たちが住む地域に関心をもち、地域を探検したり地域の人と交流したりする活動を通して、地域には様々な仕事があることに気付き、それらの仕事にかかわっている人と適切に接することができるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準		
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
自分たちが住む地域に関心をもち、自ら進んで町の人とかかわろうとしている。	グループで話し合いながら、相手のことや場に応じた行動、安全な行動の仕方について考え、探検の計画を立てたり約束を決めたりしている。	自分たちが住む地域について、町探検を通して、働いている人々とかかわりや、それらに対する自分自身の発見に気付いている。
1 単位時間の評価規準		
②③働いている人々と積極的にかかわろうとしている。 ④町探検で見付けた伝えたいことを進んでまとめようとしている。	①グループで話し合いながら、相手のことや場に応じた行動、安全な行動の仕方について考え、探検の計画を立てたり約束を決めたりすることができるようにしている。	②③地域には様々な仕事があり、そこには働いている人がいることに気付いている。 ⑤町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付いている。

5 指導と評価計画

□ 1 単位時間の学習内容 ▣ 単元の学習課題及びまとめ ★ 努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
見付ける 1	◎グループで話し合いながら、相手のことや場に応じた行動、安全な行動の仕方について考え、探検の計画を立てたり約束を決めたりすることができるようにする。	○1学期の町探検を振り返る。 ○単元の学習課題を設定する。	〈思〉観察、学習プリント グループで話し合いながら、相手のことや場に応じた行動、安全な行動の仕方について考え、探検の計画を立てたり約束を決めたりすることができるようにしている。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">当麻町の〇〇のひみつをみつけよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">まちたんけんの計画を立てよう。</div> ○探検したい場所を決め、どんなことに気を付けて行動すればよいのか考え、計画を立てる。 ★安全に歩くには、どんなことに注意したらよいかなど、安全面や公衆マナーについて考えさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">まちたんけんに出かけよう。</div> ○探検場所に出向き、お店の人に挨拶をしたり、お店の中を見せてもらったりする。 ★積極的にかかわることができるように、前時の学習を振り返らせる。 ○分かったことを学習プリントにメモする。 ★見てきたものを想起させ、書かせる。	
求める 2 3	◎働いている人々と積極的にかかわり、地域には様々な仕事やそこに働いている人がいることに気付くことができるようにする。	○分かったことを学習プリントにメモする。 ★見てきたものを想起させ、書かせる。	〈関〉学習プリント 働いている人々と積極的にかかわろうとしている。 〈気〉学習プリント 地域には様々な仕事があり、そこには働いている人がいることに気付いている。
4	◎町探検で見付けた伝えたいことを進んでまとめようとするようにする。	○町探検で見付けた秘密をまとめる。 ★探検のときにメモしてきた学習プリントを見直したり付け足したりさせる。 ○みんなにどんな秘密を報告したらよいか考える。	〈関〉学習プリント 町探検で見付けた伝えたいことを進んでまとめようとしている。

第IV章

高める	5 (本時)	<p>◎町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付くことができるようにする。</p>	<p>当麻町にある〇〇のひみつをみつけよう。</p>	<p>〈気〉観察，学習プリント 町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付いている。</p>
		<p>つぎは、〇〇のひみつの（へや・ものなど）をもっとしらべよう。</p>	<p>○当麻の町探検の報告会を行う。 ○友達の話や質問を聞いて、新たな疑問やもっと調べてみたいことに気付く。 ★調べた場所の「人・もの・こと」に着目させる。</p>	

6 本時の学習(5時間扱い 5/5)

(1) 目標

- ・町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付くことができるようにする。

(2) 授業仮説

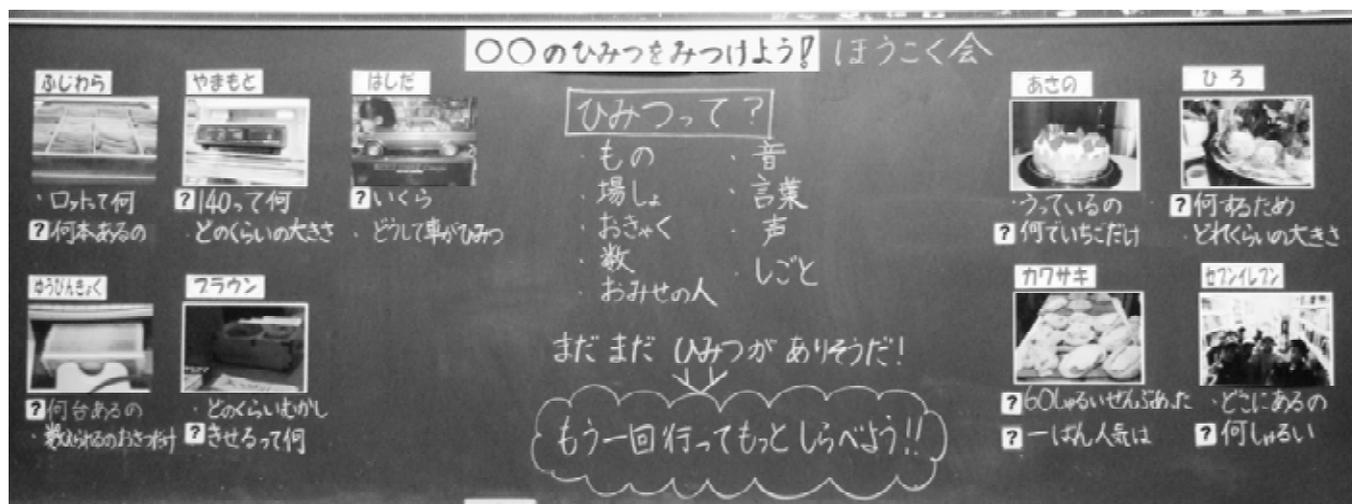
- ・「もの」以外の「人・こと」にも着目させる言語活動を行うことにより、目標を達成することができるであろう。

(3) 展開

教師の活動	児童の活動	評価
1 町探検した場所を確認する。	1 町探検した場所を振り返る。	
2 単元の学習課題を提示する。	2 単元の学習課題を確認する。	
<p>当麻町にある〇〇のひみつをみつけよう。</p>		
3 探検グループごとに町探検の報告をさせる。 ※写真を使って補足させる。 「町探検で見付けた秘密を発表しましょう。」 「発表を聞いて質問したいことがあれば、友達に聞いてみましょう。」	3 町探検で調べたことを交流する。 ・私たちは、〇〇に行きました。〇〇の秘密は、～です。 ※藤原・郵便局・山本・ブラウン・はしだ ・あさの・カワサキ・比呂・セブンイレブンの順に発表する。	
4 「もの」にしか着目できていないことに気付かせ、他の視点がないか交流させる。 「みんなが見付けた秘密をまとめると何ですか。」 「見付けていない秘密がまだまだありそうですね。みんなは、どうしたい。」	4 「もの」以外では、秘密にはどんなものがあるか考え、交流する。 ・ものです。 ・もう一回調べに行きたい。	
5 次の町探検で、調べたいことを学習プリントにまとめさせる。 「次の町探検で、自分が調べたいことについてプリントにまとめましょう。」 ★調べた場所の「人・もの・こと」に着目させる。	5 次の町探検で、調べたい「人・もの・こと」について学習プリントにまとめる。 ・僕は、〇〇で働いている人に、～について聞いてみたい。 ・私は、〇〇で使われている道具で、みんなが知らないようなものを見付けたい。 ・私は、1回目の町探検で見た、〇〇について詳しく調べたい。	<p>〈気〉観察，学習プリント A 町探検で見してきたことや聞いてきたことの情報と関連付けて、次の町探検で調べたい「人・もの・こと」に気付いている。</p>

<p>つぎは、〇〇のひみつの（へや・ものなど）をもっとしらべよう。</p>		<p>B 町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付いている。</p>
<p>6 次時の学習内容を確認する。</p>	<p>6 次時で調べたいことを発表する。</p>	

(4) 板書計画



7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:25	<p>○前時の学習を確認する。 ※児童を指名し、前時を振り返らせる。 T (児童を指名する。) はい、〇〇さん。</p>	<p>C これから5時間目の勉強を始めます。 ※前時を振り返る。 C 町探検のせりふを考えました。(3名)</p>
13:26	<p>○単元の学習課題を提示する。</p>	
<p>当麻町にある〇〇のひみつをみつけよう。(ほうこく会)</p>		
13:28	<p>T 今日はいよいよ、みんなに町探検で見付けてきた秘密を報告してもらいたと思います。</p> <p>○探検グループごとに、相談をしてから、町探検の報告をさせる。</p> <p>T 報告会をする前に、みんなでせりふとか、あと動きとかを確認しましょう。時間は1分。用意スタート。</p> <p>T (タイマーの合図が鳴る。) はい。では、いよいよ藤原グループ。(理容院)</p> <p>T (写真は) ここにあるよ。</p>	<p>※グループごとに集まりせりふを確認する。 ※黒板の前に移動する。</p> <p>※藤原理容院の秘密を説明するグループが黒板前に出てきて紹介する。</p> <p>C ジャーン。ロットの太さが違うことです。写真は? C 質問はありませんか。 C ロットって何ですか。 C くるくるパーマです。 C ああ、パーマのときのやつ? C 他にありませんか。 C 何のために太さが違うんですか。 C 分かりません。これで終わります。</p>

第IV章

T はい。続いて郵便局。(郵便局)

T はい。次、山本さん。(精肉店)

T はい。次、ブラウン。(飲食店)

T どうして箱の形なのって聞かれてるよ。

T じゃあ、分かりませんってちゃんと言って。

T はい、次、はしださん。(駄菓子屋)



T はい。それでは一回。どう？どれが一番気になった？

T じゃあ、どの質問気になった？

T これ？何ていう名前か？

T これが気になったんだ。

T じゃあ次、あさのさん。(洋菓子店)

C 郵便局の秘密は、(お金を)お札を数える機械です。何枚ものお札を、素早く数えることができます。これです。

※(お札を数える機械の)写真を紹介する。

C 速い。高速だ。

C 質問はありますか。

C それは、何という名前の機械ですか。

C 分かりません。

C それは、誰のお金ですか。

C 郵便局にあったの。最初は、紙でやってもらったんだけど、それじゃあ正確に数えられないこともあるから、お札は厚いからね、正確に数えられるって。

C これで、終わります。

C マイショップ山本の秘密は(写真を出す。)はかりです。

C 肉やコロッケを買うときに使います。

C 質問はありませんか。

C 何を量るんですか。

C 肉やコロッケ。

C どれだけの量を量れますか。

C 分かりません。これで終わります。

C ブラウンの秘密は、キセルです。(キセルで使う灰皿を紹介する。)

C パイプやたばこで使う灰皿で昔使ったものです。

C ジャーン。これです。(写真を出す。)質問はありませんか。

C どこにたばこかを入れるんですか。

C 分かりません。

C どうして箱型なんですか。

C 分からない。

C 分かりません。

C これで終わります。

C はしだの秘密は…。(写真を出す。)

C 60年以上前の車(ミニカー)です。他にも40年以上前の車が10種類ありました。

C 質問はありますか。

C その車は何台くらいあるんですか。

C 60年以上前の車は1台。

C それは、1つ何円くらいしたんですか。

C 分かりません。

C これで終わります。

C お金を数える機械。

C 郵便局。(多数)

C 郵便局。(多数)

C 違う。ブラウンの。

C どうして箱の形か。

C どっちに入れるの？

C あさのさんの秘密は、バースデーケーキです。

C バースデーケーキのいちごは、ロウでできています。生クリームは、バタークリームでできているから食べられます。

C これです。(写真を出す。)

C 質問はありませんか。

C 他のやつはありましたか。

C うん。ちっちゃいの。これよりちょっとちっちゃいのがありました。これと同じのは。

<p>T ん？見本のこと？聞きたいのは、これ以外に見本はあったのって。</p>	<p>C ありました。1個だけ。 C その緑色のものは何ですか。 C 飾りです。これで、終わります。</p>
<p>T さあ、次です。カワサキさん。(パン屋)</p>	<p>C カワサキさんの秘密は、パンの種類です。 C パンは、全部で60種類あります。 C 質問はありませんか。 C パンは、どんなパンがあるんですか。 C 分かりません。 C パンは、全部手作りなんですか。 C はい。これで終わります。</p>
<p>T じゃあ、次、比呂さん。(花屋)</p>	<p>C 比呂さんの秘密は、ピンクッションです。 C 上の白い柔らかい、綿みたいところが特徴です。質問はありませんか。 C どうして綿みたいになっているんですか。 C 分かりません。 C 色は、オレンジ色だけですか。 C 黄色もあります。 C うん。これで終わります。</p>
<p>T オレンジ以外にもこれ別の所にあったの。</p>	<p>C セブンイレブンの秘密は、ウォークインです。(写真を出す。)</p>
<p>T さあ、いよいよ最後です。(コンビニエンスストア)</p>	<p>C いろいろなジュースが、保管されているところです。 C 質問はありますか。 C ジュース以外にもありますか。 C この中は、ここはジュースだけです。 C だってこの中でしょ。 C お茶とかあるよ。 C この中でしょ。この中だったらジュースだけだよ。他の所だったらあるけど。 C だってこれ、お茶とかあるしょ。 C あ、そういう意味ね。飲み物は、全部あります。 C 全部ではないけど。 C 分かりません。 C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T ほんと？〇〇くん。本当に？</p>	<p>C だってこの中でしょ。 C お茶とかあるよ。 C この中でしょ。この中だったらジュースだけだよ。他の所だったらあるけど。 C だってこれ、お茶とかあるしょ。 C あ、そういう意味ね。飲み物は、全部あります。 C 全部ではないけど。 C 分かりません。 C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T この中にジュース以外はなかったの。ちゃんと見てきた。</p>	<p>C この中でしょ。この中だったらジュースだけだよ。他の所だったらあるけど。 C だってこれ、お茶とかあるしょ。 C あ、そういう意味ね。飲み物は、全部あります。 C 全部ではないけど。 C 分かりません。 C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T 全部あるの。</p>	<p>C 全部ではないけど。 C 分かりません。 C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T じゃあ分からない。</p>	<p>C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T ちゃんと分かってないんでしょ。嘘を教えないでよ。</p>	<p>C 保管されているジュースは何個ありましたか。 C 分かりません。 C これで終わります。 C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T さあ、報告会してどうでしたか。</p>	<p>C 楽しかった。おもしろかった。ドキドキした。(多数) C なんか、あのう、調べてみたいことも、いっぱいあった。 C いろいろなことが分かっておもしろかった。 ※席に戻る。</p>
<p>T 本当。そうか。じゃあ、席に戻ってください。</p>	<p>※席に戻る。</p>
<p>13:40 ○「もの」にしか着目できていないことに気付かせ、他の視点がないか交流させる。</p>	<p>C 全部不思議。全部見たことないもの。全部見てみたい。(多数)</p>
<p>T ところでさあ、みんなが見付けてきてくれた秘密って、全部、何だろう。</p>	<p>C そう。全部秘密？</p>
<p>T 全部見たことないの？</p>	<p>C そう。全部秘密？</p>
<p>T そうだね。みんな秘密見付けてきたんだもんね。これって。ものだね。</p>	<p>C 違う。 C えっ、秘密ってものじゃないの。 C 他のもの、あっ、ヒロさんで言えばものじゃない、花だ。 C うん。コップとかはもの。 C コップとかはね。</p>
<p>T 物も秘密だよ。</p>	<p>C うん。コップとかはもの。 C コップとかはね。</p>
<p>T 花はものじゃないの？</p>	<p>C コップとかはね。</p>

第IV章

T ものって何さ。(黒板の写真の箱を指さす。)

T あっ、これもの？(ブラウンの写真を指さす。)

T やっぱり、ものなんだ。

T じゃあ、花は？

T ものってつかないけど、花も。

T そうか。じゃあ、やっぱり秘密ってものなんだ。

T あっ、何か声聞こえてきたよ。

※パペットを使って教師が問題を出す。

T カーカッカッカー。お前たち本当にそれだけかあ。それだけしか見付からないのか。カーカッカッカー。

T あれ？ガリゾウ(パペットの名前)は他にも何かありそうだって言ってたけれど。

T そうなんだ。他のお店ねえ、自分達のお店はもうないんだ、じゃあ。

T じゃあ、どんな。

T 君たちはこれだけなんだ。いいの、これで本当に。

T へえ、そうなんだ。じゃあ、他にありそう？

※グループで話し合いをさせる。

※グループの代表に発表させる。

T みんなあ。出ていない、大事なものを忘れてるよ。

※パペットを使って教師がヒントを出す。

T ちょっと、これ、聞いてみて。シー。

※CDラジカセからの音「いらっしやいませ。こんにちは。」の声を聞かせる。

T もう1回聞く？今、ちょっと待ってて。

※CDラジカセからの音「おにぎりあたためて行かれますか。130円が1点…。」の声を聞かせ、グループの話し合いをさせる。

T ストップ。声と音は同じかな？

※フリートークさせる。

T はい、ストップ。いま、声と音は違うって話になったよね。声って誰が出すの。

T 人が出すの？

T っていうことは、秘密って？

T 人は違う？人は秘密にならない？

C なんか、郵便局の機械とか。

C あと、あれブラウンの箱とか。箱みたいなのとか…。

C フジワラのロット。ヤマモトのやつも。

C 全部ね。

C カワサキの。

C 食べ物。どっちにしても、ものつくしょ。

C ものってつかない。

C ものだ。

C 他にいっぱいある。

C ものとか自然とか。

C 他のお店。行ってないお店に行けば、まだあるかもしれない。

C ある。ある。

C あるけど…。

C セイコーマート。

C スポーツセンター。

C えっ、だってさあ。それしか。1個だけって言われたから。

C うん。あるよ。セブンイレブンにもまだある。

※グループで話し合いをする。

※紙や自然などといった意見が出る。

C エー。何？ヒントは？

C エー。どうやって？

C 分かった。

C あと、1回だけ聞く。

C 分かった。

※グループの話し合いをした後にグループの代表が発表する。

C 声。

C 温度？売り物？じゃなくて…。

C 音。

C 温度。

C ねえ、声と音って同じじゃない？

C だってさ、声は普通にこういう声だけどさ、音楽とか歌みたいでしょ。だからちょっと違うと思う。

C 今、ああって言ったのが声だよ。

C でも、音だったらさ。ピーとかかさ。

C 楽器とかでさ…。だから、違うと思う。

C ゴーって。

C 人。

C 人がしゃべってんの。

C でもね、歌とかも人が作るの。

C 人。

C なりそう？



T 声は秘密になりそう。人は？	C 何かなりそう。 C なりそうな。 C 微妙。
T では、人って秘密になりそうか。 ※フリートークさせる。	C 人って。 C 人の名前さあ。分からないから、それを秘密にしたらいいと思う。 C それにさ、声とかさ人出してるしょ。音もさ、人いないと出ないしょ。
T 人って秘密になりそう。	C じゃあ、やっぱり人間に関係があるの。
T あと、さっきいいこと言っていた班があったんだよな4班。さっき、声以外になんか出ていたよね。	C なりそう。 C えっ、何だろう。袋のこと。買い物…。
T 声と同じかなって話してた。さっきね4班が言ってたのね、挨拶。	C 挨拶も声だ。
T そうだね。挨拶。すごいしょみんな。見付けたんじゃん。秘密って？	C もの。声。数え方。音。人。(多数)

本時の言語活動（もの以外の秘密に気付かせるための話し合い）は、目標達成に向けた主な手立てである。人に着目してグループや全体で交流したことにより、児童はもの以外に秘密があることに気付くことができた。さらに、もう1回探検に行つて、もっと人とかかわりながら秘密を見付けたいという意識を高めることができた。

T それでは、君たち1回探検に行ってきたんだよね。いろんな秘密見付けたよね。まだ見付けてない秘密ってありそう？	C ある、ある。ある、セイコーマート。ふじスーパー。 C ホクレンショップ。
T 他のお店行きたいって言っているんだけど、自分達の行ってきたお店はもう大丈夫？	C うん。 C ううん。まだ。もっとありそう。 C 全部見てきた…。 C だってさあ、郵便局のお札を数える機械の名前が分からないじゃん。
T (板書を示し) はてな付いてるもんね。	C 分からないことを探す。
T あれ。もう見付けたの？	C パンの名前とか…。
T どこに？	C もう1回行ってくる！ C セブンイレブンとか、かわさきさんとか。
T もう1回行きたいって人いる。	C そうそう、はしださんとか。 C 行きたい。そして、また何かを調べる。
T なるほどねえ。	C 他の秘密！ C あのはてなをなしにしてみたい。
T 見付けてくる。	C はてなを考えて、そこから見付けてくる。
T はい、ストップ。もう1回行きたいってことは、もう見付けてきたい秘密を見付けたってこと？	C 明日行ってみたい。(グループを) シャッフルして。 C うん。
T 分かっているの？頭の中で。	C 十分見付けた。
T これ見付けてきたい！っていうのがある人。	C はい。(多数) C あ、分かった。(多数)
T 家って？	C はしださんの家みたいなところを調べたい。
T 隣の部屋も見てきたい。他は？	C 隣りになんか、部屋あるの。
T はてなを知りたいんだ。	C 郵便局の機械の名前。

第IV章

<p>T さっきのは、お部屋の事かな？ T なる？</p> <p>T 今言ったこと、君たちどう思う？</p> <p>T みんなどう思う？仕事とかお部屋とかって秘密にならない。 T じゃあ、それも見てきたいのね。いろんな秘密見付けられそう？</p>	<p>C 部屋も秘密になるのかな…。 C なると思う。 C お仕事してるところとか…。 C お仕事しているところとかもあるでしょ。 C 部屋も仕事場も同じかなあ。 C 部屋と仕事場って一緒…秘密かなあ。 C 秘密かもしれないよ！ C 郵便局行ったとき、あの機械、仕事場の方にあったよね。 C そこ行って、パソコンとかいろいろあったよね。 C なる。</p>
<p>13:59 ○次の町探検で、調べたいことを学習プリントにまとめさせる。 T それでは、秘密を書いてもらいたいと思います。忘れないうちに。(学習プリントを配付する。)名前を書いてください。 T 黒板を見てください。そこに、2つ自分の調べてみたいなと思ったことをここからでもいいし、はてなからでもいいので、書いてください。それでは、1分30秒。 T 探検グループで、みんなに、こんな事を調べてきたいんだって教えてあげてください。そして、グループの欄に、それいいねっていうものを書いてください。時間は、1分30秒。</p>	<p>※一斉に着席し、学習プリントに記入する。</p> <p>※探検グループごとに紙を見せ、読み合いながら交流し、学習プリントにそれぞれ記入する。</p>
<p>次の探検で調べたいことをまとめる活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、さらに詳しく調べたいということや、他の「人・もの・こと」について調べたいことをまとめることができた。</p>	
<p>T それでは、調べたいことは何ですか、発表してください。</p>	<p>C お札を数える機械の名前を知りたい。 C 何のために大きさが違うのかを調べたい。 C 郵便局のお仕事を知りたい。 C セブンイレブンのウォークインの中の飲み物の数を知りたい。 C どうして綿みたいになっているのかを調べたい。 C 部屋の中に入りたい。 C どんなパンがあるか調べたい。(板書を見ながら言葉を考えて) まだまだ秘密はありそうだ。もう一回行って調べたい。</p>
<p>14:08 ○次時の学習内容を確認する。 T 次の時間はどうしたいですか？ T ちょっと聞いてもらいたいものがあるんだけど。 ※CDから何かを切る音を流す。</p>	<p>C 行きたい。まだ、いろんなお店に行って秘密を調べたい。 C 機械の音だ。郵便局。山本さん。郵便局？(多数)</p>
<p>14:10 T どこかの音です。さあどこでしょう。はい、終わります。</p>	<p>C えー。教えてから終わってよー。 C これで、生活の勉強を終わります。</p>

◇本時の目標達成状況

主に調べたい「人・もの・こと」を学習プリントにまとめる場面において、目標達成状況を評価した。

次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付くことができ、目標を達成することができたと考えられる児童は、100%であった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

もっとしらべたいことを書いてみよう！！

ひもには、どうしていろいろな色があるの ですか。

どうしてそれをしらべようと思ったかを書いてみよう

1回目にいろいろな色があってふしきいたから。

もっとしらべたいことを書いてみよう！！

ゆーびんきょくのおさつを数えるきかいの名
前をいいたい

どうしてそれをしらべようと思ったかを書いてみよう

（は、びょうの時にきかれたから

町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付いているので、B「おおむね満足できる」状況と判断した。

第IV章

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級は、生活科の学習への興味・関心は高く、調べたり、観察したりする活動が好きな児童は多かった。また、自分たちの住んでいる町を好きと答えた児童は多かった。しかし、好きな「人・もの・こと」など、特定できるものはなかった。さらに町を他の人に自慢できるとは思っていないこと、調べたことを言葉で表現することが苦手であった。

単元の目標

自分たちが住む地域に関心を持ち、地域を探検したり地域の人と交流したりする活動を通して、地域には様々な仕事があることに気付き、それらの仕事にかかわっている人と適切に接することができるようにする。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・町探検したことを振り返る活動を通して、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付くことができるようにする。

◇授業仮説

- ・「もの」以外の「人・こと」にも着目させる言語活動を行うことにより、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

1回目の探検では、「人・もの・こと」の「もの」について着目して調べていた。「もの」以外にも秘密があるか考えさせ、「人・こと」に着目させる言語活動をグループや全体で行ったことにより、他にも着目する点があり、次の町探検で詳しく調べたい「人・もの・こと」について気付くことができた。

実践の成果と課題

本実践を終えての成果と課題は、以下の通りである。

〈成果〉

- ・秘密は、もの以外にもあるということに気付くことができるよう交流したことにより、1回目の探検では気付かなかった「人・もの・こと」についても着目することができた。

〈課題〉

- ・1回目の探検と関連付けて考えるような、学習プリントや発問の工夫が必要であった。

研究協力校の授業実践 小学5年 算数科

既習の三角形や平行四辺形の面積を基に、 台形の面積の求め方を考える学習

日 時 平成23年11月25日(金) 5校時 実施
 児 童 旭川市立正和小学校第5学年1組 14名
 指導者 山 本 百 里

〈学校の概要〉

学校の様子	経営方針「子どもが育ち、愛着と誇りのもてる学校づくり」のもと、教職員が常に児童100名の成長について語らいながら、成果が子どもの姿に表れる教育活動を展開している。特に、今年度は、「感じ 考え 動く子どもの育成」を重点目標として、子どもにとっての「やる気」や「わくわく感」、「満足感」を大切にしながら、楽しく学び、自信がはぐくまれる学校づくりの推進に力を注いでいる。
研究の内容	「意欲的に学び、追究し合う子どもの育成～算数科における活用型学力をはぐくむ授業の創造～」を研究主題に掲げ、既習の知識・技能や考え方を活用し、新たな問題や児童の実生活にかかわる問題について解決していく力を身に付けさせることを目指している。そのために、「課題提示の工夫」「交流場面の工夫」「振り返りの工夫」について研究を進めてきた。また、今年度から「少人数を生かした取組(小規模校の利点を生かした取組)」や「(小)交流のあり方」、「習熟・発展問題のあり方」に重点を置き、研究を進めている。

1 単元名 「いろいろな三角形・四角形の面積」(啓林館 5年下)

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

【学習指導要領】～第5学年(算数科)の目標と内容～
1 目 標
(2) 三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。また、測定値の平均及び異種の二つの量の割合について理解できるようにする。
2 内 容
B 量と測定
(1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。
ア 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。

これまで算数では、4年生において長方形や正方形、複合図形の面積について学習してきた。また、5年生において三角形や平行四辺形の面積について学習してきた。

本単元では、長方形や三角形、平行四辺形の面積を基に、台形やひし形の面積の求め方を考え、求積公式を使っていろいろな三角形や四角形の面積を求められるようにすることがねらいである。

なお、本単元では「面積」13時間扱いのうち、「いろいろな三角形・四角形の面積」の4時間分について取り上げた。

〈児童観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが

第Ⅳ章

分かった。

「算数への関心・意欲・態度」については、事前アンケートにより、次のような結果を得た。

- ・「算数が好き」と答えた児童は、62%であった。
- ・「長方形や正方形の面積の学習が好き」と答えた児童は、92%であった。
- ・「長方形や正方形の面積の学習がよく分かる」と答えた児童は、100%であった。
- ・「三角形や平行四辺形の面積の学習が好き」と答えた児童は、92%であった。
- ・「三角形や平行四辺形の面積の学習がよく分かる」と答えた児童は、100%であった。

「数学的な考え方」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・長方形の面積に関する問題を正答した児童は、78%であった。
- ・正方形の面積に関する問題を正答した児童は、71%であった。
- ・複合図形の面積に関する問題を正答した児童は、50%であった。
- ・三角形の面積に関する問題を正答した児童は、92%であった。
- ・平行四辺形の面積に関する問題を正答した児童は、57%であった。

「数量や図形についての技能」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・長方形の面積を求めることができた児童は、100%であった。
- ・正方形の面積を求めることができた児童は、100%であった。
- ・複合図形の面積を求めることができた児童は、64%であった。
- ・三角形の面積を求めることができた児童は、92%であった。
- ・平行四辺形の面積を求めることができた児童は、85%であった。

「数量や図形についての知識・理解」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・長方形や正方形の求積公式に関する問題を正答した児童は、92%であった。
- ・三角形の求積公式に関する問題を正答した児童は、92%であった。
- ・平行四辺形の求積公式に関する問題を正答した児童は、100%であった。
- ・三角形の高さに関する問題を正答した児童は、71%であった。
- ・平行四辺形の高さに関する問題を正答した児童は、71%であった。

これらの結果により、本学級の児童は、算数、特に面積の学習に対する関心や意欲は高いが、知識や技能は十分に身に付いていない児童がいることが分かった。また、数学的な考え方が身に付いていない児童が多いことも分かった。

〈指導観〉

本単元では、単に台形やひし形の求積公式を覚えて使えるようにさせるのではなく、既習の図形を基にどのように考えたのか理解させ、分かる・できる喜びを味わわせたい。また、互いの考え方のよさを認め合う活動を通して、全体交流の場において自信をもって自分の考えを表現できる児童を育てていきたい。

そのために、児童の操作活動や自力解決の時間を十分に保障し、自分の考えを一人一人にもしっかりもたせていく。また、単元全体を通して、共通する考えをもつ集団による小交流の場を設定し、互いの解決方法の根拠を発表・交流させていく。

3 単元の見目

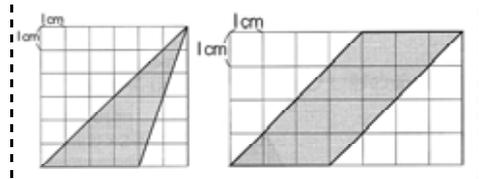
いろいろな三角形や四角形の面積に関心をもち、既習の図形の面積を基に台形やひし形の面積の求め方を考え、求積公式を理解し、面積を求めることができるようにする。

4 評価規準

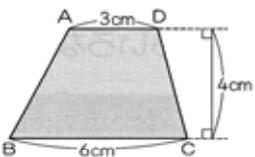
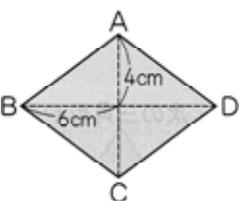
単元の評価規準			
算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
三角形や四角形の面積に関心をもち、いろいろな三角形や四角形の面積を求めようとしている。	三角形や平行四角形、長方形の面積を基に、台形やひし形の面積の求め方を考えている。	公式を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めることができる。	高さが内部に取れない場合の三角形や平行四角形も、公式を使って面積を求めることができることを理解している。
1 単位時間の評価規準			
④既習事項を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めようとしている。	②三角形や平行四角形の面積を基に、台形の面積の求め方を考えている。 ③三角形や長方形の面積を基に、ひし形の面積の求め方を考えている。	④公式を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めることができる。	①高さが内部に取れない場合の三角形や平行四角形も、公式を使って面積を求めることができることを理解している。

5 指導と評価計画

1 単位時間の学習課題 1 単位時間の問題文 ★努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
1	◎高さが内部に取れない場合の三角形や平行四角形も、公式を使って面積を求められることを理解できるようにする。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>問題 次のような三角形や平行四角形にも面積の公式は使えるのかな？</p>  </div> <p>○既習事項との違いを確認する。 高さはどこかを考えよう！</p> <p>○見通しをもつ。 ○高さが内部に取れない場合の三角形や平行四角形の面積を求める。 ○高さがどこか交流する。 ○まとめをする。 ○習熟問題に取り組む。 ★高さがどこか分かるような板書を行い、板書を見て考えさせるように促す。</p>	<p>〈知〉学習プリント、観察 高さが内部に取れない場合の三角形や平行四角形も、公式を使って面積を求めることができることを理解している。</p>

第IV章

<p>2 (本時)</p>	<p>◎三角形や平行四辺形の面積を基に、台形の面積の求め方を考えることができるようにする。</p>	<p>問題 この図形の面積は、何cm^2でしょう？</p>  <p>○既習事項との違いを確認する。 台形の面積の求め方を考えよう！ ○見通しをもつ。 ○台形の面積の求め方を考える。 ★三角形に分割したり、平行四辺形にしたりして考えられるように、ヒントカードを準備する。 ○台形の面積の求め方を交流する。 ★補助線の引き方を助言する。 ○台形の「上底」「下底」「高さ」の用語を知る。 ○求積公式を導く。 ○まとめをする。 ○習熟問題に取り組む。</p>	<p>〈考〉学習プリント、発言 三角形や平行四辺形の面積を基に、台形の面積の求め方を考えている。</p>
<p>3</p>	<p>◎三角形や長方形の面積を基に、ひし形の面積の求め方を考えることができるようにする。</p>	<p>問題 この図形の面積は、何cm^2でしょう？</p>  <p>○既習事項との違いを確認する。 ひし形の面積の求め方を考えよう！ ○見通しをもつ。 ○ひし形の面積の求め方を考える。 ★三角形に分割して考えられるように、補助線を引いたり、切ったりさせる。 ○ひし形の面積の求め方を交流する。 ○ひし形の「対角線」について確認する。 ○求積公式を導く。 ○まとめをする。 ○習熟問題に取り組む。</p>	<p>〈考〉学習プリント、発言 三角形や長方形の面積を基に、ひし形の面積の求め方を考えている。</p>
<p>4</p>	<p>◎既習の公式を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めることができるようにする。</p>	<p>いろいろな三角形や四角形の面積を求めよう！ ○いろいろな三角形や四角形の面積を求める。 ★三角形や平行四辺形、台形、ひし形の求積公式を記載した掲示を見るように促す。</p>	<p>〈関〉ノート 既習事項を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めようとしている。 〈技〉ノート 公式を使って、いろいろな三角形や四角形の面積を求めることができる。</p>

6 本時の学習(4時間扱い 2/4)

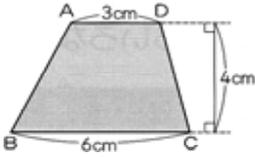
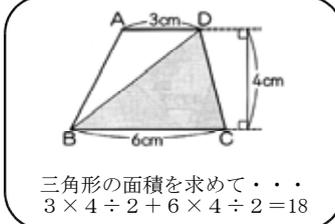
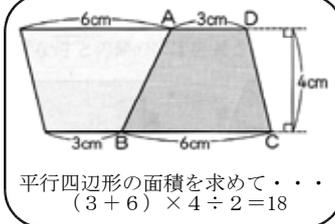
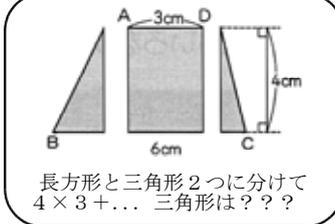
(1) 目標

- ・三角形や平行四辺形の面積を基に, 台形の面積の求め方を考えることができるようにする。

(2) 授業仮説

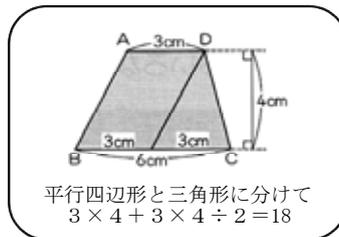
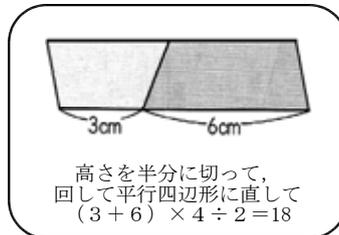
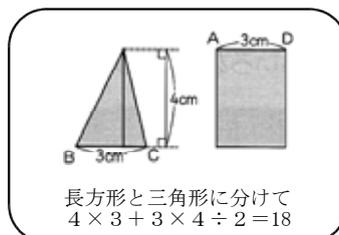
- ・台形の面積の求め方を説明する言語活動を通して, 目標を達成することができるであろう。

(3) 展開

	教師の活動	児童の活動	評価
見 付 け る	1 問題を提示する。 この図形の面積は、 何cm ² でしょう？	1 問題を把握する。 	
	2 前時の学習と比較させる。 「前までは、何の面積を勉強してきましたか？」 「今日は、何の面積かな？」	2 前時との違いをとらえる。 ・三角形の面積を勉強した。 ・平行四辺形の面積を勉強した。 ・今日は台形の面積だ。	
求 め る	3 学習課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">台形の面積の求め方を考えよう！</div>	3 学習課題を把握する。	
	4 見通しをもたせる。 「縦4cm, 横6cmの長方形より大きい？ 小さい？」 「今まで勉強してきた形にできないですか？」	4 見通しをもつ。 ・小さい。 ・24cm ² より小さい。 ・半分に分ければ三角形が2つになるよ。 ・2つ合わせれば平行四辺形になる。	
	5 自力解決させる。 「図形カードと見通しを基に考え, 学習プリントに自分の考えを書きましょう。」 ★三角形に分割したり, 平行四辺形にしたりして考えられるように, ヒントカードを準備する。	5 自力解決する。  三角形の面積を求めて・・・ $3 \times 4 \div 2 + 6 \times 4 \div 2 = 18$  平行四辺形の面積を求めて・・・ $(3 + 6) \times 4 \div 2 = 18$  長方形と三角形2つに分けて $4 \times 3 + \dots$ 三角形は???	

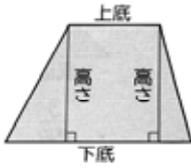
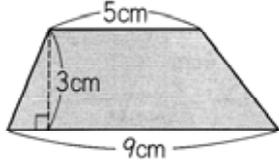
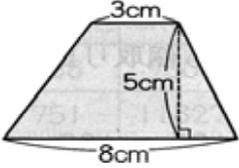
求める

- 6 小集団による交流をさせる。
「学習プリントを持って、お互いに考えを説明し合いましょう。」
「同じ考えをもつ人同士で集まって、お互いの考えを確かめ合いましょう。」
- 7 発表・交流させる。
「それでは、それぞれの方法を説明してもらいます。」
- ★補助線の引き方を助言する。
- 8 台形の面積の求め方を確認させる。
「台形の面積も、三角形や平行四辺形の面積を基に考えたね。」
- 9 簡単にできる方法を考えさせる。
「それぞれの式を見て、簡単にできる方法はどれかな？」
- 10 台形の求積公式を導くことを知らせる。
「三角形や平行四辺形には面積を求める



- 6 小集団による交流をする。
※同じ考えをもつ児童同士で集まって、説明する。
- 7 発表・交流する。
- 私は、頂点Bと頂点Dを結ぶ補助線を引いて、三角形ABDと三角形BCDに分け、2つの三角形の面積を合わせて求めました。式は、 $3 \times 4 \div 2 + 6 \times 4 \div 2 = 18$ になりました。
 - 僕は、まず台形を横に2つ合わせて平行四辺形を作ります。次に、平行四辺形の面積を求めます。最後に、台形は平行四辺形の半分だから、答えを2で割ります。
- 8 台形の面積の求め方を確認する。
- 9 簡単にできる方法を考える。
- 台形を2つ合わせて平行四辺形にしてできた式。
 - 台形の高さを半分にして平行四辺形に直してできた式。
 - 2つの三角形に分けてできた式。
- 10 台形の求積公式を導くことを知る。

〈考〉学習プリント、発言
A 三角形や平行四辺形の面積を基に、台形の面積の求め方を多様に考えている。
B 三角形や平行四辺形の面積を基に、台形の面積の求め方を考えている。

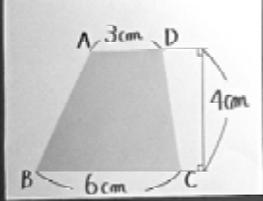
	公式があったよね。同じように、みんなが選んだ式から、台形の面積を求める公式をつくってみよう。」	
求める	11 台形の各部の名称を教える。	11 台形の各部の名称を知る。
	<p>台形の平行な2つの辺を上底、下底といいます。その間のはばを高さといいます。</p> 	
	12 台形の求積公式を導く。「言葉の式で表そう。」	12 台形の求積公式を知る。 ・(上底+下底)×高さ÷2
高める	13 本時の学習をまとめさせる。	13 本時の学習をまとめる。
	<p>・台形の面積の求め方は、三角形や平行四辺形の面積をもとに考えればいい。 ・台形の面積を求める公式は、台形の面積=(上底+下底)×高さ÷2。</p>	
	14 本時の学習を振り返らせる。「今日の勉強が分かったかどうか、問題を解いて確かめてみましょう。」	14 本時の学習を振り返る。 ・練習問題に取り組む。
	<p>①  ② </p>	

(4) 板書計画

11/25 P.12

〈考え〉

問題
この図形の面積は何cm²?



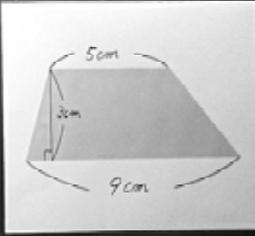
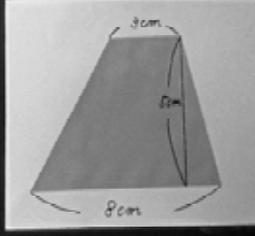
課題
☆台形の面積の求め方を考えよう!

〈見通し〉
三角形 平行四辺形
わける 合わせる

話し合い
3×4÷2+6×4÷2=18
(3+6)×4÷2=18
上底 下底 高さ

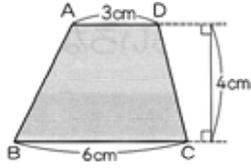
まとめ
台形の面積=(上底+下底)×高さ÷2

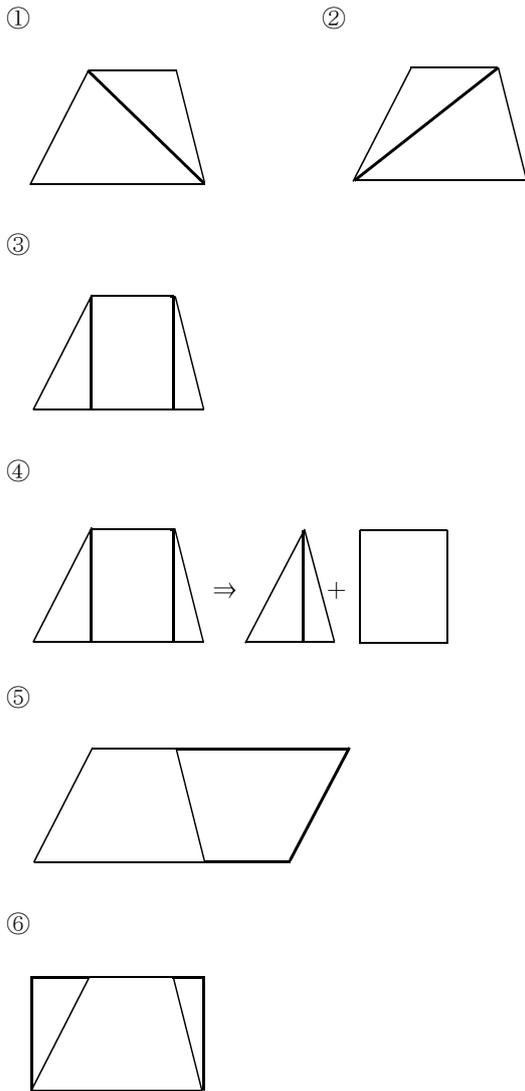
〈練習問題〉

第IV章

7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:15	<p>○前時を振り返らせる。 T 前の時間は何を勉強しましたか？</p>	<p>C 平行四辺形の面積を求めました。</p>
13:16	<p>○問題を提示する。 この図形の面積は、 何cm^2でしょう？</p>	
13:19	<p>○学習課題を提示する。(p.63から変更)</p>	
<p>台形の面積を求めよう！</p>		
13:19	<p>T 皆さんで課題を読んでください。</p>	<p>C 台形の面積を求めよう。</p>
13:19	<p>○見通しをもたせる。 T 6×4で長方形(の面積)が求められて、それよりも大きい？小さい？ T 台形を今まで習った形にできそう？どんな形にできそう？</p>	<p>C 小さい。 C 平行四辺形, 長方形, 三角形。(多数)</p>
13:21	<p>○自力解決させる。 T 今までいろいろな形の図形を、それまでに習った形に直して面積を求めてきたね。くっつけたり補助線を引いたりしたら、求められたね。台形の面積も(同じようにして)求めてみてください。 ★三角形に分割したり、平行四辺形にしたりして考えられるように、ヒントカードを準備した。</p>	<p>※自力解決を始める。 ※ヒントカードを随時見に行く。</p>
13:33	<p>○小集団による交流をさせる。 T 交流してください。途中でこういうふうにやればできるよっていうことが分かればいいので、立って相手に自分の考えを分かりやすいように説明し合ってください。その中で、同じ考えの人は集まって、代表一人を決めてください。</p>	<p>※小集団による交流を始める。</p> 
<p>台形の面積の求め方を説明する言語活動は、本時の目標達成に向けた主な手立てである。小集団で台形の面積の求め方を説明したことにより、児童は同じ考えや新たな考えに気付き、自分の考えを確かなものにすることができた。また、全体交流で自信をもって発表したり、意見交換したりすることができた。</p>		
13:37	<p>○発表・交流をさせる。 T では、椅子を持って前の方に集まってください。 ※司会の児童を指名し、全体交流させる。</p>	<p>※黒板の前に椅子を持って集まる。 C 代表は前に出てきてください。 ※代表者が前に出て、発表の準備をする。 C 代表者は説明してください。</p>



C 補助線を引いて三角形2つにします。式は、 $3 \times 4 \div 2 = 6$ 。もう1つの式は、 $6 \times 4 \div 2 = 12$ 。 $12 + 6 = 18$ で 18cm^2 です。(①)

C さっきと反対に補助線を引きます。まずこの三角形は、 $6 \times 4 \div 2 = 12$ になります。次に、もう1つの三角形は $3 \times 4 \div 2 = 6$ になります。 $12 + 6 = 18$ で、答えは 18cm^2 になりました。(②)

C 補助線を2本引いて、三角形2つと長方形に分けました。三角形の面積は、 $2 \times 4 \div 2 = 4$ と $1 \times 4 \div 2 = 2$ になります。長方形の面積は $4 \times 3 = 12$ になって、三角形と長方形の面積を足すと、 18cm^2 になります。(③)

C 頂点から縦に切った図形を合わせて三角形の形にして、 $3 \times 4 \div 2 = 6$ 。次に長方形の面積は、 $4 \times 3 = 12$ となって、全体の面積を求めるので、三角形と長方形の面積を足して18で、 18cm^2 になります。(④)

C 台形の横にもう1つ図形があると考え、平行四辺形にして考えた。上と下の3と6を足して9cmになる。式は元の台形に戻すために $\div 2$ をして、 $(3 + 6) \times 4 \div 2 = 18$ で、答えは 18cm^2 になります。(⑤)

C 補って長方形と考えました。面積は、 $6 \times 4 = 24$ で 24cm^2 になります。補った部分の面積は、 $2 \times 4 \div 2 = 4$ で 4cm^2 と $1 \times 4 \div 2 = 2$ で 2cm^2 です。最後に、 $24 - 4 - 2 = 18$ で、 18cm^2 です。(⑥)

C 次にみんなのお勧めを決めます。この方法がいいと思った人はいませんか？

※司会は1つ1つの考えについて聞いていく。

※「三角形に分ける」と「合わせて平行四辺形」に挙手した児童が多い。

C 意見がある人はいませんか？

C ○○さんの、式が簡単で操作も楽し、習った公式も使っている。

※同様に、どの考えが解きやすいか意見交流する。

発表・交流する活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、自力解決や小集団による交流の場面において、学習プリントに台形の面積の求め方を説明することができた。また、小集団による交流や全体交流において、自分の考えを互いに説明し合うことができた。

14 : 02 ○ 考え方を分類する。
 T まず、○○さん(①)と○○さん(②)の考え方は？
 T 補助線で、三角形が2つ。
 T これは、三角形と？
 T 長方形の考え方(③、④)。
 T これは、長方形から三角形(の面積)を引いた考え方(⑥)。
 T これは、平行四辺形の考え方(⑤)。

C 補助線。
 C 長方形。



14 : 04 ○台形の求積公式を導くことを知らせる。
 T お勧めは、三角形に分ける考え方と合わせて平行四辺形の考え方でもいいですか？みんなが選んだ

第IV章

	式から、公式をつくることができます。	
14 : 04	○台形の各部の名称を教える。 T 台形にも名前が付いている。上と下の辺は、平行ですね。上をこう呼びます。(貼る) T 下を…。(貼る) T 上底と下底の間の幅を…。(貼る)	C 上底。 C 下底。 C 高さ。
14 : 05	○台形の求積公式を導く。 T ○○さんの式はこのまま公式にできます。言葉の式に表すと? T 普通は上底を先に言います。三角形も同じように直すことができます。 $(6 \times 4 \div 2 + 3 \times 4 \div 2)$ の式を板書)下線部は同じなので、まとめることができます。括弧を忘れないように、 $(6 + 3) \times 4 \div 2$ です。	C $(\text{下底} + \text{上底}) \times \text{高さ} \div 2$ です。
14 : 07	○本時の学習をまとめさせる。 T (公式に下線を引きながら)みんなで言いましょ。括弧を忘れないでね。	C $(\text{上底} + \text{下底}) \times \text{高さ} \div 2$ 。
14 : 07	○本時の学習を振り返らせる。 T 1問だけ練習問題をやります。①番、(席に)戻ってやってください。	※席に戻って問題に取り組む。
<div data-bbox="240 1072 1449 1296" data-label="Image"> </div>		
14 : 10	※黒板に答えを書くように指示する。 T 今日は、台形の面積を求める勉強をしました。大変よく頑張りました。終わります。	※指名された児童が黒板に式と答えを書く。

◇本時の目標達成状況

主に発表・交流する場面において、目標達成状況を評価した。台形の面積の求め方を学習プリントに記述することができ、目標を達成することができたと考えられる児童は、93%であった。

なお、93%のうち、三角形や平行四辺形の面積を基に、台形の面積の求め方を多様に考えることができ、A「十分満足できる」と判断される児童は、14%であった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

式 $6 \times 4 \div 2 + 3 \times 4 \div 2$
 $= 12 + 6$
 $= 18$
 答え 18 cm^2

まず台形を対角線で2つの三角形にします。次に三角形の公式を使って三角形の面積を求めます。そして、2つの三角形の面積を足せば台形の面積が求められます。

〈A「十分満足できる」と判断した児童の学習プリント〉

式 $9 \times 4 \div 2 = 18$ 答え 18 cm^2

言説明
 まず台形を2つ合せ平行四辺形にし
 計算すると

言説明
 三角形2つと長方形にわけ計算する。

台形の面積の求め方について、2つの考えを学習プリントに記述することができているので、A「十分満足できる」状況と判断した。

第Ⅳ章

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級の児童は、算数、特に面積の学習に対する関心や意欲は高いが、知識や技能は十分に身に付いていない児童がいた。また、数学的な考え方が身に付いていない児童が多かった。

単元の目標

いろいろな三角形や四角形的面積に関心を持ち、既習の図形的面積を基に台形やひし形的面積の求め方を考え、求積公式を理解し、面積を求めることができるようにする。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・三角形や平行四辺形的面積を基に、台形的面積の求め方を考えることができるようにする。

◇授業仮説

- ・台形的面積の求め方を説明する言語活動を通して、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

小集団で台形的面積の求め方を説明する言語活動を行ったことにより、自分と同じ考えや新たな考えに気づき、自分の考えを確かなものにすることができた。また、全体交流で自信をもって発表したり、意見交換したりすることができた。

実践の成果と課題

本実践を終えての成果と課題は、以下の通りである。

〈成 果〉

- ・自分の考えをもって全体交流できるよう、小集団で説明し合う言語活動をさせたことにより、児童の思考を深めることができた。

〈課 題〉

- ・ほとんどの児童がヒントカードを活用していたが、自力で台形的面積の求め方を考えさせるために、解決への見通しをより具体的にもたせる必要があった。

研究協力校の授業実践 小学5年 国語科

作品を自分なりにとらえ、 思いや考えが伝わるように朗読をする学習

日 時 平成23年11月 9 日(水) 5 校時 実施
 児 童 旭川市立知新小学校第5 学年1 組 35名
 指導者 山 名 正 記

〈学校の概要〉

学 校 の 様 子	校下は、旭川の中心部に位置し、買物公園8丁目より東に1km(国道39号線)、北は牛朱別川(10条通り)から南は(宮前東、宮前西)の2kmのほぼ長方形の市街地である。旭川市のメインストリート平和通り買物公園、15丁目銀座通り商店街などを含む市内最大の繁華街である。また、都心部に位置しているため、文字通り旭川市の政治、経済、文化の中心地域として機能している。 しかし、都市部のドーナツ化現象や少子化により、児童数が毎年減り、この傾向は当分続くものと思われる。
研 究 の 内 容	『自ら学び、考え、高め合う子どもの育成』 ～学習指導における言語活動と個に応じた指導の工夫を通して～ ・言語活動を適切に位置付けた単元の指導計画を作成し、自己の変容を実感させる学習評価を工夫することにより、進んで学ぶ意欲にあふれ、粘り強く考える子どもを育成する。 ・音読や文章解釈の力を育成する指導を工夫し、考えを交流する場面を適切に設定することにより、進んで話し合い、考えを広げたり深めたりする子どもを育成する。

- 1 単元名 「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」(光村図書 5年)
 教材名 「大造じいさんとガン」

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

<p>【学習指導要領】～第5・6学年(国語科)の目標と内容～</p> <p>1 目 標</p> <p>(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。</p> <p>エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。</p>

これまで国語では、作品の内容を理解し、それを、読む速さ、強さ、声の調子、間の取り方など音読の学習を重ねてきた。また、読解に関しては、「のどがかわいた」(5年)の学習を通して、登場人物の関係の深まりや心情の変化を読む学習をしてきた。

本単元では、場面についての描写、登場人物の相互関係や心情の変化をとらえ、優れた叙述から自分なりに感じたことや考えたことをまとめる。これらの活動を通して、自分の

第Ⅳ章

思いや考えが伝わるように朗読できるようにすることがねらいである。

なお、本単元では「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」8時間扱いのうち、「大造じいさんとガン」の7時間分について取り上げた。

〈児童観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが分かった。

「国語への関心・意欲・態度」については、事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・国語の学習について「好き」、「まあまあ好き」と答えた児童は、80%であった。
- ・読書への関心が高く、月に1000ページ以上(約3～5冊)読む児童が、33%であった。「読むこと」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。
- ・読解について「十分満足できる」と判断される児童が多かった。
- ・描写、心情をとらえての朗読はできていない児童が多かった。
- ・音読への関心が高い児童は33%であり、教材文の読み取りに優れている傾向にあった。「言語についての知識・理解・技能」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。
- ・「おおむね満足できる」と判断される児童は90%であり、その中で50%の児童が「十分満足できる」と判断された。

これらの結果により、本学級の児童は、国語への関心が高いほど読書量が多く、教材文の読み取りにも優れていることが分かった。また、すらすら音読することができる児童は多いが、心情や描写をとらえて読むことはできていないことが分かった。

〈指導観〉

本単元では、物語の山場の描写を中心に、大造じいさんの心情の変化や人物像をとらえさせたい。また、優れた叙述に関心をもち、自分なりの考えをまとめさせ、読み取った大造じいさんの心情や場面の様子を自分なりにどう表現するかという観点から、朗読の仕方について工夫させたい。

そのために、大造じいさんと残雪の行動描写や、自然描写などを読み取る時間を大切にしていける。さらに、学習時間の終わりに朗読の練習時間を設定し、意欲的に取り組むことができるようにしていく。

3 単元の目標

優れた叙述に関心をもち、自分の考えをまとめるとともに、自分の思いや考えが伝わるように朗読の仕方を工夫することができるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準		
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
優れた叙述に関心をもち、文章から読み取ったこと、自分なりに感じたことや考えたことを基に、朗読しようとしている。	自分が文章から受け取った印象を大事にして音声化し、登場人物の心情を、会話や心情表現、行動を表す文・語句に着目して読むとともに、場面についての描写など、独特の表現と作品全体の雰囲気との関係を考えている。	言葉や表現に気を付けて、読んでいる。
1 単位時間の評価規準		
①全文を通読して感想をもち、朗読への意欲を高めようとしている。 ⑦文章を読み取り、自分なりに感じたことや考えたことを基に朗読しようとしている。	②作戦ごとに「作戦内容、作戦の結果、大造じいさんの様子」をまとめている。 ③ウナギ釣針作戦を読み、会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写から、大造じいさんの作戦に対する期待や残雪の利口さに感心する思いを読み取っている。 ④大造じいさんの会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写に着目し、作戦が失敗に終わりぼうぜんとして立ちつくす大造じいさんのショックや悔しさを読み取っている。 ⑤大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基にまとめている。 ⑥残雪を対等な存在として認め、戦いを楽しみにしている大造じいさんの気持ちをを読み取っている。 ⑦大造じいさんの心情が聞き手に伝わるように、速さや声の大きさ、強弱の付け方、間の取り方を工夫して朗読している。	①優れた表現を感じ取っている。 ③情景描写などを表す優れた描写を抜き出している。

5 指導と評価計画

□ 1 単位時間の学習内容 ▣ 単元の学習課題及びまとめ ★ 努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
見 付 け る 1	◎全文を通読して感想をもち、朗読への意欲を高め、優れた表現を感じ取ることができるようにする。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">物語を自分なりにとらえ、上手に朗読することができるようになる。</div>	○朗読の意味を知る。 ○上手に朗読しようという意欲をもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「大造じいさんとガン」を読み、好きな表現(場面)と感想を書こう。</div> ○感想をノートに書く。 ★感想や選んだ表現の根拠の書き方を助言する。 ○好きな表現を書き出す。 ★美しい情景に着目させる。 ○上手に朗読できるように、作品を詳しく読んでいくことを知る。	〈関〉ノート、発言 全文を通読して感想をもち、朗読への意欲を高めようとしている。 〈言〉ノート、発言 優れた表現を感じ取っている。

第IV章

見付ける	2	◎作戦ごとに「作戦内容、作戦の結果、大造じいさんの様子」をまとめることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">全文を読み、作戦ごとに出来事をノートにまとめよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○全文を読み、作戦名を考える。 ○作戦ごとに「作戦内容、作戦の結果、大造じいさんの様子」を確認し、出来事をノートにまとめる。 ★1つ目の作戦を基にノートに書くよう助言する。 ○まとめたことを交流し合う。 	〈読〉ノート、発言 作戦ごとに「作戦内容、作戦の結果、大造じいさんの様子」をまとめている。
	3	◎ウナギ釣針作戦を読み、会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写を抜き出し、大造じいさんの作戦に対する期待や残雪の利口さに感心する思いを読み取ることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">思わず「ううむ」と感嘆の声をもらしてしまった大造じいさんの残雪に対する思いを考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ウナギ釣針作戦を読む。 ○大造じいさんの心情が分かる部分に線を引く。 ★「思わず」「もらす」の言葉に着目させる。 ○大造じいさんの思いを考え、その根拠も明らかにする。 ★大造じいさんが残雪を褒めている様子が感じ取れる叙述に着目させる。 ○全体交流の中で情景描写についても意図的に取り上げ、表現の効果を考える。 ○友達の見意見を参考にまとめる。 ○朗読の練習をする。 	<p>〈言〉ノート、発言 情景描写などを表す優れた描写を抜き出している。</p> <p>〈読〉ノート、発言 ウナギ釣針作戦を読み、会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写から、大造じいさんの作戦に対する期待や残雪の利口さに感心する思いを読み取っている。</p>
求める	4	◎大造じいさんの会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写に着目し、作戦が失敗に終わりぼうぜんとして立ちつくす大造じいさんのショックや悔しさを読み取ることができるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「ううむ。」ともらしたときと「ううん。」となってしまったときでは、大造じいさんの気持ちはどのように変わっているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○タニシばらまき作戦を読む。 ○大造じいさんの心情が分かる部分に線を引く。 ○大造じいさんの思いを考え、その根拠も明らかにする。 ★大造じいさんの悔しさが感じ取れる叙述に着目させる。 ○全体交流をする。 ○友達の見意見を参考にまとめる。 ○朗読する。 	〈読〉ノート、発言 大造じいさんの会話や心情表現、行動を表す文・語句、さらには、情景描写に着目し、作戦が失敗に終わりぼうぜんとして立ちつくす大造じいさんのショックや悔しさを読み取っている。
	5 (本時)	◎大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇氣ある行動や毅然とした態度を基にまとめることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述を基に、大造じいさんの気持ちを考える。 ○大造じいさんの心情の変化を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大造じいさんの心が変わったのは、なぜだろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○しとめるチャンスを確認する。 ○なぜ、銃を下ろしたのか考える。 ○なぜ、地上にいる残雪をしとめなかった 	

求める	5 (本時)	<p>のか考える。 ○残雪をしとめなかった理由をまとめる。 ★残雪の行動と態度に着目させる。 ○朗読する。</p>	<p>〈読〉ノート、発言 大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基にまとめている。</p>
	6	<p>◎残雪を対等な存在として認め、戦いを楽しんでいる大造じいさんの気持ちを読み取ることができるようにする。</p> <p>いつまでも、いつまでも、見守る大造じいさんの気持ちを考えよう。</p> <p>○残雪を逃がす場面を読む。 ○大造じいさんの心情が分かる部分に線を引く。 ○大造じいさんの思いを考え、その根拠を明らかにする。 ★大造じいさんの優しさが感じ取れる叙述に着目させる。 ○全体交流をする。 ○友達の意見を参考にまとめる。 ○朗読する。</p>	<p>〈読〉ノート、発言 残雪を対等な存在として認め、戦いを楽しんでいる大造じいさんの気持ちを読み取っている。</p>
高める	7	<p>◎文章を読み取り、自分なりに感じたことや考えたことを基に大造じいさんの心情が聞き手に伝わるように、速さや声の大きさ、強弱の付け方、間の取り方を工夫して朗読できるようにする。</p> <p>朗読発表会をしよう。</p> <p>○自分の朗読したい場面を決める。 ○朗読記号を使い、速さ・声の大きさ・強弱の付け方・間の取り方に注意して朗読練習をする。 ★登場人物の心情を表す叙述の中から、印象深いところを選ばせ、読み方を確認させる。 ○グループごとに発表し合う。 ○全体で交流する。 ★観点(評価)シートを使い、よりよい朗読を目指させる。 ○感想を発表し合う。 ○友達の朗読を参考に、さらに読み方を工夫する。</p>	<p>〈関〉観察 文章を読み取り、自分なりに感じたことや考えたことを基に朗読しようとしている。</p> <p>〈読〉観察 大造じいさんの心情が聞き手に伝わるように、速さや声の大きさ、強弱の付け方、間の取り方を工夫して朗読している。</p>
		<p>物語の内容や特色、自分の感動にふさわしい朗読の仕方を考え朗読している。</p>	

6 本時の学習（7時間扱い 5／7）

(1) 目標

- ・大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基にまとめることができるようにする。

(2) 授業仮説

- ・2度あった残雪をしとめるチャンスに着目できるような発問を工夫することにより、目標を達成することができるであろう。

第Ⅳ章

(3) 展 開

教師の活動	児童の活動	評 価
<p>1 3の場面の作戦を確認させる。</p> <p>「何作戦ですか。」 「この作戦にかける大造じいさんの気持ちの分かるところを読み取りましょう。」</p> <p>2 3の場面の前半部分を音読する。 ※教師が範読する。</p> <p>3 大造じいさんの「おとり作戦」にかける気持ちについて考えさせる。 『おとり作戦』にかける大造じいさんの気持ちを表しているのは、どこですか。また、どんな気持ちですか。」</p> <p>「では、『おとり作戦』で大造じいさんはどうしましたか。」</p> <p>「しとめるチャンスはなかったのですか。」 「しとめるチャンスは何度ありましたか。」 「チャンスはどのときと、どのときですか。」</p> <p>4 本時の学習内容を提示する。</p>	<p>1 作戦名と内容の確認と、この作戦にかける大造じいさんの気持ちを読み取ることを確認する。 ・おとり作戦</p> <p>2 範読を聞きながら大造じいさんの気持ちを表しているところに線を引く。</p> <p>3 叙述を基に、大造じいさんの気持ちを考える。 ・「うまくいくぞ。」と言っているので、期待が大きいことが分かります。 ・「にっこりとしました。」と書いているので、この作戦に自信をもっていると思います。 ・「さあ、今日こそあの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」と言っているので、「今日こそは」という大造じいさんの強い思いが分かります。</p> <p>・撃つチャンスはあったが、大造じいさんが、残雪を撃つのをやめてしまった。 ・チャンスはあった。</p> <p>・2度。</p> <p>・残雪がおとりのガンを助けに来たとき。 ・地上でぐったりとしたとき。</p> <p>4 本時の学習内容を把握する。</p>	
<p>大造じいさんの心が変わったのは、なぜだろう。</p>		
<p>5 後半部分を音読する。 ※教師が範読する。</p> <p>6 大造じいさんがしとめなかった理由について考えさせる。 「最初のチャンスで、大造じいさんはどうしましたか。」</p> <div data-bbox="153 1592 588 1738" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問1 「なぜ、大造じいさんは銃を下ろしたのですか。分かる部分に線を引き、まとめましょう。」</p> </div> <p>「次のチャンスはどこですか。」</p> <div data-bbox="153 1854 588 2000" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主発問2 「なぜ、大造じいさんは地上にいる残雪をしとめなかったのですか。分かる部分に線を引き、まとめましょう。」</p> </div>	<p>5 範読を聞きながら、本時の学習内容について考える。</p> <p>6 大造じいさんが残雪をしとめなかった理由を考える。 ・銃を下ろしてしまった。</p> <p>・仲間のために命懸けでハヤブサに向かっていたから。 ・強いハヤブサに勇敢に立ち向かったから。 ・ここで撃つのは、卑怯だから。</p> <p>・近付いたとき。</p> <p>・けがをしていたから。 ・助けようとしたから。 ・堂々とした態度に心を打たれたから。 ・いかにも頭領らしい態度だったから。 ・威厳のある態度だったから。 ・にらみつけたから。</p>	

「残雪が仲間のために戦っていても、堂々とした態度であっても残雪を撃つことはできたよね。なぜ、大造じいさんは撃たなかったのだろう。」

- 7 発表・交流を基に、大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめさせる。
「話し合ったことを基に、なぜ、大造じいさんの心が変わったのか、ノートにまとめましょう。」

★残雪の行動と態度に着目させる。



- ・ここで撃つのは卑怯だから。
- ・正々堂々と戦いたいから。

- 7 発表・交流を基に、残雪の行動や態度に着目し、大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめる。
- ・僕は、大造じいさんの心が変わったのは、残雪の勇氣ある行動と頭領らしい態度を見たからだと思います。なぜなら、仲間を救うために自分より強いハヤブサに立ち向かう勇氣だけでなく、傷つきながらも堂々としている態度の立派さに感動したからだと思います。
 - ・私は、大造じいさんの心が変わったのは、残雪の勇氣ある行動を見たからだと思います。なぜなら、自分より強いハヤブサに立ち向かう勇氣に心を打たれたからです。

〈読〉ノート、発言

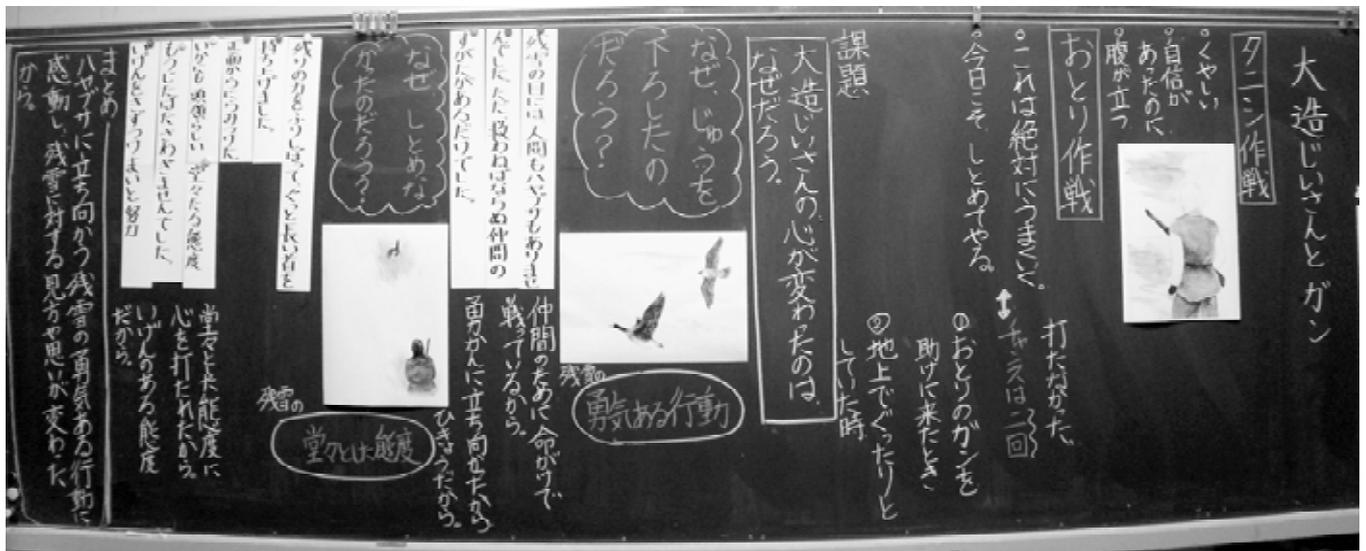
- A 大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇氣ある行動と毅然とした態度の2つのことをまとめている。
- B 大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇氣ある行動や毅然とした態度を基にまとめている。

ハヤブサに立ち向かう残雪の勇氣ある行動(堂々とした態度)に感動し、残雪に対する見方や思いが変わったから。

- 8 好きな場面を選ばせ、朗読させる。

- 8 教科書に朗読メモを取り、読み方について交流し合う。

(4) 板書計画



第IV章

7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:30	<p>○3の場面の作戦を確認させる。 T では、いよいよ今日勉強するところ、3年目です。 T 3の場面です。何作戦ですか。 T おとり作戦ってどんな作戦ですか。</p> <p>T おとりにして仲間を捕らえる。あそこに書いてあるね。(模造紙を指しながら)群れの中に入れて、口笛の合図で飛ばしておびき寄せ撃つという作戦ですね。では今日は、まず最初に、このおとり作戦にかけ、大造じいさんの気持ちを考えてもらいます。では先生が読みますので、分かるところに線を引いてください。(この作戦に)かける気持ちを読み取るよ。3番の前半分読み取るよ。</p> <p>○3の場面の前半部分を音読する。 ※3の場面を範読する。</p> <p>○大造じいさんの「おとり作戦」にける気持ちについて考えさせる。 T どんな気持ちでこの作戦に臨んだんでしょうね。ちょっと考える時間あげますので考えてください。</p> <p>T はい、ではどんな気持ちですか。 T はい、他にありますか。</p> <p>T こうやって言っているね。「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」この言葉に「め」が付いているよね。さあ今日こそは残雪にひとあわふかせてやるぞ。さあ今日こそは残雪めにひとあわふかせてやるぞ。どう違います。 T 「残雪めに」、しかも、「ひとあわふかせてやるぞ。」この部分からどんな気持ちが分かりますか。</p> <p>T 決着は決着でもどんな気持ちなんだろう。</p> <p>T 今年3年目だもんね、みんな粘り強いとか言っていたよね。恨みってどんな恨み。 T 大造じいさんの職業は。 T 残雪が来てから… T それで恨みじゃないかな。他に線を引いたところありますか。</p> <p>T 情景、前も出てきたね、「あかつきの光」とか。○ ○くん赤に何かあるって言っていたよね。 T これ○○くん何だった。 T (この作戦に)かける気持ちはこんな気持ちだったんだよね。大造じいさん、このおとり作戦でどうしました。 T こんなにさあ撃つぞって言っていたのに、大造じいさんは撃ったんですか。 T 撃つチャンスはあったの。 T 何回。 T チャンス2回あったんですね。チャンス見付けられるかな。チャンス1回目どこでしょうか。 T 何ページ辺りですか。 T もう1つは。</p> <p>T 「撃たなかった」と「撃てなかった」では、気持ちどう違うのかな。 T じゃあ、これはどっちなの。</p>	<p>C おとり作戦です。 C 2年前にじいさんが釣針の計略で生け捕ったガンをおとりにして、残雪の仲間を捕らえる作戦です。</p> <p>※範読を聞きながら、大造じいさんの気持ちを表しているところに線を引く。</p> <p>C 113ページの6行目で、「心の落ち着くのを待ちました」と書いてあるので、心がわくわくするほど、5行目にも「わくわくしてきました」と書いてあったので… C 今度こそ捕まえてやるという気持ちがあると思います。 C 113ページの後ろから6行目に、「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ」と書いてあるから、そこが(この作戦に)かける気持ちだと思います。 C 「め」が付いている方は、懲らしめてやろうという気持ちだと思います。 C 憎しみが込められていると思います。</p> <p>C 絶対成功させるぞ。 C 今度こそ決着を付けてやるぞ。 C 捕まえるぞ。 C 今まで負けてきたから、今回は勝つぞ。 C タニシ作戦の時も一発ぶち込んで、今年こそは目にも見せてくれるぞ、みたいに同じ感じのことを言っていたので、懲らしめてやるとかが1番強いと思います。 C 第1・第2作戦も作戦が失敗していて、今度こそ恨みを晴らそうという気持ちがあると思います。 C 残雪のせいで捕まえられたガンを獲り逃がした恨みです。 C 狩人。 C 1羽も獲れなくなった。 C 113ページの1行目の「東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました」というところです。大造じいさんは燃えていると思います。 C 心が燃えている。 C この文章は多分情景だと思うんですけど、心が燃えている。 C 闘争心。</p> <p>C 心情風景。 C ハヤブサが邪魔しに入ってきて、失敗したと思います。 C 撃てなかった。</p> <p>C あった。 C 2回だと思います。 C おとりのガンがハヤブサに狙われて、それを助けに来たときの残雪。 C 115ページの6・7・8行目。 C ハヤブサと戦って地上に落ちたときに、じいさんは狙えたんですけど、撃たなかった。 C 「撃たなかった」は、撃てたのにあえて撃たなかったで、「撃てなかった」はチャンスがなくて撃てなかった。 C 撃たなかった。 C 「撃てなかった」には、他にも意味があって、残雪に感動して、感激して撃てなかったんだと思う。 C 「撃たなかった」に同じ意見なんですけど、115ページの「大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。」ということは、撃てたんだけど、わざと撃たなかったことだと僕は思います。</p>

<p>13:49</p>	<p>T じゃあ、撃たなかったってことでいいかな。 ○本時の学習内容を提示する。(p.76から変更)</p>	
<p>なぜ、大造じいさんは、残雪をうたなかったのだろう。</p>		
<p>13:57</p>	<p>T では、ちょっと予想を聞いてみますね。 T 予想なのでここまでにしておきますね。では、読んでいきますね。また、サイドラインを引いて、書き込んでもらいたと思います。では、先ほどの続きです。113ページの10行目から。 ○後半部分を音読する。 ※範読する。 T ちょっと確認しますね。チャンスの①はどこでしたか。指さしてください。 T 誰か読んでもらおうかな。 ○大造じいさんがしとめなかった理由について考えさせる。 T チャンス①から考えていくのですが、</p>	<p>C 私は感動して撃てなかったんだと思います。 C 117ページに「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」と書いてあるから、感動していたと思います。 C 115ページの「残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間のすがたがあるだけでした。」から、大造じいさんはその行動を見て、驚いて撃てなかったんだと思います。 ※範読を聞きながら、大造じいさんの気持ちを表しているところに線を引く。 ※児童は指をさし、隣の児童と確認する。 ※指名された児童が音読する。</p>
<p>主発問1 「なぜ、大造じいさんはじゅうを下ろしてしまったのですか。」</p>		
<p>14:07</p>	<p>T はい、この場所(の気持ち)が分かるところ、教科書に線を引いて、なぜか考えて書き込んでください。 T その残雪の行動って、どんな行動。 T 仲間を守るとか必死とか、どこに書いてあります。どの文章から分かります。 T ちょっと読んでください。 T 「人間もハヤブサもありませんでした。」ってどういうこと。 T ハヤブサ、すごく強いんだよね。目に映っていたのは何かというと。 T 残雪の目に映っていたのは何ですか。 T なるほど、そういうのもあるかもしれない。もしかして、そこで撃ったらやられちゃうかもしれない。なるほどね。でも大きくは、ここに書いてあるのは、救わねばならぬ仲間の姿があるだけでした。残雪の目にはあるだけなんだね。あるだけというのはどういうことなの。 T こういう姿があるから、最初撃つ気満々だったのが、銃を下ろしてしまったよということね。では、チャンスの②にいけます。はい、どの部分ですか。指さしてください。どこら辺かなあ。これ地上に落ちたときだよ。どうして地上にいる残雪を、撃たなかったんだろうね。分かるところにサイドラインを引いて、分かることまとめて書き込んでください。</p>	<p>※大造じいさんの気持ちを表しているところに線を引き、気持ちを書き込む。 C 仲間を助けようとして必死に戦った様子に感動して銃を下ろしてしまったと思います。 C 残雪は仲間のガンを助けるために、一生懸命ハヤブサを倒そうとした。仲間を助けようとした気持ちが強いからだと思います。 C 似ているんですけど、大造じいさんはぐっと銃を肩に当てているときは、それまで撃つ気満々だったんですけど、残雪の行動に感動して、再び銃を下ろしたんだと思います。 C 仲間のガンをハヤブサからの攻撃から守るために、まず守って、その後、「あの大きな羽で、力いっぱい相手をなぐりつけました。」とか、そういう行動も入ってくると思います。 C 115ページの10行目。 ※各自音読する。 C 仲間のガンを助けるために、人間もハヤブサも目になくて、助けることだけを考えていたから、こういうことになったんだと思います。 C じいさんのおとりのガン。 C 仲間。救わねばならぬ仲間。 C 大造じいさんがぐっと肩に銃を当てて狙ったときに、残雪を撃つ気だったんですけど、残雪が大造じいさんのガンを助けようとしている姿を見て、残雪を撃ったら、じいさんのガンもハヤブサにやられてしまうので撃たなかったのだと思います。 C 仲間を救うことしか頭にないとか、そういうことだと思います。 ※大造じいさんの気持ちを表しているところに線を引き、気持ちを書き込む。</p>
<p>主発問2 「なぜ、地上にいる残雪を撃たなかったのですか。」</p>		
	<p>T 「強く心を打たれた。」とありますが、何に強く心を打たれたんですか。</p>	<p>C 残雪に強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなくて、感動したから。 C 残雪。</p>

第IV章

<p>T 残雪の何。</p> <p>T すごいこと見付けたね、どこに書いてある。</p> <p>T あと、強く心に打たれているのはどういうところがありますか。</p> <p>T こういう態度に感動して、強く心を打たれて撃たなかった。1つ聞きたいのですが、残雪は仲間のために戦っているよね。すごく堂々とした態度だよ。でもさあ、残雪を撃つことはできたよね。目の前にいるなら、撃てたよね。狩人なんだから、獵師なんだから。撃つことは可能だよ。どうして撃たなかったんだろうね。</p>	<p>C せめて頭領としての威厳を傷つけないように努力している姿。</p> <p>C それは鳥とはいえ、いかにも頭領らしい、堂々たる態度と、戦っていたのに、次の敵が来るまで態度をずっと変えないで、警戒心を出していた姿。</p> <p>C 強く心を打たれて、撃てなかったんですけど、このときに、ちょっと先にいっちゃうんですけど、正々堂々と戦おうっていう気持ちが出たんだと思います。</p> <p>C 119ページのかぎ括弧の部分です。</p> <p>C 残りの力を振り絞って、ぐっと長い首を持ち上げました。そして、じいさんを正面からにらみつけました。</p> <p>C さっき〇〇くんが言ったように、119ページのかぎ括弧にあるみたいに、卑怯なやり方でやらないで、もう一回大造じいさんが作戦を立てて、やりたいという強い気持ちがあるからだと思います。</p> <p>C 残雪の頭領としての威厳や、仲間を助けるための必死さが大造じいさんの心を打って、そのことに感動して撃たなかった。</p> <p>C 大造じいさんは今までの作戦で、残雪をねたましくも思っていたけど、どこかで特別な気持ちを抱えて、それで、最後に撃てたんですけど、「ひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。」という文で分かるように、今までと同じように、正々堂々と戦いたいので、撃たなかったんだと思います。</p>
---	---

本時の主発問1と主発問2は、目標達成に向けた主な手立てである。主発問1では、残雪の勇気ある行動、主発問2では、残雪の毅然とした態度をとらえさせることで、残雪の行動や態度から大造じいさんの心情が変化したことを読み取らせることができた。

<p>T 分かりました。今日ね、最後に詳しくチャンスごとに教科書の叙述に沿って、書いてあるところを見付けて、読んでもらいました。最後ね、意見ももらいました。これを参考に、詳しくね、「なぜ大造じいさんは残雪を撃たなかったのか。」というのを最後までとめてほしいと思います。</p> <p>14:19 ○発表・交流を基に、大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめさせる。</p> <p>T ノートに書きましょう。まとめ終わった人は朗読の練習をしてください。</p> <p>T はい、〇〇くん読んでください。</p> <p>T あと一人お願いします。</p>	<p>※大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめる。</p> <p>C あの残雪の堂々たる態度に感動した。また、正々堂々と戦いたい。</p> <p>C 残雪が仲間を助ける必死な姿を見て、強く心を打たれたからです。</p>
--	---

大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめさせる活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基に大造じいさんの心の変化をまとめることができた。しかし、「残雪の態度に強く心を打たれたから」など、大造じいさんが残雪をしとめなかった理由を一文で簡単に表現する記述が多かった。「そのように考えた理由も書きなさい。」と指示するなど、授業で学んだことをできるだけ詳しく表現させる手立てを工夫すると、一人一人の学習の状況がよりよく見取れたと考える。

<p>14:27 T はい、というところで朗読までいけませんでした。みんなよく頑張ったと思います。これで終わりたいと思います。</p> <p>T 大造じいさんはなぜ撃たなかったか。堂々とした態度、仲間を助ける必死な姿、仲間思いの姿、正々堂々と戦いたい気持ちがあったからじゃないかということでした。</p>	
--	--

◇本時の目標達成状況

主に大造じいさんが残雪をしとめなかった理由をノートにまとめさせる場面において、目標達成状況を評価した。

大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基にまとめることができ、目標を達成することができたと考えられる児童は、94%であった。

なお、94%のうち、大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動と毅然とした態度に心を打たれ、正々堂々と残雪をしとめたいと思う大造じいさんの気持ちをまとめることができ、A「十分満足できる」と判断される児童は、63%であった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童のノート〉

〈A「十分満足できる」と判断した児童のノート〉

まよめ
残雪が仲間を助けるのに死なすがたを見て、強く心を打たれたから。

大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動と毅然とした態度に心を打たれ、正々堂々と残雪をしとめたいと思う大造じいさんの気持ちをまとめることができているので、A「十分満足できる」と判断した。



まよめ
大造じいさんは残雪の仲間をひつしに助けようとしていたすがたや、堂々たる態度に感心して、うてなから思ひこみます。また大造じいさんと残雪は、リライアブル関係だから、ひまきようなやり方でつかまえたくなかったのだと思っています。

第Ⅳ章

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級の児童は、国語への関心が高いほど読書量が多く、教材文の読み取りにも優れていた。また、すらすら音読することができる児童は多いが、心情や描写をとらえて読むことはできていなかった。

単元の目標

優れた叙述に関心をもち、自分の考えをまとめるとともに、自分の思いや考えが伝わるように朗読の仕方を工夫することができるようにする。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・大造じいさんが残雪をしとめなかった理由について、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度を基にまとめることができるようにする。

◇授業仮説

- ・2度あった残雪をしとめるチャンスに着目できるような発問を工夫することにより、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

主発問1と主発問2により、残雪の勇気ある行動や毅然とした態度が大造じいさんの心情を変化させたことを読み取らせることができた。

実践の成果と課題

本実践を終えての成果と課題は、以下の通りである。

〈成 果〉

- ・残雪の行動や態度について考えさせるよう主発問を工夫したことにより、大造じいさんが残雪をしとめることができなかつた理由について、まとめることができた。
- ・大造じいさんと残雪の行動描写や、自然描写などを読み取る時間を大切にしたことにより、自分なりに心情をとらえ、自分の思いが伝わるような朗読へとつなげることができた。

〈課 題〉

- ・教科書へ書き込みをする児童とノートへ記述する児童が同じ学習活動の中に混在していたため、読み取った思いや考えをどのように表現させるかを吟味する必要があるがあった。
- ・「そのように考えた理由を書きなさい。」などの指示をしなかったために、読み取った内容を簡単に要約して記述する児童も見られた。

自分の思いを自分の言葉で表現する学習

日 時 平成23年11月4日(金) 5校時 実施
 児 童 旭川市立緑が丘小学校第3学年1組 36名
 指導者 松 田 隆 之

〈学校の概要〉

学校の様子	緑が丘小学校は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、住民センター、工業高校、南高校、医科大学などの教育施設がある非常に落ち着いた文教地区にある。その中で、明るく意欲的で素直な児童、何事にも前向きで真剣に取り組む教職員、学校のために協力を惜しまないPTAや地域の方と連携し、学校長の経営方針のもと「よく考え 共に高めあう子どもの育成」に向け一丸となって力を注いでいる。
研究の内容	これまでの研究で、子どもたちは意欲的に課題を解決しようとしたり自分の考えを積極的に伝えようとしたりする姿勢が見られるようになってきた。しかし、課題解決に向けて粘り強く努力することや、他者と自分の考えを比べ交流することができない面が課題として明らかになった。この課題解決に向け、今年度より、「主体的に学び 互いに高め合う子どもの育成」を研究主題として、研究を進めることにした。

- 1 単元名 「物語の感想をまとめよう」(光村図書 3年)
 教材名 「ちいちゃんのかげおくり」

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は、次の通りである。

<p>【学習指導要領】～第3・4学年(国語科)の目標と内容～</p> <p>1 目 標</p> <p>(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>C 読むこと</p> <p>(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。</p> <p>エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。</p> <p>オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。</p> <p>〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕</p> <p>(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。</p> <p>イ 言葉の特徴やきまりに関する事項</p> <p>(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。</p>

これまで国語では、「きつつきの商売」で、場面の様子や音を想像し、音読の仕方を工夫しながら学習を進めてきた。また、「海をかつとばせ」では話の展開を楽しみながら、情景

第Ⅳ章

や登場人物の行動に着目したり、サイドラインを引いて読み取ったことを書き込んだりすることを行ってきた。

本単元は、「かげおくり」という遊びを題材にして、戦争の悲惨さや平和を願う作者の思いがこめられた作品である。本文は5つの場面から構成されており、情景や人物の言動を表現する描写が多い。当時の時代背景を正確に把握することは難しいが、戦禍の様子を表す叙述に着目したり、「ちいちゃん」の感情を想像しながら読み進めたりすることで、戦争の悲惨さに気付くことができるであろう。また、5つの場面を比較しながら読み進めることで、戦争がちいちゃんから大切なものを奪っていったことを想像することができるであろう。

これらの活動を通して、叙述を基に登場人物の心情や場面の様子を想像し、自分の考えをもつことがねらいである。

なお、本単元では「物語の感想をまとめよう」12時間扱いのうち、「ちいちゃんのかげおくり」の9時間分について取り上げた。

〈児童観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の児童の実態は次の通りであることが分かった。

「国語への関心・意欲・態度」については、事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・国語の学習、特に物語の学習を好きであると答えた児童は、78%であった。

「読むこと」については、これまでの学習状況及び事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・本を読むことが好きであると答えた児童は、80%であった。
- ・じっくり考えることが身に付いていないために、テストなどでは、設問の意図を十分理解しないで解答する児童が多かった。
- ・サイドラインを引くことや書き込みをすることには、個人差があった。

「言語についての知識・理解・技能」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・「言う」と「つぶやく」、「踏む」と「踏みしめる」といった類似した言葉の細かな違いなどを説明することには個人差はあるが、動作化すれば理解することができる児童が多かった。

これらの結果により、本学級の児童は、物語の学習を好んで行うが、叙述を基にじっくり考えたり、重要な部分をまとめたりする学習を苦手としていることが分かった。

〈指導観〉

本単元では、登場人物の行動、情景、会話などの表現に着目した読む活動を通して、叙述を基に場面の様子や登場人物の心情を想像して読む能力を高めさせたい。また、本教材を通して、日常当たり前と思っている家族との幸せな生活を奪い、尊い人の命、そして未来までも奪いつくす戦争の悲惨さや理不尽さを認識し、平和を求める思いをはぐくませたい。

そのために、登場人物の心情を表し、繰り返される叙述や戦禍の様子を表す情景描写に気付かせる課題設定や、発問・板書の工夫をしていく。

3 単元の見目標

「平和」をテーマにした作品に関心をもち、人物の気持ちや場面の様子を表す文や語句を理解し、戦争の悲惨さについて考えながら、中心人物の気持ちや場面の移り変わりを想像して読むことができるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準		
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「平和」をテーマにした作品に関心をもち、言葉や表現に着目して読み、どの場面で心を打たれたか感想をもっている。	会話や動作を表す言葉や自分の体験等を基にして、登場人物の気持ちや場面の移り変わりを想像しながら読んでいる。	人物の気持ちや様子を表す文や語句について理解している。
1 単位時間の評価規準		
①②言葉や表現に着目して読み、どの場面で心を打たれたか感想をもっている。	③登場人物の会話文を基に、家族そろって「かげおくり」をしている楽しい様子を読み取っている。 ④空を描写している言葉に着目し、「かげおくり」をして遊んだ楽しい空が、時間の経過とともに怖い空へと変わったことを読み取っている。 ⑤叙述を基に、空襲から逃げる途中でお母さんとはぐれてしまったちいちゃんの様子を読み取るとともに、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを想像している。 ⑥叙述を基に、お母さんやお兄さんが帰ってくるのを待っているちいちゃんの願いを読み取っている。 ⑦2つの「かげおくり」を比べ、どちらも家族4人が登場する「かげおくり」で共通しているが、第4場面はちいちゃんが一人でした「かげおくり」で、まぼろしだったということを見付けている。 ⑧ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読んでいる。 ⑨第5場面がある場合とない場合とを比べ、第5場面に込めた作者の思いを想像しながら、自分の考えをまとめている。	①②人物の気持ちや様子を表す文や語句について理解している。

5 指導と評価計画

□ 1 単位時間の学習課題 ★努力を要する児童への手立て

時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
1・2	◎言葉や表現に着目して読み、どの場面で心を打たれたか感想をもつとともに、人物の気持ちや様子を表す文や語句について理解できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「ちいちゃんのかげおくり」を読んで心にのこったことを書こう。</div> ○読み聞かせを通して、初発の感想を書く。 ★口頭で、心に残ったことを言わせる。 ○物語の設定(時・場所・登場人物・出来事)を確認する。 ○場面分けを行う。 ○人物の気持ちや様子を表す文や語句について確認する。 ★会話文に着目させる。 ○新出漢字を確認する。	〈関〉観察、ノート 言葉や表現に着目して読み、どの場面で心を打たれたか感想をもっている。 〈言〉観察、発言 人物の気持ちや様子を表す文や語句について理解している。

第IV章

<p>3</p>	<p>◎登場人物の会話文を基に、家族そろって「かげおくり」をしている楽しい様子を読み取ることができるようにする。</p> <p>家族の楽しそうな様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話文全体 ・ちいちゃん、兄「すごい。」 	<p>「かげおくり」をしているちいちゃんたちの様子を読み取ろう。</p> <p>○会話や動作を表す言葉などを基に、登場人物の気持ちを考える。 ★会話文に着目させ、話し手と内容を理解させる。 ○「かげおくり」を演じることによって、ちいちゃんの家族が仲良く楽しそうにかげおくりをしている様子を想像する。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート 登場人物の会話文を基に、家族そろって「かげおくり」をしている楽しい様子を読み取っている。</p>
<p>4</p>	<p>◎空を描写している言葉に着目し、「かげおくり」をして遊んだ楽しい空が、時間の経過とともに怖い空へと変わったことを読み取ることができるようにする。</p> <p>空の様子の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「青い空」 ・「しょういだんやばくだんをつんだひこうき」 ・「楽しい所ではなく、とてもこわい所に」 	<p>空の様子が変わったことについて考えよう。</p> <p>○空の様子についての描写に着目し、変化についてまとめる。 ★空についての描写に着目させ、変化したことを読み取らせる。 ○空以外の変化について考え、戦争がちいちゃんからお父さんも遊びも奪い取ったことを読み取る。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート 空を描写している言葉に着目し、「かげおくり」をして遊んだ楽しい空が、時間の経過とともに怖い空へと変わったことを読み取っている。</p>
<p>5</p>	<p>◎叙述を基に、空襲から逃げる途中でお母さんとはぐれてしまったちいちゃんの様子を読み取るとともに、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを想像することができるようにする。</p> <p>ちいちゃんの心細さや不安な気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦火から逃げる中で、家族と離れてしまったちいちゃんは、叫びながらお母さんを探した。 ・お母さんだと思った人物が人違いであった。 ・「ひとりぼっちになりました。」 	<p>くうしゅうからにげるちいちゃんの様子を読み取ろう。</p> <p>○叙述を基に、家族と離れてしまったちいちゃんの気持ちを想像する。 ★状況を自分に置き換えて考えさせる。 ○空襲の様子を想像し、戦争がちいちゃんにとって大切なものを奪い取ったことを読み取る。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート 叙述を基に、空襲から逃げる途中でお母さんとはぐれてしまったちいちゃんの様子を読み取るとともに、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを想像している。</p>
<p>6</p>	<p>◎叙述を基に、お母さんやお兄さんが帰ってくるのを待っているちいちゃんの願いを読み取ることができるようにする。</p> <p>お母さんに会いたいという気持ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「泣くのをやっところえて」 ・「深くうなずきました。」 ・「また深くうなずきました。」 ・暗い防空壕の中で、少しずつほしいいをかじりながら待っていた。 	<p>ひとりぼっちになったちいちゃんのことをそうぞうしよう。</p> <p>○叙述を基に、戦争によってひとりぼっちになったちいちゃんのことを想像する。 ★状況を自分に置き換えて考えさせる。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート 叙述を基に、お母さんやお兄さんが帰ってくるのを待っているちいちゃんのことを読み取っている。</p>

<p>7</p>	<p>◎2つの「かげおくり」を比べ、どちらも家族4人が登場する「かげおくり」で共通しているが、第4場面はちいちゃんが一人でした「かげおくり」で、まぼろしだったということを見付けることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第1場面の「かげおくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族4人での「かげおくり」 ・現実の「かげおくり」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第4場面の「かげおくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりぼっちの「かげおくり」 ・まぼろしの「かげおくり」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ちいちゃんの家族に対する思い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちいちゃんは、きらきらわらいました。」 ・「わらいながら、はなばたけの中を走りだしました。」 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2つの「かげおくり」をくらべ、同じところやちがうところを見つけよう。</p> </div> <p>○2つの「かげおくり」を比べ、第4場面の「かげおくり」の特徴を読み取る。</p> <p>★前時までの学習について書いた模造紙板書を示しながら、2つの「かげおくり」を比較させる。</p> <p>○会話や動作を表す言葉を基に、ちいちゃんの家族に対する思いを想像する。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート</p> <p>2つの「かげおくり」を比べ、どちらも家族4人が登場する「かげおくり」で共通しているが、第4場面はちいちゃんが一人でした「かげおくり」で、まぼろしだったということを見付けている。</p>
<p>8 (本時)</p>	<p>◎ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読むことができるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ちいちゃんにとっての「しあわせ」とは何だろう。</p> </div> <p>○ちいちゃんが幸せだったかどうか考える。</p> <p>★ちいちゃんの様子や「かげおくり」の特徴が分かる文章や言葉を見付けさせる。</p> <p>○根拠を明らかにして自分の考えを発表する。</p>	<p>〈読〉発言、ノート</p> <p>ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読んでいる。</p>
<p>9</p>	<p>◎第5場面がある場合とない場合とを比べ、第5場面に込めた作者の思いを想像しながら、自分の考えをまとめることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>平和の訪れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「前よりもいっぱい家がたっています。」 ・小さな子がきらきら笑い声を上げて遊んでいる。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>第5場面にこめられた作者の思いを考えよう。</p> </div> <p>○第5場面が存在する理由について考える。</p> <p>★それから何十年後の公園の様子を、ちいちゃんが見たらどう思うか考えさせる。</p> <p>○根拠を明らかにして自分の考えを発表する。</p>	<p>〈読〉観察、発言、ノート</p> <p>第5場面がある場合とない場合とを比べ、第5場面に込めた作者の思いを想像しながら、自分の考えをまとめている。</p>

6 本時の学習(9時間扱い 8/9)

(1) 目標

- ・ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読むことができるようにする。

第IV章

(2) 授業仮説

- ・ 叙述を基に多様な考えが生まれるような発問や、一人一人の考えが分かるような板書を工夫することにより、自分の思いや考えを深め、目標を達成することができるであろう。

(3) 展開

	教師の活動	児童の活動	評価
見 付 け る	1 前時までの学習を想起させる。	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 第1場面と第4場面の「かげおくり」は同じではない。	
	2 第4場面の1次感想を確認させる。	2 第4場面の1次感想を確認する。 ・ 家族に会えてよかったと思いました。 ・ 死んじゃってかわいそうでした。	
	ちいちゃんにとっての「しあわせ」とは何だろう。		
求 め る	4 第4場面を範読する。 「聞きながら、ちいちゃんの行動や会話に線を引きましょう。」	4 第4場面の範読を聞きながら、ちいちゃんの行動や会話がかかれてい部分に線を引く。	
	5 「かげおくり」をしている時のちいちゃんの様子や気持ちを読み取らせる。 「どこに線を引きましたか。」	5 「かげおくり」をしている時のちいちゃんの様子や気持ちを線を引いた箇所から読み取り、ちいちゃんの行動の特徴や気持ちをとらえる。 ・ 暑いような寒いような気がしました。 ・ ひどくのどがかかっています。 ・ 体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。 ・ きらきらわらい出しました。 ・ わらいながら、花ばたけの中を走り出しました。	
	6 ちいちゃんが幸せだったかどうか考えさせる。 主発問 『かげおくり』をするちいちゃんは、幸せだったのだろうか。」	6 ちいちゃんが幸せだったかどうか考え、交流する。 (幸せ) ・ ずっと一人で寂しかったから、家族に会えて幸せだったと思う。 ・ ちいちゃんがきらきら笑っているから、幸せだと思う。 ・ 花畑の中を走り出すほどうれしかったのだから、幸せだと思う。 (幸せとは言えない) ・ 本当に家族と会えたわけではないから、幸せとは言えない。 ・ 「かげおくり」をした後、死んでしまったから、幸せとは言えない。 ・ 「かげおくり」をすることしか家族と会える方法はないのだから、幸せとは言えない。	
高 め る	※「かげおくり」をしているときのちいちゃんの様子から判断した意見だけではなく、ちいちゃんをこのような境遇に追い込んだ戦争という時代背景に目を向けた意見など、多様な意見が出るように働きかける。 「ちいちゃんが本当にしたかった『かげおくり』は、どんな『かげおくり』なのだろう。」 「ちいちゃんは、防空壕の中でどんなことを願って待っていたのだろう。」		
	7 学習課題について、本時の学習を基にまとめさせる。 「ちいちゃんにとっての幸せとは何だったのでしょうか。今日の学習を振り返って、ノートに自分の考えを書きましょう。」	7 学習課題について自分の考えをノートに書いて発表させる。 ・ ちいちゃんにとっての「幸せ」とは、戦争のない世の中で平和に暮らすことです。 ・ ちいちゃんにとっての「幸せ」とは、	〈読〉発言、ノート A ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、1場面での「かげおくり」の様

高める	<p>※「戦争」「家族」「かげおくり」といった言葉を使うように指示する。</p> <p>★ちいちゃんの様子や「かげおくり」の特徴が分かる文章や言葉を見付けさせる。</p>	<p>1場面のような「かげおくり」をすることです。</p> <p>・ちいちゃんにとっての「幸せ」とは、家族4人で「かげおくり」をすることです。</p>	<p>子も踏まえて、ちいちゃんの思いや願いを想像して読んでいる。</p>
	<p>・ちいちゃんにとっての「幸せ」とは、戦争のない世の中で平和に暮らすことである。</p> <p>・ちいちゃんにとっての「幸せ」とは、本物の家族と「かげおくり」をすることである。</p>	<p>B ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことや、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読んでいる。</p>	

(4) 板書計画



7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	児童の活動
13:35	<p>○前時までの学習を想起させる。</p> <p>T 前の時間はどんなことを勉強しましたか。</p> <p>T 「かげおくり」という言葉が出てきたのは初めてでしたか。</p> <p>T 第1場面の「かげおくり」はどのような「かげおくり」でしたか。</p> <p>T メンバーはどうでしたか。</p> <p>T 雰囲気はどうでしたか。</p> <p>T ちいちゃんの気持ちはどうでしたか。</p> <p>T 第1場面の「かげおくり」と第4場面の「かげおくり」は同じですか。</p>	<p>C 第4場面の「かげおくり」の特徴をまとめました。</p> <p>C どんな「かげおくり」かということ、「まぼろし」、「ひとりぼっち」の「かげおくり」でした。</p> <p>C 前にも出てきました。</p> <p>C 第1場面でも出てきました。</p> <p>C 「現実のかげおくり」です。</p> <p>C 家族4人でした。</p> <p>C 楽しそうでした。</p> <p>C 幸せそうでした。</p> <p>C わくわく楽しい気持ちでやっていたと思います。</p> <p>C 同じところもあるけれど、雰囲気や人数など違うところもありました。</p>
13:38	<p>○本時の学習課題を提示する。</p> <p>T みんなが書いてくれた1回目の感想を見ると、第4場面のちいちゃんのことを考えた時に「かわいそうだ。」と思った人と、「家族に会えてよかったね。」と思った人がいるようです。今日はこの1回目の感想を基に勉強していきます。</p>	

第Ⅳ章

ちいちゃんにとっての「しあわせ」とは何だろう。	
<p>13:41 ○第4場面を範読する。</p> <p>T いつも通り、「ちいちゃんの行動」に線を引いてください。</p>	<p>※教師の範読を聞きながら、ちいちゃんの行動についての叙述にサイドラインを引く。</p>
<p>13:44 ○「かげおくり」をしている時のちいちゃんの様子や気持ちを読み取らせる。</p> <p>T どこに線を引きましたか。</p>	<p>C 「明るい光が顔に当たって、目がさめました。」のところです。</p> <p>C 「ふらふらする足をふみしめて、たった一つのかげぼうしを見つめながら数えだしました。」のところです。</p> <p>C 「ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。ひどくのどがかわいています。」のところです。</p> <p>C 「いつのまにか、お父さんの低い声が重なってきました。」のところです。</p> <p>C 「ちいちゃんはよびました。」のところです。</p> <p>C 「その時、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。」のところです。</p> <p>C 「ちいちゃんは、空色の花ばたけの中に立っていました。」のところです。</p> <p>C 「その時、向こうから、お父さんとお母さんとお兄ちゃんが、わらいながら歩いてくるのが見えました。」のところです。</p> <p>C 「ちいちゃんは、きらきらわらいだしました。わらいながら、花ばたけの中を走りだしました。」のところです。</p>
<p>13:50 ○「かげおくり」をしているときのちいちゃんの様子や、ちいちゃんの置かれた状況について考えさせる。</p> <p>T ちいちゃんの行動から分かることを整理していきましょう。</p> <p>T ちいちゃんはどんな体調ですか。</p> <p>T それを短く言ってみましょう。</p> <p>T 「ふらふらする足をふみしめて、たった一つのかげ</p>	<p>C 「明るい光が顔に当たって、目がさめました。」のところから、光が当たる前は寝ていたということが分かります。</p> <p>C 「ちいちゃんは、暑いような寒いような気がしました。」のところから風邪を引いているんだと思います。</p> <p>C 疲れていて、暑いのか寒いのか混乱しているんだと思います。</p> <p>C 食べ物もあまり食べていないから混乱していたのかもしれない。</p> <p>C だるかったんじゃないかと思います。</p> <p>C すごく疲れていたんだと思います。</p> <p>C 本当に具合が悪かったんだと思います。</p> <p>C 「ふらふらする足をふみしめて」です。</p>

ぼうしを見つめながら数えだしました。」のところから、具合が悪いちいちゃんの様子は読み取れませんか。

T 体調のよくないちいちゃんのところに空から声が降ってきます。誰の声ですか。

T 普通、空から声が降ってくるなんてありますか。

T 「その時、体がすうっとすきとおって、空にすいこまれていくのが分かりました。」のところから、どんなことが分かりますか。

T 空に行った後のちいちゃんはどのような様子ですか。

T その喜びをせりふで表すとしたらどうなりますか。

13:57 ○ちいちゃんが幸せだったかどうか 考えさせる。

主発問

『「かげおくり」をするちいちゃんは、幸せだったのだろうか。』

T まず「幸せ派」か「幸せではない派」か自分の立場をはっきりさせましょう。それから理由を考えましょう。

★立場を決められない児童には、板書のちいちゃんの様子や行動に着目するよう助言した。

T それではノートに書いたことを発表しましょう。

T そのうれしい気持ちは、教科書のどこかに書かれていますか。

T 「幸せではない派」の人はいますか。

T 「幸せ派」の人は「家族と一緒に」と言っていたけど、それはどう思いますか。

C お父さんとお母さんの声です。

C ないです。

C まぼろしの声が聞こえたんだと思います。

C ちいちゃんが天国へ行ったということが分かります。

C このときに、死んだのかもしれない。

C これも「まぼろし」だと思います。

C 久しぶりに家族に会うことができ喜んでます。

C ずっと会いたいと思っていたから、会うことができ喜んでます。

C 「やったあ！会えたあ！」



※自分の立場を決め、ノートに自分の考えを書く。

※ちいちゃんが家族と会えて喜んでいる様子に着目し、「幸せ派」の立場で理由を考え始めた。

C 「幸せ」だと思います。なぜなら、家族4人で手をつないだかげが空にくっきり映っているからです。

C 「幸せ」だと思います。なぜなら、「まぼろしのかげおくり」だけど、ちいちゃんは家族と一緒にやったと思っているからです。

C 「幸せ」だと思います。ずっと一人ぼっちだったから、家族に会えただけでもうれしいと感じているんだと思います。

C 「きらきらわらい出しました。」のところに表れていると思います。

C 「幸せではない」だと思います。なぜなら、第1場面と違って、家族がいないからです。

C それは、まぼろしの家族だから違うと思います。空には映っているけれど、「かげおくり」をしたのはちいちゃん一人です。

C 「幸せではない」だと思います。なぜなら、「たったひとつのかげぼうし」と書いてあるからです。「たった」という言葉には、「ただ」という意味があって、

第IV章

		<p>寂しい感じがします。</p> <p>C 「幸せではない」だと思います。なぜなら、ちいちゃんは「ふらふらする足」だったり、「暑いような寒いような気がしたり」した中で、「かげおくり」をしているからです。</p> <p>C 「幸せではない」だと思います。なぜなら、ちいちゃんは結局死んでしまったからです。</p>
<p>本時の主発問は、目標達成に向けた主な手立てである。この主発問により、児童は自分の立場を明確にし、自分の思いや考えをもつことができた。さらに、一人一人の考えを分類し、板書したことによって、自分と似た考えや自分の立場とは反対の考え、立場は同じでも根拠が異なる考えに触れ、自分の思いや考えを深めることができた。</p>		
<p>14:10</p>	<p>○交流したことを基に、ちいちゃんが望んでいた「かげおくり」について考えさせる。</p> <p>T いろいろな意見が出ました。3年1組の答えを考えていきましょう。ちいちゃんの目が覚める前、ちいちゃんはどこにいましたか。</p> <p>T 防空壕の中でどんなことを願っていましたか。</p> <p>T どのような「かげおくり」ですか。</p> <p>T その願いは達成されましたか。</p> <p>T みんながちいちゃんの立場になった時、第4場面のような「かげおくり」をして、幸せですか。幸せではないですか。</p>	<p>C 壊れかかった防空壕の中です。</p> <p>C 家族に会うことです。</p> <p>C 家族と一緒に暮らすことです。</p> <p>C 家族とまた「かげおくり」をすることです。</p> <p>C 楽しい「かげおくり」です。</p> <p>C 家族4人での「かげおくり」です。</p> <p>C 見ている人にとっても、楽しそうな「かげおくり」です。</p> <p>C 本当は達成されていないけど、ちいちゃんは家族4人でやったと思っています。</p> <p>C 幸せではないです。本当は、家族4人でやりたかったのにひとりぼっちだし、死んでしまうからです。</p>
<p>14:20</p>	<p>○学習課題について、本時の学習を基にまとめさせる。</p> <p>T 「ちいちゃんにとっての幸せとは」に続けてまとめを書きましょう。「戦争」「かげおくり」「家族」という3つのキーワードを使ってまとめてください。</p> <p>★ちいちゃんの様子や「かげおくり」の特徴が分かる文章や言葉を見付けるよう助言した。</p> <p>T 書いたことを発表しましょう。</p>	<p>※学習課題についてノートにまとめる。</p> <p>※模造紙板書を見ながら、ちいちゃんの願いに気付き、「戦争がなくなる」ということについて記述することができた。</p> <p>C ちいちゃんにとっての幸せとは、戦争が起きる前のような、家族4人での楽しい「かげおくり」をすることです。</p> <p>C ちいちゃんにとっての幸せとは、戦争がなくなって家族4人で楽しい「かげおくり」をすることです。</p> <p>C ちいちゃんにとっての幸せとは、ずっと戦争のない世の中で、家族4人で幸せな「かげおくり」をするこ</p>

とです。

本時の学習課題についてノートにまとめる活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。児童は、本時で学習したことを振り返りながら「ちいちゃんにとっての幸せとは何か」まとめることができた。しかし、書き出しを固定したこと、「戦争」「かげおくり」「家族」という3つのキーワードを示したことで、かえって自分の考えをまとめることができない児童もいた。

14:30 T これで、5時間目の勉強を終わります。

◇本時の目標達成状況

主に「高める」の「ちいちゃんにとっての幸せとは何か」ノートに記述する場面において、目標達成状況を評価した。

戦争によって置かれている状況や第4場面から読み取った「かげおくり」について記述することができ、目標を達成することができたと考えられる児童は、63%であった。

なお、63%のうち、戦争によって置かれている状況や第1場面と第4場面の「かげおくり」を関連付けて記述することができ、A「十分満足できる」と判断される児童は、11%であった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した児童のノート〉

ま	ま	ま	ま
せ	い	と	
し	ん	い	
い	そ	ち	め
か	う	や	
げ	が	ん	
お	な	に	
く	く	と	
り	な		
き	て		
す	の		
る	家	し	
こ	族	あ	
と	全	あ	
	い	せ	
	ん	と	
	で	は	

〈A「十分満足できる」と判断した児童のノート〉

ま	ま	ま	ま
せ	い	と	
し	ん	い	
い	そ	ち	め
か	う	や	
げ	の	ん	
お	前	に	
く	の	と	
り	日		
が	の	て	
で	よ	の	
き	う	し	
る	な	あ	
こ	家	あ	
と	族	せ	
	全	と	
	買	は	

第1場面と第4場面の「かげおくり」を関連付けて記述することができるので、A「十分満足できる」状況と判断した。

8 実践を終えて

診断的評価による児童の実態

本学級の児童は、物語の学習を好んで行うが、叙述を基にじっくり考えたり、重要な部分をまとめたりする学習を苦手としていた。

単元の目標

「平和」をテーマにした作品に関心を持ち、人物の気持ちや場面の様子を表す文や語句を理解し、戦争の悲惨さについて考えながら、中心人物の気持ちや場面の移り変わりを想像して読むことができるようにする。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・ちいちゃんが「かげおくり」で家族みんなに会えたと思ったことと、戦争によって置かれている状況の両面から、ちいちゃんの思いや願いを想像して読むことができるようにする。

◇授業仮説

- ・叙述を基に多様な考えが生まれるような発問や、一人一人の考えが分かるような板書を工夫することにより、自分の思いや考えを深め、目標が達成できるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

主発問「『かげおくり』をするちいちゃんは、幸せだったのだろうか。」により、「幸せ派」か「幸せではない派」か、自分の立場を明確にさせた。さらに、児童一人一人の考えを交流させたことで、自分とは反対の立場の考え方や同じ立場でも根拠となる部分が違う考え方に触れ、自分の思いや考えを深めさせることができた。

板書において一人一人の考えが分かるようにネームプレートを活用したことにより、考えがまとまらなかった児童も「自分は〇〇くんの考え方に近い。」という自分の思いや考えをもつことができた。

実践の成果と課題

本実践を終えての成果と課題は、以下の通りである。

〈成果〉

- ・立場をはっきりさせ根拠をもって意見を述べるという活動を重ねていくことにより、空想的な考えで意見を述べるのではなく、叙述に基づいて意見を述べるができる児童が多くなった。本時では、「幸せ派」、「幸せではない派」の両方の立場から、多面的に考えることができた児童もいた。

〈課題〉

- ・多様な児童の考えを教師の解釈に収束させようとしたため、高い目標を設定してしまった。その結果、本時のまとめ部分で児童の考えを制限してしまうことになった。

観察・実験を基に，雲のでき方を考える学習

日 時 平成23年11月7日(月)5校時 実施
 生徒 旭川市立愛宕中学校第2学年3組 34名
 指導者 木村直人

〈学校の概要〉

学校の様子	昭和63年に愛宕中学校として開校。「未来を拓く，創造性豊かな生徒」の育成を教育目標としている。また，「やる気 根気 本気」を校訓とし，望ましい学習習慣や基礎・基本を確実に身に付け，生き生きと学び合う生徒の育成を目指している。生徒は明るい挨拶と笑顔で，規律ある生活を送り，落ち着いて学習に取り組むことが多い反面，自分の考えを发表或し，効果的に伝え合ったりするなど，生徒同士の学び合いを深めていく力の育成に課題がある。
研究内容	本校の研究主題は「『学び合う表現力』をはぐくむ学習指導の在り方」である。生徒同士の豊かな「学び合い」を一層深めるための様々な働きかけを工夫し，個々の生徒の考えや意見の交流など，効果的な言語活動を活性化させる活動を通して，思考や判断を深め，各教科の特性を生かした「表現力」をはぐくむ学習指導の充実を目指している。そのために，目標達成に向かう主体的な学び合いを深める授業展開や学習評価の工夫についての実践に取り組んでいる。

1 単元名 「雲のでき方」(東京書籍 2年)

2 単元について

〈教材観〉

本単元にかかわる学習指導要領の目標及び内容(抜粋)は，次の通りである。

<p>【学習指導要領】～第2学年(理科)の目標と内容～</p> <p>1 目 標</p> <p>(3) 地学的な事物・現象についての観察，実験を行い，観察・実験技能を習得させ，観察，実験の結果を分析して解釈し表現する能力を育てるとともに，大地の成り立ちと変化，気象とその変化，地球と宇宙などについて理解させ，これらの事物・現象に対する科学的な見方や考え方を養う。</p> <p>2 内 容</p> <p>(4) 気象とその変化</p> <p>身近な気象の観察，観測を通して，気象要素と天気の変化の関係を見いださせるとともに，気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。</p> <p>イ 天気の変化</p> <p>(ア) 霧や雲の発生</p> <p>霧や雲の発生についての観察，実験を行い，そのでき方を気圧，気温及び湿度の変化と関連付けてとらえること。</p>
--

これまで理科では，小学校の第4学年において，水は蒸発し水蒸気となって空気中に含まれることや空気が冷やされると水蒸気は水になって現れることについて学習している。また，中学校の第1学年において，地上では空気の重さによって大気圧が働くことや大気圧は標高が高くなるほど小さくなることを学習している。

第Ⅳ章

本単元では、露点、飽和水蒸気量、湿度を学習する。また、気温が下がり露点に達したときに水蒸気が凝結することを学習する。これらを基にして、雲が発生する状況を観察し、大気中の水蒸気が凝結する現象を気圧と気温の変化とを関連付けてとらえさせることがねらいである。

なお、本単元では「空気中の水蒸気の変化」9時間扱いのうち、「雲のでき方」の4時間分について取り上げた。

〈生徒観〉

本単元にかかわる診断的評価を行った結果、本学級の生徒の実態は次の通りであることが分かった。

「自然事象への関心・意欲・態度」については、事前アンケートにより評価し、次のような結果を得た。

- ・天気の学習に「とても興味がある」、または「興味がある」と答えていた生徒は、70%であった。
- ・「霧や雲のでき方」について、「とても興味がある」、または「興味がある」と答えていた生徒は、70%であった。
- ・「自分で、または班で観察や実験を行うこと」について、「とても好きである」、または「好きである」と答えていた生徒は、88%であった。

「科学的な思考・表現」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・「肺モデルの観察から、実際の肺の動きについて考察しよう」という学習では、観察結果から肺の動きを科学的に思考し、正しく記述できた生徒は、53%であった。

「観察・実験の技能」については、これまでの学習状況により評価し、次のような結果を得た。

- ・「肺モデルの各部分の動きを観察しよう」という学習では、肺モデルの各部分の動きを正しく観察できた生徒は、76%であった。

「自然事象についての知識・理解」については、事前テストにより評価し、次のような結果を得た。

- ・「冷たいコップの表面にできた露の正体は、空気中の水蒸気である。」と答えられた生徒は、33%であった。
- ・「冷たいコップの表面の露のでき方」を正しく答えられた生徒は、12%であった。
- ・「霧は、細かな水滴からできている。」と答えられた生徒は、15%であった。
- ・「霧のでき方」を正しく答えられた生徒は、6%であった。
- ・「雲は、細かな水滴もしくは氷の粒からできている。」と答えられた生徒は、3%であった。
- ・「雲のでき方」を正しく答えられた生徒は、3%であった。

これらの結果により、本学級の生徒は、観察や実験を好み、未習の霧や雲のでき方に対する興味・関心は高いということが分かった。しかし、科学的に思考・表現することに苦手意識をもつ生徒が多く、観察・実験の結果から考察を書くことができない生徒も多いということが分かった。

〈指導観〉

本単元では、雲の発生・消失の仕組みについて、気圧と気温の変化とを関連付けて科学的に説明できるようにしたい。また、雲の発生・消失を理解させるためのモデル実験を行い、そこから得られた結果を基に、論理的な考察を書く場面を設定していきたい。

そのために、雲の成因について、大気圧の高度による変化を復習し、大気の上昇に伴う気温の低下(断熱膨張)を見いだすためのモデル実験を行う。その結果から、雲のできる条件は空気の上昇・膨張、温度の低下という一連の過程であることを記述できるようにする。

3 単元の目標

身近な気象に関する事物・現象に進んでかかわり、雲の発生に関する観察、実験を行い、観測器具の基本的な扱い方や観測法及び観測結果から得られた気象データの記録の仕方を身に付けるとともに、雲のでき方と気圧、気温の変化との関連を見いだすことができるようにする。

4 評価規準

単元の評価規準			
自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
雲の発生に関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、事象を日常生活とのかかわりで見ようとする。	雲の発生に関する事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行い、雲のでき方と気圧、気温の変化との関連について自らの考えをまとめ、表現している。	気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察・記録している。	雲のでき方や凝結の仕組みと規則性について基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。
1 単位時間 の評価規準			
①雲の様子に関心をもち、雲の厚さ・形・色・高さ・動く方向や成長する様子などを進んで調べている。	①雲の観察から、雲ができる条件には空気の上昇・膨張が関係することを予想し、記述している。 ②雲ができる理由は、気圧が下がって気温が低下したことにより、空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述している。	②気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察・記録している。	③雲のできる仕組みや、雨や雪が降る仕組みを図に整理して理解したり、雲のできる高さや露点の関係を理解したりしている。 ④地球上の水の循環と太陽エネルギーとの関係を図示し、理解している。

第IV章

5 指導と評価計画

□ 1 単位時間の学習内容 ▢ 単元の学習課題及びまとめ ★ 努力を要する生徒への手立て

	時	指導目標	主な学習活動	評価規準及び方法
見付ける	1	◎雲の様子に関心を持ち、雲の厚さ・形・色・高さ・動く方向や成長する様子などを進んで調べ、雲ができる条件には、空気の上昇・膨張が関係することを予想し、記述している。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">雲を観察し、そのでき方を予想しよう。</div> ○グラウンドで雲の様子を観察し、記録する。 ★雲の厚さ・形・色・高さ・動く方向や成長する様子から1つ選んで、記録させる。 ○学習課題を設定する。	〈関〉 発言, 学習プリント 雲の様子に関心を持ち、雲の厚さ・形・色・高さ・動く方向や成長する様子などを進んで調べている。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">雲はどのようなときにできるのだろうか。</div> ○積乱雲が発生している様子を記録した動画や写真を視聴し、雲のできる高さ、雲の成長する方向について観察・記録する。 ○積乱雲の観察から、雲ができる条件を予想する。 ★「雲ができる高さ」と「標高の高いところでの気圧」、「気圧の低下による空気の膨張」を整理し、雲ができる条件を考えさせる。	〈思〉 学習プリント 雲の観察から、雲ができる条件には空気の上昇・膨張が関係することを予想し、記述している。	
求める	2 (本時)	◎気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察した結果から、雲ができる理由は、気圧が下がって気温が低下したことにより、空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">雲を発生させるモデル実験を行い、雲ができる理由を考えよう。</div> ○雲を発生させるモデル実験を行い、水蒸気が凝結した様子を観察し、結果をまとめる。 ★気圧が下がると、温度が低下し、容器内の水蒸気が凝結することに着目させ、記録させる。 ○気圧を低くしたときの気温の変化を調べる実験を行い、結果を記録する。 ○2つの実験結果から、雲が発生する理由をまとめる。 ★気圧の低下と気温の低下により、水蒸気はどうか考え、記述させる。	〈技〉 観察, 学習プリント 気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察・記録している。 〈思〉 学習プリント 雲ができる理由は、気圧が下がって気温が低下したことにより、空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述している。
高める	3	◎雲のできる仕組みや、雨や雪が降る仕組みを図に整理して理解したり、雲のできる高さや露点の関係を理解できるようにする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">空気が上昇し、雲や雨、雪ができる仕組みをまとめよう。</div> ○雲のできていく過程について、図を用いて整理する。	〈知〉 学習プリント 雲のできる仕組みや、

高 め る	3	<p>★空気は膨張すると気温が下がり，空気中の水蒸気が凝結することを確認させる。</p> <p>○雲のできる高さや露点の関係についてまとめる。</p> <p>★空気の湿度によって，露点に達する温度が変わることを，具体的な現象を示して確認させる。</p>	<p>雨や雪が降る仕組みを図に整理して，理解している。</p> <p>〈知〉学習プリント 雲のできる高さや露点の関係を理解している。</p>	
	<p>上空では気圧が低いので，上昇した空気は膨張し，気温が下がる。気温が露点に達したところで，空気中の水蒸気が凝結し始め，雲ができる。</p>			
	4	<p>◎地球上の水の循環と太陽エネルギーとの関係を図示し，理解できるようにする。</p>	<p>地球上の水の循環と太陽エネルギーの関係について考えよう。</p> <p>○降ってきた雨や雪がその後どうなるか記述し，発表する。</p> <p>○大気中(空気中)の水蒸気は，どこから発生したか話し合い，発表する。</p> <p>○図を用いて，地球上で水が循環していることをまとめる。</p> <p>★陸地や海洋から大気へ向けて水が循環している様子を，図中に矢印で記入させる。</p> <p>○大気中の水蒸気は，太陽エネルギーによって温められた地面や海水面から蒸発していることを知る。</p>	<p>〈知〉学習プリント 地球上の水の循環と太陽エネルギーとの関係を図示し，理解している。</p>

6 本時の学習（4時間扱い 2 / 4）

(1) 目 標

- ・気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察した結果から，雲ができる理由は，気圧が下がって気温が低下したことにより，空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述できるようにする。

(2) 授業仮説

- ・実験結果を基に，「気圧と気温の低下」と「水蒸気の凝結」とを関連付けて考えることができるような発問を工夫することにより，目標を達成することができるであろう。

(3) 展 開

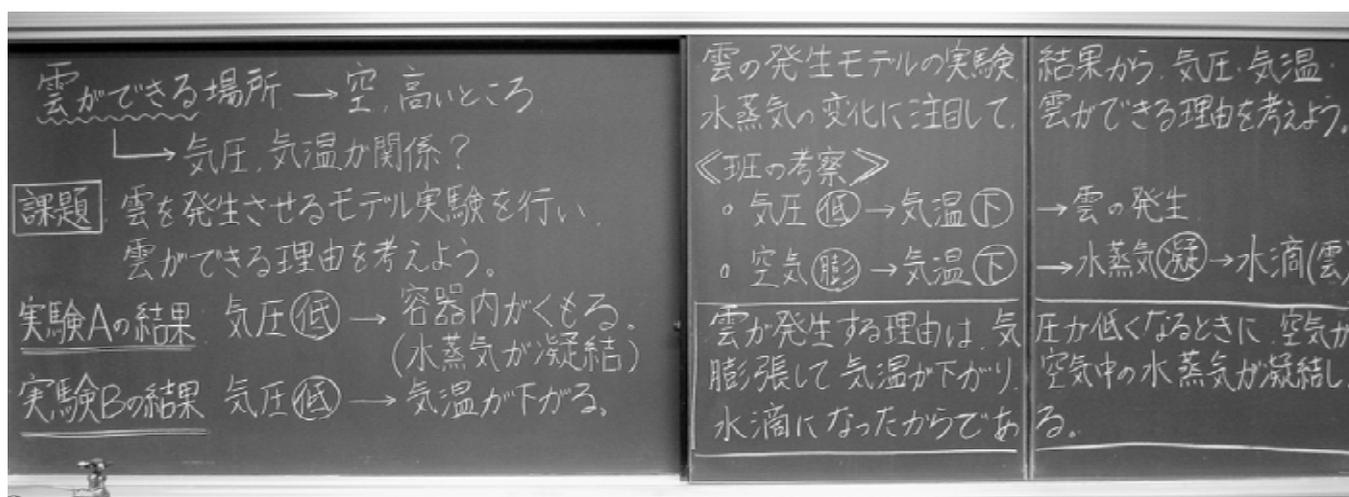
教師の活動	生徒の活動	評 価
<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <p>「この前は，雲がなぜできるのかについて考えました。ところで，雲は何でできていましたか。」</p> <p>「では，雲はどのような場所でできるのですか。」</p> <p>「標高の高い所は，標高の低い所と比べ，どのような違いがある</p>	<p>1 前時の学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水滴や氷の結晶が集まったもの。 ・水蒸気の変化したもの。 <p>・空です。</p> <p>・高いところでは。</p> <p>・寒いです。</p> <p>・気圧が低い。</p>	

第IV章

<p>でしょうか。」 「それでは、雲ができることには、何が関係していますか。」</p> <p>2 本時の学習内容を提示する。</p>	<p>・気温と気圧が関係していそうだ。</p> <p>2 本時の学習内容を確認する。</p>	
<p>雲を発生させるモデル実験を行い、雲ができる理由を考えよう。</p>		
<p>3 気圧計の読み方と実験A(容器内の気圧を低くし、雲を発生させるモデル実験)を説明する。 「内側の目盛りを使います。目盛り1つ分が10hPaを表しています。現在の気圧は？」 「容器内の空気中の水蒸気を増やすために、容器の中を湿らせます。」 「空気中のちりやほこりを増やすために、線香の煙を入れます。」</p> <p>4 実験Aにより、気圧を低くして水蒸気を凝結させ、実験の様子をまとめさせる。 「気圧を低くしたときの、容器内の変化を観察しよう。」</p> <p>★気圧が下がると、温度が低下し、容器内の水蒸気が凝結することに着目させ、記録させる。</p> <p>5 実験Aの結果を確認させる。 「気圧を低くしたときに、容器内はどのように変化しましたか。」 「何がどのように変化したから、容器内が曇ったのでしょうか。」</p> <p>6 実験B(気圧を低くしたときの気温の変化を調べる実験)の方法を説明する。 「気圧を低くしたときに、なぜ水蒸気が凝結したのだろう。」 「気温の変化を調べるために、何を使ったらよいだろう。」</p> <p>7 実験Bにより、気圧を低くしたときの気温の変化を確認させる。 「気圧を低くしたとき、気温はどのように変化するか調べよう。」</p> <p>8 実験Bの結果を確認させる。 「気圧が低くなると、気温はどうなりましたか。」</p>	<p>3 気圧計の読み方と実験Aの方法を知り、容器内を湿らせる目的と線香の煙の役割を知る。 ・今の気圧は、1040hPaです。</p> <p>4 グループごとで実験Aを行い、雲が発生する様子を観察する。 ・曇りだしたぞ。 ・煙みたいだ。</p> <p>5 実験Aの結果を発表する。 ・気圧を下げることで、容器内が曇りました。 ・水蒸気の変化して、小さな水滴になった(凝結した)から。</p> <p>6 実験Bの方法を確認する。 ・気温が低くなったからです。 ・温度計です。</p> <p>7 グループごとに実験Bを行い、気圧を低下させたときの、気温の変化を記録する。</p> <p>8 実験Bの結果を発表する。 ・3度下がりました。 ・2度下がりました。</p>	<p>〈技〉学習プリント</p> <p>A 雲のでき方を調べるための観察を行い、水蒸気が凝結する様子を気圧の低下と空気の膨張、気温の低下の3つの視点で観察・記録している。</p> <p>B 雲のでき方を調べるための観察を行い、気圧が下がったことによる気温の低下で、水蒸気が凝結したことを観察・記録している。</p>

<p>9 実験A・Bの結果から、雲が発生する理由をまとめさせる。</p>	<p>9 実験A・Bの結果から、雲が発生する理由について、既習事項を基に考え、まとめる。</p>	<p>〈思〉学習プリント A 雲が発生する理由は、気圧と気温の低下により、空気中の水蒸気が凝結するためであることに加え、空気の上昇や膨張も記述している。</p>
<p>主発問 「雲の発生モデルの実験結果から、気圧・気温・水蒸気の変化に注目して、雲ができる理由をまとめよう。」</p>	<p>・気圧が下がることで、気温が低下する。気温が低下すると、空気中の水蒸気が冷やされ、水蒸気が凝結して水滴となり、雲が発生します。</p>	<p>B 雲が発生する理由は、気圧と気温の低下により、空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述している。</p>
<p>★気圧の低下と気温の低下により、水蒸気はどうか考え、記述させる。</p>		
<p>10 グループ内で自分の考察を交流させ、グループの考察をまとめさせる。</p>	<p>10 グループ内で自分の考察を交流し、グループの考察をまとめる。</p>	
<p>11 グループの考察を発表させ、それらを基に本時のまとめをする。</p>	<p>11 グループの考察を発表し、本時のまとめを確認する。</p>	
<p>雲が発生する理由は、気圧が低くなるときに、空気が膨張して気温が下がり、空気中の水蒸気が凝結し、水滴になったからである。</p>		
<p>12 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。</p>	<p>12 本時の学習を振り返り、雲が発生する理由を確認する。</p>	

(4) 板書計画



第IV章

7 本時の授業記録及び分析

時間	教師の活動	生徒の活動
13:25	<p>○前時の学習内容を確認する。</p> <p>T 前回、雲がなぜできるのだろうかということについて考えました。まず1つ思い出してもらいたいことがあります。雲は何でできているでしょうか。</p> <p>T そうですね。細かな水滴や氷の結晶というのは、元はと言えば何だったのでしょうか。</p> <p>T 空気中の水蒸気の変化することによって、この細かな水滴・氷の結晶ができています。まずはこれが1つ、大事なことです。</p> <p>T 2つ目は何かというと、雲ができる場所なんです。雲はどのような所にできましたか。</p> <p>T いいですね。空とか高い所ですね。じゃあ、みんなが住んでいる標高の低い場所と山の頂上のような標高の高い場所を比べたときに何が違いますか。</p> <p>T 大気圧、そうですね。もうちょっと詳しく言うと、どうなんですか。</p> <p>T 高い所っていうのは、大気圧がまず小さい。他に気象要素として何がある。高い場所、山の頂上、みんな、上がったときをイメージしてごらん。</p> <p>T 気温が高いところはどうなんでしょう。</p> <p>T 旭岳の頂上は今見えるように、雪が積もっている。高い所に行くと、気温も変わるんですね。では、高い所というのは、気圧が低くて、気温も低い。雲ができるのには、何が関係していそうですか。</p> <p>T 雲ができることは、どうやら、気温や気圧が関係しているのではないかと考えられます。</p>	<p>S 細かな水滴や氷の結晶。</p> <p>S 水蒸気。</p> <p>S 空や高い所。</p> <p>S 大気圧。</p> <p>S 小さくなる。</p> <p>S 気温。</p> <p>S 寒い。</p> <p>S 気圧や気温。</p>
13:30	<p>○本時の学習内容を提示する。</p> <p>T それでは、今日の課題(学習内容)です。</p>	
	<p>雲を発生させるモデル実験を行い、雲ができる理由を考えよう。</p>	
	<p>T 今日やることは何かというと、雲を発生させるモデル実験を通して、皆さんに雲ができる理由を考えてもらいます。</p> <p>T まず始めに実験Aをやります。実験Aは実際に気圧を低くしたとき、雲を発生させるモデル(実験)で、本当に雲ができるかどうか確かめます。</p> <p>T 気圧の変化は目に見えるかな。</p> <p>T 何を使ったらいいと思いますか。</p> <p>T 風船。気象観測のときに気圧を測るための道具は、何を使いましたか。</p>	<p>S 分からない。</p> <p>S 風船。</p> <p>S 気圧計。</p>
13:35	<p>○気圧計の読み方を説明する。</p> <p>T 気圧計を使います。この気圧計の使い方を説明します。近くのテレビを見てください。</p>	

T 目盛りだけど、内側の目盛りと外側の目盛りがあります。内側の目盛りを使ってください。

T アップ(テレビ画面で気圧計を拡大)にすると、幾つって書いてある。

T 下は600, 上は1,000までです。この目盛りを見てください。もう少しアップにします。

T 950と1,000の間が5分割されているので、1目盛りは幾つだろう。

T 気圧の場合は単位を忘れてはいけません。

T 1目盛り10hPaです。1目盛りが10hPaで、目盛りと目盛りの間に小さい半分くらいの目盛りがあるでしょう。これが何かというと、ちょうど半分なので、幾つですか。

T 今の気圧は。

T この読み方をしっかり覚えておいてください。

S 600。

S 1,000。

S 10。

S 10 hPa。

S 5。

S 1,014 hPa。

13:39

○実験Aの方法を説明する。

T 実験Aの説明をするので、前の方に集まってください。

実験A, 実際に気圧計を使って気圧を低くしたのを確かめながら、雲ができるかどうか調べます。今日使う道具はこれです。(簡易真空容器を提示)

※以下, 実験Aの方法を説明し, 各班で実験を行わせる。

※前の方に集まる。

※実験Aの方法を聞き, 実験を行う。

気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察・記録する活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。生徒は、簡易真空容器を使い、気圧を低くしながら容器内を観察した。しかし、減圧がうまくいかなかったり、容器内が曇る様子をタイミングよく観察したりすることができず、全員の目標達成状況を見取ることはできなかった。

13:51

○実験Aの結果をまとめ、確認させる。

T どうなりましたか。気圧を低くしていくと。

T なぜ、白くなったのでしょうか。

T 何が変化したからでしょうか。

T 気圧を低くしたことによって、何が白くなって出てきたのでしょうか。

T 白くなったものは、何かというと、水蒸気が容器の中で変化したものです。水蒸気は目に見えるのか、見えないのか。

T 白く見えたということは、水蒸気が何に変化したのでしょうか。

T 水蒸気が細かい水滴になることを、この変化を何と言いましたか。

T そうですね。ここで今、水蒸気が凝結したんです。今さっき、「気温が低くなった。」と言いました。なぜ、気温が低くなったと考えましたか。

T 気温が低くなったのは目に見えますか。

T 気温の変化は目に見えないよね。けれども、ここで水蒸気が凝結するときというのは、ある条件がありました

S 白くなった。

S 温度が低くなったから。

S 気圧。

S 水蒸気。

S 見えない。

S 水滴。

S 凝結。

S 気圧が低くなったから。

S 目に見えない。

S 気温が下がる。



第IV章

ね。それは何でしょう。

T これを手がかりにして、気温が下がったのではないかと
いうことが考えられます。けれども、実際に皆さんの目
の前で気温が下がったというのは、確認できません。

13:55 ○実験Bの方法を説明する。

T 気温の変化を知るための道具って何ですか。

T そう、温度計です。実験Bで何をするかというと、気
圧を低くしたときに、気温の変化を調べます。

※以下、実験Bの方法を説明する。

S 温度計。

14:03 ○実験Bの結果をまとめ、確認させる。

T 気圧を低くしたときに、気温はどのように変化したか。

S 14.3℃。

T 14.3℃…最初は幾つでしたか。

S 21℃。

T 気温はどうになりましたか。

S 低くなった。

T 全ての班の結果を確認したのですが、全ての班で気温
が下がっていました。

14:05 ○実験A・Bの結果から、雲が発生する理由をまとめさせる。

T 実験を2つやって、この雲の発生モデルの実験結果か
ら、雲のできる理由を考えるのですが、3つのことに注
目してほしいです。

主発問

「雲の発生モデルの実験結果から、気圧・気温・
水蒸気の変化に注目して、雲ができる理由をま
とめよう。」

※主発問を板書する。

★気圧の低下と気温の低下により、水蒸気はどうか考
えるよう助言した。

※学習プリントに記入する。

※気圧と気温の低下と水蒸気の凝結とを関連付
けて考え、雲のでき方をまとめていた。

14:12 ○考察を発表し、本時の学習をまとめる。

T 考察を書き終わった人に発表してもらいます。



S Aの実験で気圧を低くすると容器の中は白
くなり、Bの実験で気圧を低くすると気温も
低くなった。このことから、雲ができる理由
は、大気圧が低くなって気温が低くなり、水
蒸気が凝結して雲ができると考えられる。

S 実験では、気圧を下げていくと気温は下が
り、水蒸気は凝結し細かな水滴となり、容器
の中が白く曇った。このことから、雲の発生
は、気圧が下がったときに、それに伴って気
温が下がることで、水蒸気が凝結し、発生す
ると考えられる。

T 考察では、「大気圧が低くなると気温が下がり、水蒸
気が凝結する」と考えていました。この気圧が低くなっ
て気温が下がるのが、この実験の中で大切なことです。
雲ができる理由は、気圧が下がることによって気温が下

がり、そうすると、水蒸気が冷やされて凝結し始めて細かな水滴に戻る。これで雲ができるという仕組みです。

本時の主発問は、目標達成に向けた主な手立てである。この主発問により、生徒は2つの実験結果を基に、「気圧と気温の低下」と「空気中の水蒸気の凝結」とを関連付けて考えることができた。

また、雲ができる理由を記述する活動は、目標達成状況を把握する主な評価場面である。生徒は、実験結果を基に、「気圧と気温の低下」と「空気中の水蒸気の凝結」とを関連付けて考え、雲が発生する理由は、「気圧と気温の低下により、空気中の水蒸気が凝結するためであること」を記述することができた。

14:15 T 次の時間は、より詳しく雲ができる理由をまとめます。それでは、授業を終わります。

◇本時の目標達成状況

主に雲が発生する様子と理由を学習プリントにまとめる場面において、目標達成状況を評価した。

雲が発生する様子が分かりにくかったため、気温の低下で、雲が発生する様子を全員が観察・記録することはできなかった。

雲が発生する理由は、「気圧と気温の低下により、空気中の水蒸気が凝結するためである」と記述することができた生徒は、56%であった。

なお、気圧と気温の低下の他に空気の上昇や膨張を理由として加え、記述するまでは至らなかった。

〈B「おおむね満足できる」と判断した生徒の学習プリント〉

実験Aで気圧を低くしたとき、雲ができるか調べると、容器が白くなった。
 実験Bで気圧を低くしたとき、気温の変化を調べると気圧を低くする前は10kPa、気温は21℃で、
 気圧を低くすると600hPa、気温は14.3℃という結果になった。
 この2つの実験結果から、気圧を低くするとともに気温も低くなり水蒸気が凝結して雲ができると考えられる。

実験Aでは気圧を低くすると雲が発生し、実験Bでは気圧を低くすると気温が下がった。このことから、気圧が低くなるとう気温が下がる。そのため、空気中の水蒸気が凝結され、細かな水滴や氷の結晶ができ、それが集まって雲になると考えられる。

実験結果から、気圧を低くすると気温が下がり、空気中の水蒸気が凝結して雲が発生するという考察を導き出すことができているので、B「おおむね満足できる」状況と判断した。

第Ⅳ章

8 実践を終えて

診断的評価による生徒の実態

本学級の生徒は、霧や雲のでき方や観察や実験に対する興味・関心は高かった。しかし、科学的に思考・表現することに苦手意識をもつ生徒が多く、実験・観察の結果から考察を書くことができない生徒も多かった。

単元の目標

身近な気象に関する事物・現象に進んでかかわり、雲の発生に関する観察・実験を行い、観測器具の基本的な扱い方や観測法及び観測結果から得られた気象データの記録の仕方を身に付けるとともに、雲のでき方と気圧、気温の変化との関連を見いだすことができるようにする。

本時における授業仮説の分析

本時における授業仮説について、目標達成状況との関連を以下のように分析した。

◎本時の目標

- ・気圧と気温の変化によって雲が発生したことを観察した結果から、雲ができる理由は、気圧が下がって気温が低下したことにより、空気中の水蒸気が凝結するためであることを記述できるようにする。

◇授業仮説

- ・実験結果を基に、「気圧と気温の低下」と「水蒸気の凝結」とを関連付けて考えることができるような発問を工夫することにより、目標を達成することができるであろう。

◆授業仮説に基づく分析

主発問「雲の発生モデルの実験結果から、気圧・気温・水蒸気の変化に注目して、雲ができる理由をまとめよう。」により、「気圧と気温の低下」と「水蒸気の凝結」を関連させ、雲ができる理由を記述することができた。しかし、既習事項である「空気の上昇や膨張」も関連させ、雲の発生する理由を記述するまでには至らなかった。

実践の成果と課題

本実践を終えての成果と課題は、以下の通りである。

〈成果〉

- ・「気圧の低下」、「気温の低下」、「水蒸気の凝結」の3つの事象に着目させる発問を工夫したことにより、雲ができる理由について考えることができた。
- ・実験結果に基づき、身近な自然現象と関連付けて、考察を書くことができるようになってきた。

〈課題〉

- ・気圧の変化による水蒸気の凝結を見やすくするための実験を工夫することや、他の実験と置き換える必要があった。
- ・考察を書く際に、既習事項である「空気の上昇や膨張」を想起できるような資料を掲示するなどの手立てが必要であった。

第V章 研究の成果と課題

1 成 果

2 課 題

上川教育研修センターでは、第15次研究の研究主題を「学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方」と設定し、目標達成に向けた授業構築についての研究を推進してきた。

その結果、第1年次の成果と課題を次のように明らかにすることができた。

1 成果

(1) 研究内容1について

- ① 問題解決的な学習過程の展開を1単位時間ごとと単元との2つに大別し、それらを基に指導計画を作成したことにより、単元全体を通して児童生徒一人一人に身に付けさせなければならない知識や技能、考え方などを明らかにすることができた。
- ② 1単位時間の目標を評価規準の内容を意識しながら具体化したことにより、1単位時間における指導内容が明確になり、目標達成に向けた指導の在り方を改善することができた。

(2) 研究内容2について

- ① 1単位時間の目標と、学習課題や学習内容を関連付けたことにより、課題解決に向けた授業展開の道筋が明確になり、目標の達成と児童生徒の課題解決とを一体化することができた。
- ② 発問を主発問と補助発問とに分け、課題解決に至るまでの発問を工夫したことにより、児童生徒の思考を促し、深めることができた。

(3) 研究内容3について

- ① 指導計画の各段階において計画的に評価し、「学習評価シート」に記録、蓄積したことにより、児童生徒の学習状況を適切にとらえることができ、目標を達成していない児童生徒に対し、具体的な手立てを講じることができた。
- ② 児童生徒の目標達成状況を把握するために、形成的評価の主な評価場面として書く活動を授業展開に位置付けたことにより、児童生徒一人一人に知識や技能、考え方などが身に付いているかどうか適切にとらえることができ、目標の達成につなげることができた。

2 課題

- 学習指導要領の指導事項と目標との関連性を高めるための方策を、吟味する必要がある。
- 単元の指導計画と問題解決的な学習過程とのかかわりについて、考えていく必要がある。
- 学習評価の妥当性、信頼性を高め、日常的に活用しやすい「学習評価シート」の在り方を考えていく必要がある。
- 診断的評価、形成的評価、総括的評価の関連性を高め、効果的・効率的な学習評価となるよう工夫する必要がある。

あ と が き

当センターでは、今年度より「学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方」を研究主題とし、3か年計画で第15次研究に取り組みました。

1年次である本年度は、本研究の理論構築を図り、より多くの学校で、より多くの先生方に使っていただける研究を目指して目標の重要性に着目しました。

また、理論と実践の一体化を図るために、研究員（東神楽町立東聖小学校、旭川市立神楽小学校）と研究協力校（当麻町立当麻小学校、旭川市立正和小学校、旭川市立知新小学校、旭川市立緑が丘小学校、旭川市立愛宕中学校）による授業実践を通して、理論の検証に取り組んでまいりました。

その成果を研究紀要第37号にまとめることができました。これもひとえに、北海道教育庁上川教育局並びに旭川市教育委員会の皆様の貴重なご指導とご助言、研究協力校の先生方の優れた実践、そして研究員所属校の先生方のご支援とご協力によるものと心より感謝申し上げます。

不十分な部分もあるとは存じますが、本紀要を校内研修、個人研究、日常実践などに広く活用していただくとともに、多くの皆様のご批正、ご指導をいただきましたら幸いに存じます。

平成24年度は、本年度構築した研究理論の具体化と、より多くの実践を加え、研究の成果について上川管内の先生方の期待に応え、これまで以上に研究を充実していくことができるよう全力を尽くしたいと考えております。

研究事業部長 玉 井 一 行

主 要 参 考 文 献

- ◇ 学習指導要領，学習指導要領解説（文部科学省）
- ◇ 初等教育資料，中等教育資料（文部科学省）
- ◇ 平成20年1月中央教育審議会答申（文部科学省）
- ◇ 評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）
- ◇ 上川教育研修センター研究紀要 第36号（上川教育研修センター）

研 究 協 力 校

当麻町立当麻小学校	校長	丸 山 優 子
旭川市立正和小学校	校長	小 西 信 輝
旭川市立知新小学校	校長	白 井 彰
旭川市立緑が丘小学校	校長	古 家 法 子
旭川市立愛宕中学校	校長	手 塚 真 一



上 川 教 育 研 修 セ ン タ ー

所 長
副 所 長
事 務 部 長
研 究 事 業 部 長
研 究 員

指 導 員

担 当 指 導 主 事

事 務 係

相 澤 政 義
山 下 尚 年
加 茂 千 秋
玉 井 一 行
三 好 雅 之
河 村 知 泰
貝 谷 雅 敏
常 盤 慎 一
北 川 真 美
小 野 義 幸
佐 藤 聖 士
藤 本 友 紀
伊 藤 文 江
吉 野 法 行
成 田 仁
櫛 部 治 彦
小 林 晴 美
笹 谷 青 子

旭 川 市 立 新 富 小 学 校
旭 川 市 立 永 山 小 学 校
当 麻 町 立 当 麻 中 学 校
旭 川 市 立 東 栄 小 学 校
旭 川 市 立 緑 が 丘 中 学 校
旭 川 市 立 神 楽 小 学 校
東 神 楽 町 立 東 聖 小 学 校
旭 川 市 立 愛 宕 東 小 学 校
旭 川 市 立 神 楽 岡 小 学 校
旭 川 市 立 聖 園 中 学 校
旭 川 市 立 光 陽 中 学 校
上 川 教 育 局 義 務 教 育 指 導 班
旭 川 市 教 育 委 員 会 教 育 指 導 課

研究紀要 第37号

学力の確実な育成を図る指導と評価の在り方
～目標達成に向けた授業構築～

発行 平成 24 年 3 月 31 日
発行者 上川教育研修センター
旭川市 6 条通 4 丁目
電 話 (0166)24-2501
F A X (0166)24-2512
E-mail:kami-cen@educet.plala.or.jp
印刷所 (有) 岡 本 印 刷
旭川市 6 条西 5 丁目
電 話 (0166)22-0752